

令和6年度第1回

朝霞市地域福祉計画推進委員会・朝霞市地域福祉活動計画推進委員会

次 第

日 時：令和6年5月13日（月）

午後2時00分から

場 所：朝霞市総合福祉センター

第1・第2会議室

1 開 会

2 福祉部長あいさつ

3 社協常務理事あいさつ

4 委員及び事務局紹介

5 議 題

（1）委員長及び副委員長の選任

（2）第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画の評価について

（3）第5期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画の策定について

（4）その他

6 閉会

朝霞市地域福祉計画推進委員会
朝霞市地域福祉活動計画推進委員会
委員名簿

	団 体 等	氏 名
1	学識経験者	かわ 村 岳 人 川 村 岳 人
2	学識経験者	まる やま あきら 丸 山 晃
3	学識経験者	みや もと ゆう じ 宮 本 雄 司
4	社会福祉法人常盤会 (大山保育園園長)	いけ だ たま き 池 田 玉 季
5	認定・埼玉県指定 NPO 法人メイあさかセンター	お いけ ふ み こ 尾 池 富 美 子
6	社会福祉法人朝霞地区福祉会 (朝光苑)	た ばた こう じ 田 畑 康 治
7	株式会社SHUHARI	なか むら とし や 中 村 敏 也
8	地域包括支援センター (つつじの郷)	にい ざか やす お 新 坂 康 夫
9	朝霞市地域防災アドバイザー	むら くし かつ み 村 串 克 己
10	サロン・おたっしゃくらぶ (高齢者サロン)	よこ た あき こ 横 田 暁 子
11	朝霞地区医師会 (なおあきクリニック 院長)	いけ だ なお や 池 田 直 弥
12	朝霞地区保護司会朝霞支部	い と う ちか みつ 伊 藤 允 光
13	朝霞地区シルバー人材センター	き むら ひろし 木 村 宏
14	朝霞市民生委員児童委員協議会	と き たか こ 土 佐 隆 子
15	朝霞市自治会連合会	なか むら か づ お 中 村 加 津 雄
16	公募市民	おか だ くに こ 岡 田 都 子
17	公募市民	お が わ りつ こ 小 川 律 子
18	公募市民	やま ぎし りょう 山 岸 亮

**朝霞市地域福祉計画推進委員会
朝霞市地域福祉活動計画推進委員会
事務局名簿**

(朝霞市)

福祉部	部長	さとう もとき 佐藤 元樹
福祉相談課	課長	やまき つよし 山木 健
福祉相談課 福祉相談係	係長	はぎわら ともこ 萩原 朋子
福祉相談課 地域福祉係	係長	ひらおか けんいち 平岡 謙一
福祉相談課 地域福祉係	主任	こま だいすけ 高麗 大輔
福祉相談課 地域福祉係	主任	しもかわ あきひで 下川 晃秀
〒351-8501 朝霞市本町 1 - 1 - 1 電話 ☎048-463-1594 (直通) F A X 048-463-1025		

(朝霞市社会福祉協議会)

朝霞市 社会福祉協議会	常務理事	わたなべ あつし 渡辺 淳史
地域福祉推進課	課長	しらき じゅんこ 白木 順子
地域福祉推進課 地域福祉推進係	課長補佐 兼係長	かみばば とおる 上馬場 徹
地域福祉推進課 地域福祉推進係	主査	あきやま しんじ 秋山 晋司
〒351-8560 朝霞市大字浜崎 5 1 - 1 電話 ☎048-486-2485 (直通) F A X 048-486-2418		

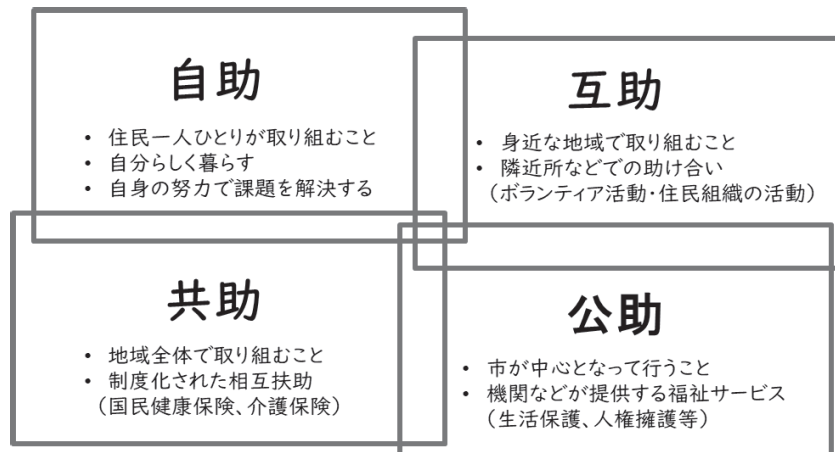
令和5年度
第4期朝霞市地域福祉計画
進行管理・評価シート(案)

委員会会議資料

朝霞市

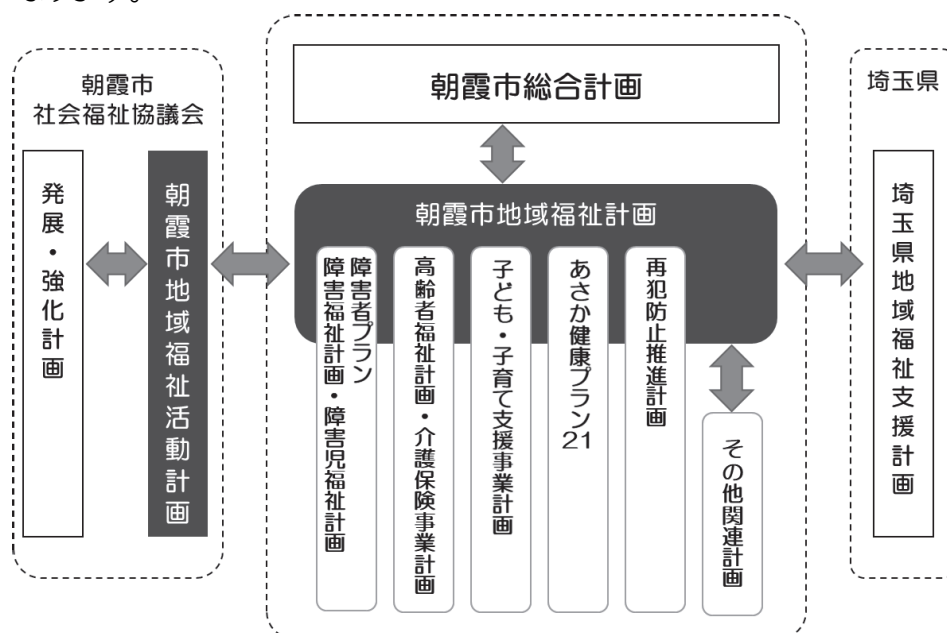
1 地域福祉とは

地域福祉とは、子どもから高齢者まで、障害のある人もない人も、誰もが住み慣れた地域の中で自分らしく生き生きと暮らしていくために、それぞれの役割を持ち、支え合いながら、安心して自立した生活が送れるようにするための取組のことをいいます。



2 関連計画の位置づけ

朝霞市地域福祉計画は、社会福祉法第107条に規定する「市町村地域福祉計画」として、朝霞市(以下「市」という。)における地域福祉推進の基本的指針を定めるものです。社会福祉法の改正により、福祉に関する各個別計画の上位計画としての位置づけが明確になったことにより、市の最上位計画である第5次朝霞市総合計画を基盤としながら、福祉に関する各個別計画(「第2期朝霞市子ども・子育て支援事業計画」、「第8期朝霞市高齢者福祉計画・介護保険事業計画」、「第5次朝霞市障害者プラン・第6期朝霞市障害福祉計画・第2期朝霞市障害児福祉計画」「あさか健康プラン21」との整合性を保ちながら、市における地域福祉施策の基本的な方向性を示すことになります。



また、朝霞市地域福祉活動計画は、社会福祉法人朝霞市社会福祉協議会(以下「社協」という。)が呼びかけて、住民、地域において社会福祉に関する活動を行う者、社会福祉を目的とする事業(福祉サービス)を経営する者が相互協力して策定する、地域福祉の推進を目的とした活動・行動計画です。主に自助、互助、共助を重点的に支援する範囲としています。

社協では、地域福祉を推進する団体としての使命や経営理念を明確にするために策定している朝霞市社会福祉協議会発展・強化計画との連携を図りながら計画を進めていきます。

市と社協では、この2つの計画が開始時期、策定の根拠などの経緯は異なるものの、互いに地域福祉の推進に資するという目的が同じであることから、第3期の計画(平成28(2016)年3月策定)において、基本理念や計画期間を統一することにより、相互に補完し合いながら計画を推進することとしました。

さらに、第4期の計画においては、市と社協のそれぞれの特性を生かしながら、さらに地域福祉を一体的に推進するため、地域福祉計画及び地域福祉活動計画(以下「本計画」という。)について、策定作業の過程から協働し、計画書自体も一体的に策定しました。

3 基本理念と基本目標

本計画では、市における今後5年間の地域福祉に関わる活動や取組を市民(地域住民)、関係団体、市及び社協が相互に連携して効果的に行うことにより、計画の基本理念である「支え合いの心を育み、誰もが地域でつながるまち」を目指していきます。

また、この基本理念を実現するために、基本目標を「仕組みづくり」、「心づくり」、「地域づくり」の3つに分けて定め、それぞれの施策に取り組んでいきます。

基本理念 支え合いの心を育み、誰もが地域でつながるまち

基本目標① 市民の暮らしを支える仕組みづくり

誰もが住み慣れた地域で安心して暮らしていくために、様々な各分野に共通するサービスを横断的に提供できる仕組みづくりについて取り組んでいきます。

基本目標② 思いやりと支え合いの心づくり

地域福祉の推進にあたり、福祉情報の提供や、支援に必要な情報の共有、さらに、福祉教育の充実、地域福祉を学ぶ機会の提供等、福祉に触れる機会を多く設けていくことを中心に取り組んでいきます。

基本目標③ 安心して暮らしやすい地域づくり

防災・防犯、住居の確保等、安心して暮らすことができる地域づくりに向けて取り組んでいきます。

4 進捗管理について

令和3年度から令和7年度までの5年間を実施機関とする第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画では、計画を立て(Plan)、実行し(Do)、その進捗状況を定期的に把握・評価したうえで(Check)、その後の取組を改善する(Action)、一連のPDCAサイクル(計画、実行、評価、改善)の構築に努めることとしています。

なお、計画の進行管理や評価を行うため、学識経験者や関係機関・市民活動団体の関係者、公募市民等で構成する「朝霞市地域福祉計画推進委員会」及び「朝霞市地域福祉活動計画推進委員会」(以下「推進委員会」という。)において、「主な取組等」、「指標・目標」に基づき、進捗状況の把握及び評価を行います。

また、社会環境の大きな変化や制度の変更などがあった場合には、必要に応じて、本計画に記載した内容以外にも施策や事業の充実等に努めていきます。



5 評価方法と重点施策について

- (1) 下記の記入方法に基づいて、事業担当課で進行管理・評価シートを作成することにより、自己評価、振り返りを行いました。

R5年度						
第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート						記入方法
部局名	福祉部	課名	福祉相談課	係名	地域福祉係	
第4期計画掲載内容	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(9)地域				
	事業名	①民生委				
	事業概要	地域福祉の担い手である民生委員児童委員の活動を支援し、欠員地区の委員補充、現任委員のスキルアップを図る。				
上記の事業について、R5年度に行った取組内容を具体的に記入してください。						
1 取組み内容・成果・進捗状況						
R5年度の実績値(見込み)を記入してください。		注)R4年度の実績値(見込み)は、昨年度の照会回答で記入していただきましたが、R4年度の実績値に修正がある場合は、修正後の数値を記載し、アンダーラインで修正したことがわかるようにしてください。				
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
民生委員児童委員延べ活動日数	目標値	14,400日	14,400日	14,400日	14,400日	14,400日
	実績値	11,003日	11,639日	10,000日		
進捗状況及び自己評価		① 令和5年度の取組内容について、自己評価をお願いします。指標の達成状況や、成果が上がった理由(または上がらなかった理由)等についてご記入ください。また、取組の成果として、目に見えないような(数値に表せない)成果があれば、併せてご記入ください。 ② 右欄を参考にA～Cで判定してください。 B A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				
2 課題・今後の取組み方針						
課題	令和5年度の取組内容に係る課題についてご記入ください。					
今後の取組み方針	令和6年度以降の取組方針についてご記入ください。(拡大、縮小、廃止等)					
3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)						
高齢者や障害のある人登下校時などの見守り	上記の事業推進のために、市民や地域の方々に協力してもらいたいことがあれば、追記・修正をお願いします。					
4 推進委員会の意見(評価)						
地域福祉計画推進委員会でのいただいた意見について、事務局で取りまとめて記入します。						

(2)推進委員会では、各担当課で作成した進行管理・評価シートに基づいて報告を行い、取組状況や成果、進捗状況、今後の取組方針等について意見をいただきました。

(3)計画には、131の事業(市86事業、社協45事業)が記載されており、取り組み毎にシートを作成し、提示することになりますが、その中でも特に重点的に評価を行う施策を、以下の5つに定め、5年間を通じて、経年の進行管理を行うとともに評価をしていきます。

◇◇◇重点的に評価を行う施策◇◇◇

方向性(1) 地域共生社会の実現に向けた仕組みづくり

方向性(2) 相談支援体制の充実

方向性(7) 地域福祉に関する理解と参加の促進

方向性(10) 情報共有・発信の充実

方向性(13) 防災対策の充実

その他、単年度毎に主要に取り組んだ施策に関しても、市と社協がそれぞれ報告を行います。

(3)推進委員会での検証結果や意見は、各担当課にフィードバックし、事業の推進や事業内容の見直しを図ります。

6 朝霞市地域福祉計画 施策体系別事業進捗状況

基本目標	施策の方向性	事業名	担当課	頁	進捗状況				
1 市民の暮らしを支える仕組みづくり					R3	R4	R5	R6	R7
	(1)地域共生社会の実現に向けた仕組みづくり	1 重層的支援体制整備事業の検討	福祉相談課	9	C	B	B		
		2 生活困窮者・世帯の自立支援	福祉相談課	10	A	A	A		
		3 地域包括ケアシステムの深化	長寿はつらつ課	11	B	A	B		
		4 児童虐待への対応	こども未来課	12	B	A	A		
		5 市民参画と協働による地域づくりの促進	政策企画課	13	A	B	B		
	(2)相談支援体制の充実	1 福祉の総合相談	福祉相談課	14	A	A	A		
		2 障害者相談支援	障害福祉課	15	A	A	B		
		3 精神保健福祉相談	障害福祉課	16	A	A	A		
		4 障害者相談支援センター等による相談	障害福祉課	17	B	A	A		
		5 高齢者総合相談	長寿はつらつ課	18	A	A	B		
		6 子ども家庭総合支援拠点の整備	こども未来課	19	A	A	A		
		7 女性総合相談・DV相談	人権庶務課	20	A	A	A		
		8 人権相談	人権庶務課	21	B	B	A		
		9 消費生活相談	地域づくり支援課	22	B	B	B		
	(3)保健医療・社会福祉サービスの充実	1 地域医療の確保	健康づくり課	23	A	A	A		
		2 各種健(検)診事業の促進	健康づくり課	24	C	B	B		
		3 妊娠・出産包括支援	健康づくり課	25	A	A	A		
		4 自殺対策の推進	健康づくり課	26	B	B	B		
		5 地域活動支援センター及び生活ホームへの支援	障害福祉課	27	A	A	A		
		6 介護サービスの基盤整備	長寿はつらつ課	28	B	B	A		
		7 在宅医療・介護の連携強化	長寿はつらつ課	29	B	B	B		
		8 保育士の雇用環境の改善	保育課	30	B	B	B		
	(4)権利擁護の推進	1 成年後見制度の利用促進	障害福祉課 長寿はつらつ課	31	A	A	A		
		2 障害者虐待の防止	障害福祉課 (障害者虐待防止センター)	32	B	B	B		
		3 高齢者虐待の防止	長寿はつらつ課	33	B	B	B		
		4 児童虐待の防止	こども未来課	34	B	A	A		
	(5)生活困窮者等への支援の充実	1 生活困窮者・世帯の自立支援(再掲)	福祉相談課	35	A	A	A		
		2 生活保護の適正な運営	生活援護課	36	A	A	A		
		3 生活困窮者等の学習支援	福祉相談課 こども未来課	37	A	B	B		
		4 内職相談	産業振興課	38	B	B	B		
	(6)地域住民の交流の促進	1 総合福祉センターの利用	福祉相談課	39	B	B	B		
		2 老人クラブ会員による世代間交流	長寿はつらつ課	40	C	C	B		
		3 生活支援体制整備事業の推進	長寿はつらつ課	41	C	B	B		
		4 生きがい活動の支援	長寿はつらつ課	42	B	B	A		
		5 多文化共生への理解の促進	地域づくり支援課	43	B	B	B		
		6 地域団体間の交流・連携の促進	地域づくり支援課	44	C	B	A		

基本目標	施策の方向性	事業名	担当課	頁	進捗状況				
2 思いやりと支え合いの心づくり					R3	R4	R5	R6	R7
	(7)地域福祉に関する理解と参加の促進	1 地域福祉講演会の開催	福祉相談課	45	C	C	A		
		2 スポーツ・レクリエーションの集いの開催	障害福祉課	46	C	B	B		
		3 ふれあいスポーツ大会の開催	障害福祉課	47	C	B	B		
		4 市民参画と協働による地域づくりの促進(再掲)	政策企画課	48	A	B	B		
		5 市民活動の周知・啓発及び参加の促進	地域づくり支援課	49	B	B	B		
		6 スポーツの振興	生涯学習・スポーツ課	50	B	B	B		
	(8)支え合い・助け合いの気持ちの醸成	1 認知症への理解の促進	長寿はつらつ課	51	B	B	B		
		2 学校における福祉教育の充実	教育指導課	52	B	B	A		
		3 人権教育の推進	生涯学習・スポーツ課	53	A	A	B		
	(9)地域での見守りの充実	1 民生委員児童委員の活動支援	福祉相談課	54	B	B	B		
		2 地域包括支援センターと関係機関の連携	長寿はつらつ課	55	B	B	B		
		3 安心見守り支援	長寿はつらつ課	56	A	A	B		
		4 児童相談所等との連携	こども未来課	57	B	A	A		
	(10)情報共有・発信の充実	1 多職種参加の地域ケア会議の実施	長寿はつらつ課	58	B	B	B		
		2 介護保険制度の周知	長寿はつらつ課	59	B	B	B		
		3 子育て情報誌の作成	こども未来課	60	A	A	A		
		4 広報の充実	シティ・プロモーション課	61	B	B	A		
		5 避難行動要支援者支援制度の推進	障害福祉課 長寿はつらつ課 危機管理室	62	A	A	A		
	(11)地域福祉を支える団体の活性化・人材の育成	1 地域保健福祉活動振興事業費補助金の交付	福祉相談課	63	B	B	B		
		2 老人クラブへの支援	長寿はつらつ課	64	C	B	B		
		3 介護人材の育成	長寿はつらつ課	65	B	B	B		
		4 生活支援コーディネーターによる地域活動団体支援	長寿はつらつ課	66	B	B	B		
		5 認知症総合支援	長寿はつらつ課	67	A	B	B		
		6 青少年の健全育成	こども未来課	68	C	B	B		
		7 心の健康づくりの推進	健康づくり課	69	B	A	B		
		8 コミュニティ活動の活性化	地域づくり支援課	70	C	C	B		
		9 コミュニティ活動への参加促進	地域づくり支援課	71	C	B	B		
		10 市民活動の活性化	地域づくり支援課 (市民活動支援ステーション)	72	B	B	B		

※ 部分は、重点的評価施策

基本目標	施策の方向性	事業名	担当課	頁	進捗状況					
3 安心して暮らしやすい地域づくり					R3	R4	R5	R6	R7	
	(12)施設等の整備・充実	1 公共施設の修繕・改修	財産管理課	73	A	B	B			
		2 公共施設のバリアフリー化	財産管理課	74	A	A	A			
	(13)防災対策の充実	1 避難行動要支援者支援制度の推進(再掲)	障害福祉課 長寿はつらつ課 危機管理室	75	A	A	A			
		2 防災意識の高揚	危機管理室	76	A	A	A			
		3 自主防災組織の結成促進	危機管理室	77	C	B	B			
	(14)防犯対策の充実	1 防犯情報の発信	危機管理室	78	A	A	A			
		2 防犯活動の推進	危機管理室	79	A	A	A			
		3 消費生活相談(再掲)	地域づくり支援課	80	B	B	B			
	(15)外出・移動の支援	1 重度心身障害者福祉タクシー利用料等の補助	障害福祉課	81	A	A	A			
		2 高齢者バス・鉄道共通カードの給付	長寿はつらつ課	82	A	A	A			
		3 市内循環バス等の利便性向上	まちづくり推進課	83	B	A	A			
		4 自転車駐車場の整備	まちづくり推進課	84	B	B	A			
	(16)住まいの確保等への支援	1 住居確保給付金の支給(再掲)	福祉相談課	85	A	A	A			
		2 高齢者への住宅支援	長寿はつらつ課	86	A	A	A			
		3 住宅政策	開発建築課	87	B	A	A			
	(17)再犯防止の推進(再犯防止推進計画)	1 更生保護関係団体への支援	福祉相談課	88	B	B	B			
		2 更生保護サポートセンターの支援	福祉相談課	89	B	A	A			
		3 社会を明るくする運動	福祉相談課	90	B	B	A			
		4 再犯防止に関する広報の推進	福祉相談課	91	A	A	A			
		5 生活困窮者自立支援	福祉相談課	92	A	A	A			
		6 青少年健全育成啓発キャンペーン	こども未来課	93	C	C	A			
		7 非行防止教室の実施	教育指導課	94	B	A	A			

※ 部分は、重点的評価施策

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	福祉相談課	係 名	地域福祉係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(1)地域共生社会の実現に向けた仕組みづくり				
	事業名	①重層的支援体制整備事業の検討				
	事業概要	既存の相談支援等の取り組みを活かしつつ、地域住民の複雑化・複合化した支援ニーズに対応する包括的な新たな支援体制を構築するために、相談支援、参加支援、地域づくりに向けた支援を一体的に実施する事業について検討していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	地域住民の複雑化・複合化した支援ニーズに対応する包括的な支援体制の構築に向けて検討していくため、情報収集や調査・研究に努めた。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
重層的支援体制の構築	目標値	—	検討	検討	検討	検討
	実績値	—	情報収集・研修	情報収集・研修		
進捗状況 及び 自己評価	福祉部内で重層的支援体制に関する研究チームを作り、社会福祉協議会の職員と、県内自治体へ視察(ふじみ野市、越谷市)を行うとともに、国・県の研修会等に参加し、情報収集に努めた。今後も包括的な支援体制の構築に向けた情報収集、調査・研究に努める。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	地域住民が抱える課題が複雑化・複合化する中、従来の属性別の支援体制では複合的な課題や多様な分野への対応が困難となっている。
今後の取り組み方針	埼玉県が実施しているアドバイザー派遣事業制度を利用するとともに、国・県の研修会等への参加を通じて他自治体の取組等の情報収集に努める。また、庁内連携の方法や課題等を把握し、当該事業の検討を行っていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

支援体制を構築する中で、支援ニーズについて情報交換等の機会への協力

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	福祉相談課	係 名	福祉相談係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(1)地域共生社会の実現に向けた仕組みづくり				
	事業名	②生活困窮者・世帯の自立支援				
	事業概要	生活困窮者の自立の促進を図るために、生活困窮者自立支援法に基づき、相談や就労支援、学習支援、住居確保給付金の支給などの各種支援を実施します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	生活困窮者自立支援法に基づき、生活困窮者に対して市町村の必須事業とされている自立相談支援事業及び住居確保給付金の支給、任意事業の学習支援事業及び家計改善支援事業を実施した。 (R5年度実績) 住居確保給付金 決定件数12件、支給件数33件、総支給額1,542,900円 学習支援事業 学習教室 年46回、利用者数31人 内訳(中学生20人、高校生10人、高校生世代※1人) ※中学校修了後、18歳に達する日以降の最初の3月31日までの間にある方 家庭訪問 年120回(延べ) 利用者数10人 内訳(中学生5人、高校生4人、高校生世代1人) 家計改善支援事業 実人数22人、延べ相談件数45件 ※7月より事業開始 生活困窮者自立支援法で規定する支援会議を設置 ※4月より設置 実施回数2回					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
生活困窮に関する相談件数	目標値	600件	600件	600件	600件	600件
	実績値	1,772件	1,424件	850件		
進捗状況及び自己評価	生活困窮に関する相談件数は、コロナ禍前に戻つつあるが、令和5年度は、経済的困窮をはじめとして就労活動困難、病気、住まいの不安定、家庭の課題、メンタルヘルス、家計管理の課題、就労定着困難、債務問題など多岐に渡り、1ケースあたりの支援時間も長くなっている傾向があった。 また、様々な関係機関(庁内・庁外)との調整や連携を必要とする業務特性より、令和5年4月に生活困窮者自立支援法で規定する支援会議を設置し、関係機関等がそれぞれ把握している困窮が疑われるような個々の事案の情報共有を行い、支援の検討を行うことができた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	複雑化かつ多様化している生活困窮者の有する課題に対応するためには、就労、家計など様々な面から自立に向けた包括的な支援を提供できる体制を整えていく必要がある。
今後の取り組み方針	生活の困窮に関わる相談を含め、日常生活における様々な困りごとや悩みごとをはじめ、ひきこもりの方、8050問題など、複合化かつ複雑化する問題を包括的に受け止められる相談体制などを検討していく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

生活に困窮している人を身近で見かけたときに、相談先を案内する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	長寿はつらつ課	係 名	地域包括ケア推進係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(1)地域共生社会の実現に向けた仕組みづくり				
	事業名	③地域包括ケアシステムの深化				
	事業概要	介護や支援の必要性に関わらず、住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、各種事業を実施します。 地域包括支援センターでは、地域包括ケアシステムの推進拠点としての機能強化を進めながら、高齢者等の総合相談支援、権利擁護、包括的・継続的ケアマネジメント支援等の包括的支援事業を実施します。 また、在宅医療・介護連携推進事業、生活支援体制整備事業、地域ケア会議運営事業、認知症総合支援事業を行うとともに、高齢者虐待防止事業や、成年後見制度利用支援事業等を進めていきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	各地域包括支援センターで高齢者等の総合相談支援などを実施する。 各地域包括支援センターの業務運営に支障がないよう必要な支援を行う。 地域包括支援センターの機能強化に向けた検討を行う。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
地域包括支援センターの数	目標値	5か所	6か所	6か所	6か所	6か所
	実績値	5か所	6か所	6か所		
進捗状況 及び 自己評価	市民を対象とした介護保険制度説明会などを通じて、地域包括支援センターの役割や自助・互助の取組について周知することができた。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	総合相談等だけではなく、地域ケア会議や生活支援体制整備事業等の包括的支援事業において、地域包括支援センターが主体的に、医療や介護の専門職、地域住民と連携した取組が行えるような支援に課題がある。
今後の取り組み方針	地域包括支援センターが各専門職等と効率的な連携ができるような体制を整備する。 地域共生社会を見据えた基幹型地域包括支援センターの設置に向けた検討を行う。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

地域包括ケアシステムの必要性を理解し、自助・互助の意識を高める。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	こども・健康部	課 名	こども未来課	係 名	こども相談係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(1)地域共生社会の実現に向けた仕組みづくり				
	事業名	④児童虐待への対応				
	事業概要	要保護児童対策地域協議会の代表者会議及び実務者会議を定期開催し、体制づくりや情報共有など関係機関との連携強化を図るとともに、個別支援会議を適宜開催し、児童虐待対応に取り組めます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	要保護児童対策地域協議会の代表者会議及び実務者会議を開催し、関係機関との情報共有や方針の検討を行ったほか、個別支援会議を開催し連携して児童虐待対応に取り組んだ。 児童虐待に関する通告について、要保護児童対策地域協議会関係機関に対し通知するなど、関係機関が把握した気になる家庭の情報を、調整機関であるこども未来課に集約するための働きかけを行った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
要保護児童対策地域協議会実務者会議の開催回数	目標値	6回	6回	6回	6回	6回
	実績値	6回	6回	6回		
進捗状況 及び 自己評価	要保護児童対策地域協議会の代表者会議及び実務者会議など計画していた会議を実施することで、児童虐待の早期発見・早期対応や体制づくりにつなげることができた。 個別支援会議を積極的に開催し、児童虐待ハイリスク家庭ばかりではなく、関係機関が連携して見守りを要する家庭の支援にあたることができた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	要保護児童対策地域協議会の関係機関が、児童虐待に対して連携した対応が行えるよう、各関係機関の当事者意識の醸成など、連携強化について検討する必要がある。
今後の取り組み方針	要保護児童対策地域協議会の代表者会議をはじめとする会議や、広報・通知など様々な機会を捉えて、児童虐待対応について周知・啓発に努めるとともに、関係機関と連携しながら児童虐待対応を行う。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

子どもの養育に不安を抱える家庭を把握した際、こども未来課に相談するように促し、つなげる。
子どもの養育に心配な様子がある、児童虐待が疑われるなどの状況があった場合には、児童相談所、警察、こども未来課に通告する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	市長公室	課 名	政策企画課	係 名	政策企画係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(1)地域共生社会の実現に向けた仕組みづくり				
	事業名	⑤市民参画と協働による地域づくりの促進				
	事業概要	講座や講演会等の開催を通し、地域での活動に関心を持つ人材を発掘するとともに、お互いのつながりづくりのきっかけとなる機会を提供することで、これから実際に地域に関与する活動に取り組む担い手を育成します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	(1)第6次朝霞市総合計画策定のため、市民ワークショップや分野別市民懇談会を開催し、未来の朝霞市について、市民と意見交換を行った。 (2)市民参画と協働を推進するため、職員向けの講演会を開催した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
市民参画に係る講座・講演会の開催回数	目標値	1回	1回	1回	1回	1回
	実績値	1回	0回	3回		
進捗状況 及び 自己評価	今年度から策定に取り掛かっている総合計画への意見の反映のため、市民から直接意見を伺う機会を設けることができた。 また、市民参画と協働を推進するために、他自治体の事例や取り組み方法についての講演会を開催し、87名の職員が参加した。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	市民ワークショップや分野別市民懇談会においても、参加者や世代が固定化しているため、引き続き職員、市民ともに市民参画の機運醸成が重要と捉えている。特に、市民参画や協働に対する職員の意識啓発が課題である。
今後の取り組み方針	職員研修会を開催することで、市民参画、市民との協働について、庁内体制を整備し、職員の意識啓発を図っていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

市が実施する講座等に積極的に参加するとともに、参加を契機として、参加者同士がつながりを深め、地域での実際の活動に取り組む。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	福祉相談課	係 名	福祉相談係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(2)相談支援体制の充実				
	事業名	①福祉の総合相談				
	事業概要	高齢者の困りごと相談をはじめ、生活困窮など複雑化・複合化した様々な相談に対応していくほか、アウトリーチを含む早期的な対応や本人・世帯を包括的に受け止めるなどの支援に努めます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	福祉に関する様々な相談を受け、関係部署や関係機関と連携しながら、必要な支援につなげた。必要に応じ、訪問による支援を行った。また、相談を受けた市職員が、適切に必要な支援へつなげられるよう福祉相談アドバイザー事業を実施し、活用した。 (令和5年度実績) 総合相談延べ件数1,000件、訪問延べ件数35件で、主な相談内容として、生活困窮に関すること、高齢者に関すること、家族・親族の悩み、トラブルに関するものの順に多かった。 福祉相談アドバイザー事業利用実績 年2回					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
福祉の総合相談件数	目標値	1,400件	1,400件	1,400件	1,400件	1,400件
	実績値	1,994件	1,686件	1,000件		
進捗状況 及び 自己評価	生活困窮に関する相談件数は、コロナ禍前に戻りつつあるが、令和5年度は、経済的困窮をはじめとして就労活動困難、病気、住まいの不安定、家庭の課題、メンタルヘルス、家計管理の課題、就労定着困難、債務問題など多岐に渡り、1ケースあたりの支援時間も長くなっている傾向があった。また、様々な関係機関(庁内・庁外)との調整や連携を必要とする業務特性より、令和5年4月に生活困窮者自立支援法で規定する支援会議を設置し、関係機関等がそれぞれ把握している困窮が疑われるような個々の事案の情報共有を行い、支援の検討を行うことができた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	福祉ニーズの多様化・複雑化によって、制度の狭間に陥っているケースや、複合的に分野をまたがる困難ケースなど様々な相談を受けることから、支援員の資質向上や庁内関係部署及び庁外の福祉事務所やハローワークといった関係機関との連携強化が必要である。
今後の取り組み方針	支援員の資質向上のため、研修等に参加するとともに、様々な制度等の情報収集に努める。また、複合的に分野をまたがる困難ケース、ひきこもりケースなど、タイムリーな支援に繋ぐため、関係部署や関係機関を含めた支援会議を積極的に開催し、支援の連携強化を行っていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

ひきこもりなど、問題を抱えている方(本人及び家族)へ、近所からの声掛けや相談先の案内を行う。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	障害福祉課	係 名	障害福祉係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(2)相談支援体制の充実				
	事業名	②障害者相談支援				
	事業概要	指定特定相談支援事業所等が障害児者とその保護者に対し、必要なサービスや制度の案内を行うとともに、困り事などの相談に対応していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・障害福祉サービスを利用者に対して、サービス等利用計画の作成を促す。 ・市内特定相談支援事業者等に対して、研修の案内や情報共有する機会を設け質の向上を目指す。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
計画相談支援月間実利用者数	目標値	360人	402人	450人	504人	565人
	実績値	371人	410人	456人		
進捗状況 及び 自己評価	計画相談支援の利用は継続しているが、新規利用希望者の受け入れができていない状況。セルフプラン利用者に対しプラン作成の補助を行うと同時に、計画相談を促す方法を検討していく。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	・一時的にセルフプランで支給決定された利用者に計画相談支援事業所の利用を促す必要がある。 ・新規利用希望者に計画相談について周知する必要がある。
今後の取り組み方針	・障害福祉サービスの利用者は、サービス等利用計画の作成を促し、必要なサービスを利用できるようにする。 ・セルフプラン作成者に対してもサービス等利用計画の作成を促す。 ・各相談支援専門員の質の向上を目指す。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

障害福祉サービス等の利用を検討している方に対して、積極的に相談するよう促し、つなげる。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	障害福祉課	係 名	障害福祉係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(2)相談支援体制の充実				
	事業名	③精神保健福祉相談				
	事業概要	主に精神障害のある人やその家族の困りごとなどに対して、精神保健福祉士が相談に対応していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	精神保健福祉士による専門相談を月2回実施。広く市民に利用してもらえるよう、また、相談支援専門員等の支援機関や関係課からの相談も受けられるよう、周知に努めた。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
精神保健福祉士による専門相談件数	目標値	24件	24件	24件	24件	24件
	実績値	47件	50件	32件		
進捗状況 及び 自己評価	精神保健福祉士による専門相談を月2回継続実施している。広く市民に利用してもらえるよう、広報・ホームページ掲載の他、関係者会議での周知等を図った。精神障害のある人やその家族からの相談だけでなく、相談支援専門員等の支援機関からの利用も積極的に実施した。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	市民や支援機関、関係課が必要な時に利用できるよう、周知や利用方法の検討が必要。
今後の取り組み方針	精神保健福祉士による専門相談(月2回)の継続。周知の拡大。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

市役所(障害福祉課)にて実施しているため、積極的に活用する。
民間レベルでは専門相談をしている所は多いと思うので、そういう所と連携する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	障害福祉課	係 名	障害福祉係 障害給付係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(2)相談支援体制の充実				
	事業名	④障害者相談支援センター等による相談				
	事業概要	障害のある人に何か困り事や相談があった場合には、障害者相談支援センターのほか、各施設職員、身体障害者・知的障害者相談員、ケースワーカー等が対応していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	朝霞市社会福祉協議会が行うはあとぴあ障害者相談支援センターの充実を図るとともに、既存の事業所との連携により、一人一人の状況に応じた相談支援に努めた。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
はあとぴあ障害者相談支援センターにおける相談件数	目標値	2,400件	2,400件	2,400件	2,400件	2,400件
	実績値	2,099件	2,987件	2,882件		
進捗状況 及び 自己評価	はあとぴあ障害者相談支援センターや市内相談支援事業所等と障害福祉課ケースワーカーが連携し、様々な障害のある人に対し、適切な相談支援を行った。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	・基幹相談支援センターの設置に向けた調査研究を行う。 ・特定相談支援事業所連絡会等を活用し、相談支援の質の向上を図る。
今後の取り組み方針	先進自治体の事例研究等を行い、基幹相談支援センターの設置に向けて、具体的な取り組みを行っていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

障害のある人に何か困り事や相談があった場合には、障害者相談支援センターを案内する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	長寿はつらつ課	係 名	高齢者支援係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(2)相談支援体制の充実				
	事業名	⑤高齢者総合相談				
	事業概要	市と各地域包括支援センターに配置した認知症地域支援推進員を中心に、高齢者や家族に対する相談体制の充実を図ります。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	市と各地域包括支援センターに配置している認知症の医療や介護の専門的知識や経験を有する認知症地域推進員が、認知症当事者や家族、関係者等に対して、介護保険や社会資源等の活用について説明するとともに、認知症の正しい知識や対応方法等について記載された認知症ケアガイドブックを用いて、普及・啓発を図ることができた。 また、認知症地域支援推進員が定期的に集り、認知症施策等について話し合いを行う「認知症地域支援推進員連絡会」を毎月開催することができた。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
認知症地域支援推進員連絡会開催回数	目標値	12回	12回	12回	12回	12回
	実績値	12回	11回	11回		
進捗状況 及び 自己評価	認知症地域支援推進員による各種制度や社会資源等について、説明することができ、かつ、認知症について普及・啓発を図ることができた。 認知症地域支援推進員連絡会を毎月開催することができた。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	市や地域包括支援センターの職員の入れ替わり等で技能にバラつきが生じないように、継続的に技能向上を図っていく必要がある。
今後の取り組み方針	職員の入れ替わり等に合わせて、国が定める認知症地域推進員研修などを受講し、認知症に関する知識や技能習得に努め、引き続き、認知症をはじめとした各種相談業務を継続していく。また、意見交換等を通じて、情報の共有や目的の再確認等を行う。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

認知症サポーター養成講座に参加して、地域の見守りを行い、少しでも気にかかることがあれば市や地域包括支援センターに連絡していただきたい。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	こども・健康部	課 名	こども未来課	係 名	こども相談係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(2)相談支援体制の充実				
	事業名	⑥子ども家庭総合支援拠点の整備				
	事業概要	子どもとその家庭、妊産婦等を対象に地域の実情の把握、相談対応、調査、継続的支援等を行う子ども家庭総合支援拠点の設置を検討し、福祉、保健、医療、教育等の関係機関と連携した支援を行います。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	令和4年4月1日に子ども家庭総合支援拠点を開設した。 妊娠期からの切れ目ない支援を行うため、母子保健担当との情報共有や協働による方針検討などを行う場として、連絡会議を毎月開催した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
連絡会議の開催回数	目標値	12回	12回	12回	12回	12回
	実績値	12回	12回	12回		
進捗状況 及び 自己評価	子ども家庭総合支援拠点を開設し、連絡会議を開催することで、延べ228人のハイリスク妊婦、延べ136人の特定妊婦について情報共有し、生まれてからの切れ目のない支援について検討した。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	設置形態としては一体的な運営とはならなかった。令和6年4月の児童福祉法改正により、自治体に対し、新たに子ども家庭センターの設置に関して努力義務の規定が設けられたことから、子ども家庭センター設置に向け、検討する必要がある。
今後の取り組み方針	子育て家庭の妊娠期からの切れ目のない支援に向けて、関係機関と連携して必要な支援を行うとともに、児童虐待の早期発見・早期対応に努める。 こども家庭センターについて、令和7年4月の開設に向け、関係機関との調整を図る。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

子どもの養育に不安を抱える家庭を把握した際、こども未来課に相談するように促す。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	総務部	課 名	人権庶務課	係 名	男女平等推進係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(2)相談支援体制の充実				
	事業名	⑦女性総合相談・DV相談				
	事業概要	それいゆぱらざ(女性センター)では、女性が抱える悩み全般に関する女性総合相談と、配偶者やパートナーからの暴力に関するDV相談を行います。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	女性総合相談については、毎週木曜日に女性が抱える悩み全般についての相談を実施。DV相談については、毎週火・水・金・土曜日にDV専門相談員が相談を実施した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
女性総合相談・DV専門相談実施日数	目標値	女性総合相談(52日) DV専門相談(205日)	女性総合相談(51日) DV専門相談(205日)	女性総合相談(52日) DV専門相談(205日)	女性総合相談(51日) DV専門相談(205日)	女性総合相談(51日) DV専門相談(205日)
	実績値	女性総合相談(52日) DV専門相談(205日)	女性総合相談(51日) DV専門相談(205日)	女性総合相談(52日) DV専門相談(204日)	—	—
進捗状況 及び 自己評価	女性総合相談及びDV相談を継続的に実施し、市民が安心していつでも相談できる体制で実施することができた。また、相談窓口の周知のために市内公園の公衆トイレにポスターを掲示した。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	相談の場を広く周知し、相談体制を充実させるとともに、複合化する相談内容に対し、迅速な庁内連携や関係機関との連携が必要である。
今後の取り組み方針	相談窓口の周知に努めるとともに、様々なケースの相談内容に対応できるよう、研修参加を通じて支援する側のスキル向上を図っていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

DV相談及び女性総合相談の利用、また相談窓口の周知をする。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	総務部	課 名	人権庶務課	係 名	人権庶務係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(2)相談支援体制の充実				
	事業名	⑧人権相談				
	事業概要	人権擁護委員と連携しながら人権相談を実施し、市民の基本的人権の擁護に努めるとともに、市民の人権尊重意識の向上を図ります。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	人権相談について、毎月第1月曜日に実施した。また、市内小学校での人権の花運動の実施など、人権擁護委員とともに各種啓発活動を行った。さらに、市民の人権意識の向上の取組として、人権週間(12月4日～10日)に合わせて、人権について考えていただくよう市のホームページのリンクを貼ったメールをメール配信サービス登録者に送付した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
人権相談の実施日数	目標値	12日	12日	12日	12日	12日
	実績値	12日	12日	12日		
進捗状況 及び 自己評価	人権相談については、対面での相談以外にも、電話などで問い合わせを受けることがあり、その際は、さいたま地方支庁での常設人権相談を案内するなど適切に対応した。また、相談内容を傾聴し、他部署へ繋ぐ等の対応を行った。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	人権に関わる相談については、内容が複雑、多様化しているケースが想定されるため、人権相談の相談員や担当職員については、そのような相談に対し、適切な対応ができるようスキルアップが課題と考える。また、人権相談を希望する市民に対して、人権相談の窓口をSNS等を活用し、周知啓発していく。
今後の取り組み方針	人権問題は複雑化多様化の傾向にあり、新たな人権課題が生じることを想定し、解決に向けて正しい人権教育・啓発活動を工夫するとともに支援体制の充実を図る必要がある。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

相談をしたい方や地域で困っている方にとって、まずは話を聞いてくれる方が地域にいてくれると悩みを抱え込むようなことがなくなる。 身近に相談できる方がいない方々のためにも市や社協に設置されている総合相談の周知・啓発や助言・案内に協力する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	市民環境部	課 名	地域づくり支援課	係 名	市民生活・相談係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(2)相談支援体制の充実				
	事業名	⑨消費生活相談				
	事業概要	消費者被害の未然防止・被害回復のために、消費生活相談員による相談を行います。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	開庁日の10時～正午、午後1時～4時に面談及び電話で消費生活相談を実施。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
消費生活相談件数	目標値	900件	940件	980件	1020件	1070件
	実績値	829件	846件	800件		
進捗状況 及び 自己評価	相談件数は目標値に至らなかったものの、例年同様の件数が見込まれた。 相談件数が目標値に至らなかったのは、トラブルの件数が少なかったと見える反面、消費生活相談の認知度が低いという観点も認識する必要があると捉えている。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	消費者トラブルは年々多種・多様化している。また、高齢者の消費者被害も依然として高い状況が続いていることから、消費者トラブルに対応するため、消費生活相談員のスキルアップを図り、消費生活相談の充実を図る必要がある。
今後の取り組み方針	消費者トラブルにあった時の相談窓口として、引き続き啓発活動を行い、消費生活センターの認知度を高めていくよう努める。 また、消費生活相談員には、各種研修に参加できるように環境等の整備を行っていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

高齢者や自己判断が難しい市民に対し、隣り近所の方が見守りを行い、消費者トラブルの発生や見込まれる場合に、消費生活センターにつなげる。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	こども・健康部	課 名	健康づくり課	係 名	予防係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(3)保健医療・社会福祉サービスの充実				
	事業名	①地域医療の確保				
	事業概要	医療機関が休診となる休日夜間においても、市民が医療機関で受診することができるように、医療体制の整備を図ります。また、地域医療体制の確立と保健衛生事業の推進に寄与することにより、市民の健康増進の拡充を図ります。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	朝霞市民の健康を守る地域医療体制の確立と、朝霞地区看護専門学校等の安定した運営に資するため、朝霞地区医師会等に補助金を交付する。朝霞地区4市が朝霞地区医師会と委託契約を締結し、日曜及び休日の昼間の初期救急医療、救急病院が実施する日曜休日及び夜間の二次救急医療を確保する。朝霞地区4市及び埼玉県が慶応大学と協定を締結し、同大学に寄附講座を設置することにより、小児科医を確保する。骨髄提供者、早期不妊治療者等への助成費の交付を行う。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
小児救急実施率	目標値	100%	100%	100%	100%	100%
	実績値	100%	100%	100%		
進捗状況及び自己評価	・在宅当番医制運営事業/朝霞地区医師会に診療業務を委託 ・小児救急医療支援事業/小児二次救急医療業務を委託 ・病院群輪番制病院運営事業/二次救急医療業務を委託 ・小児救急医療寄附講座支援事業/慶応大学に寄附講座を設置 【補助金】朝霞地区医師会、朝霞地区歯科医師会、朝霞地区看護専門学校(朝霞地区医師会)に補助。骨髄移植ドナー助成費補助事業/骨髄・末梢血幹細胞提供者のうち、条件に該当する者に対し助成。早期不妊検査・不育症検査・早期不妊治療助成費補助事業/不妊検査、不育症検査及び不妊治療を行った者のうち、条件に該当する者に対し助成					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	特定不妊治療について保険適用が開始されたことに伴い、早期不妊治療費助成事業のあり方について検討が必要
今後の取り組み方針	今後も医療体制を維持できるように支援を行う。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

地域の病院等の情報を把握する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	こども・健康部	課 名	健康づくり課	係 名	健康推進係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(3)保健医療・社会福祉サービスの充実				
	事業名	②各種健(検)診事業の促進				
	事業概要	乳幼児健康診査、がん検診、歯科検診など各種健(検)診事業として、受診ができる体制を図ります。また、健(検)診に関する情報を市民に周知し、疾患の予防及び早期発見につなげられるよう、取り組みます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	胃・肺・大腸・乳・子宮・前立腺がん検診の実施。(個別／集団／こくほの総合健康診査) がん検診無料クーポン券の交付。がん検診推進事業助成金の実施。 成人健康診査(30代のヘルスチェック)、生活保護受給者を対象とした健康診査、肝炎ウイルス検診、骨粗しょう症予防検診の実施。 3歳児健診時フツ化物塗布、幼児歯科健診、成人歯科健康診査の実施。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
がん検診受診率 (女性特有:子宮頸がん、乳がん受診率)	目標値	子宮頸がん 40.0% 乳がん 40.0%	子宮頸がん 40.0% 乳がん 40.0%	子宮頸がん 40.0% 乳がん 40.0%	子宮頸がん 40.0% 乳がん 40.0%	子宮頸がん 50.0% 乳がん 50.0%
	実績値	子宮頸がん 7.6% 乳がん 9.3%	子宮頸がん 7.3% 乳がん 8.4%	子宮頸がん 7.6% 乳がん 8.6%		
進捗状況 及び 自己評価	指標のがん検診受診率について前年度よりも上昇した。また、成人健康診査(30代のヘルスチェック)の受診者数は近年で最も多かった。健康課題の多くは壮年期以降に表出するため、それ以前の若い世代をターゲットとした本事業において受診者数が増加したことは成果といえる。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	各健(検)診の周知。健康に関心の薄い層の受診勧奨。
今後の取り組み方針	各健(検)診の周知、正しい知識の普及、受診しやすい環境整備。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

定期的な各健(検)診の受診。必要時における精密検査の受診。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	こども・健康部	課 名	健康づくり課	係 名	保健係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(3)保健医療・社会福祉サービスの充実				
	事業名	③妊娠・出産包括支援				
	事業概要	母子手帳の交付の際、保健師等の専門職がすべての妊産婦等の状況を把握し、必要に応じて支援プランを作成することにより、切れ目のない支援の実施を図ります。また、退院直後の母子の心身のケアや育児サポート等を行います。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	母子手帳の交付時に、本人または代理で来所された方と必ず面談を行うことで、妊娠・出産、産後に関する相談や情報提供を行うとともに、必要に応じて関係機関とも連携を図りながら、必要な支援を行った。また、R5年度から伴走型相談支援を開始し、妊娠時の面談、妊娠8か月目のアンケート、産後の新生児訪問による面談を実施し、妊娠時、出産後に各5万円の給付を実施した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
母子手帳交付時に専門職が面談する妊婦数	目標値	1,350人	1,350人	1,350人	1,350人	1,350人
	実績値	1,200人	1,117人	1,200人		
進捗状況 及び 自己評価	母子手帳の交付や転入の手続き等、生活状況や経済状況等の確認も含めて、必ず面談を行い、不安等の軽減に努めている、妊婦本人が体調不良等で来所できない場合も、電話等で状況の把握を行っている妊娠初期からかかわることで、産後や育児に関する相談先の周知や不安の軽減につながっている。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	子育て世代包括支援センターは現在、保健センター内に1か所の設置となっており、北朝霞方面の方へ利便性が課題である。また、今後、虐待対応部署との連携強化のため、子ども家庭センターの設置に向けた検討を行っていく。
今後の取り組み方針	引き続き、母子手帳交付時からの関わりを継続しながら、産後の支援の充実に向けて、事業の展開を検討していく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

現状1か所のみの運営のため、保健センターへの来所、手続きを行う。給付金の手続きについては、電子申請とし、市民の利便性を図る。
--

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	こども・健康部	課 名	健康づくり課	係 名	保健係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(3)保健医療・社会福祉サービスの充実				
	事業名	④自殺対策の推進				
	事業概要	朝霞市自殺対策計画に基づき、「誰もが支えあい つながりある朝霞を目指して」を基本理念に掲げ、自殺予防の視点を取り入れた形で関係部署と連携を図りながら予防に取り組めます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	朝霞市自殺対策計画に基づき、「誰もが支えあい つながりある朝霞を目指して」を基本理念に掲げ、自殺予防の視点を取り入れた形で関係部署と連携を図りながら予防に取り組んだ。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
人口10万人当たりの自殺死亡率	目標値	11.3人	11.3人	11.3人	11.3人	11.3人
	実績値	14.9人	16.02人	11.7人		
進捗状況 及び 自己評価	市の様々な事業を自殺予防という視点を取り入れた形で、基本施策に位置づけた、朝霞市自殺対策計画を策定しており、進捗管理を行いながら、対策に取り組んでいる。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	自殺予防という視点を取り入れて、様々な事業を実施しており、各課の事業評価を行い、関係各課と連携を図りながら、さらに取組を推進していく必要がある。
今後の取り組み方針	基本施策の5本柱と若年層、中高年層、ハイリスク者への対策を重点施策とし、関係部署の取組状況を把握・評価し、朝霞市自殺対策計画に基づいて、施策を推進する。また、令和6年度までの計画となっているため、次年度、計画の見直しを行う。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

自殺予防の普及・啓発に協力する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	障害福祉課	係 名	障害給付係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(3)保健医療・社会福祉サービスの充実				
	事業名	⑤地域活動支援センター及び生活ホームへの支援				
	事業概要	障害のある人の社会参加促進を図る地域活動支援センター及び社会的自立の助長を図るための生活ホームの運営費等に対し、補助金を交付します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	地域活動支援センター3か所、生活ホーム1か所への補助金の交付を行い、適正な運営による、安定的な受け入れ体制の確保を図ります。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
補助金交付対象事業所数	目標値	4か所	4か所	4か所	4か所	4か所
	実績値	4か所	4か所	4か所		
進捗状況 及び 自己評価	所要額に見合う補助金の交付を行った。また、物価高や介護報酬引き上げに関連して朝霞市障害福祉施設従事者処遇改善補助金、朝霞市障害福祉施設等光熱費等高騰対策支援金の交付を行った。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	法定施設の整備状況や利用者の意向等、需要と供給を見極め、今後の支援の在り方について検討する必要があります。
今後の取り組み方針	利用者の実態に応じた施設の運営の支援に努めます。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

施設の運営に対して地域で理解を深め、協力する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	長寿はつつ課	係 名	介護保険係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(3)保健医療・社会福祉サービスの充実				
	事業名	⑥介護サービスの基盤整備				
	事業概要	需要に合った施設を整備していくため介護給付費とのバランスを図りながら、国の基本方針に基づき、介護保険事業計画(第8期令和3～5(2021～2023)年度、第9期令和6～8(2024～2026)年度)の中で計画するとともに、地域密着型サービスについては、地域密着型サービス運営委員会に諮りながら整備を進めていきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	令和4年度公募で応募がありました定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所は、令和5年12月に開設しました。また応募がなかった看護小規模多機能型居宅介護事業所は、第9期朝霞市高齢者福祉計画・介護保険事業計画で令和6年度以降も引き続き整備を目指すこととなり、その運営する法人について公募を行う予定となりました。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
地域密着型サービス事業所数	目標値	22か所	22か所	24か所	24か所	24か所
	実績値	22か所	22か所	24か所		
進捗状況 及び 自己評価	令和4年度公募で応募がありました定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所は開設したので、進捗しています。また応募がなかった看護小規模多機能型居宅介護事業所は、令和6年度以降も引き続き運営する法人について公募を行うことが決定したため、進捗しています。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	看護小規模多機能型居宅介護事業所について、令和4年度に公募したものの応募がなかったため、今後の公募方法を改善する必要があります。
今後の取り組み方針	看護小規模多機能型居宅介護事業所について、今後の公募方法を工夫し、より応募されるよう努めて参ります。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所について開設されたため、ご理解、ご協力をお願いいたします。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	長寿はつらつ課	係 名	地域包括ケア推進係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(3)保健医療・社会福祉サービスの充実				
	事業名	⑦在宅医療・介護の連携強化				
	事業概要	「自分が望んだ場所で望んだ暮らしの実現」「安心して療養できる地域」を目指し、高齢者が医療と介護の両方を必要とする状態になっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるように、医療と介護が連携し、包括的かつ継続的な在宅医療・介護サービスを提供できる体制作りに取り組みます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	「自分が望んだ場所で望んだ暮らしの実現」に向けて、自身の望みを表現する手法であるACPを軸とした研修や意見交換会等を開催した。 国立長寿医療研究センターで提供されるACPに関する人材育成等のプログラムの提供を受け、研修会を開催し、その後、修了者を中心にACPワーキンググループを立ち上げ、市民への普及・啓発に向けた取組を行った。 情報連携シートの活用状況を把握した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
研修・情報交換・講演会等の開催	目標値	7回	7回	7回	8回	8回
	実績値	10回	10回	9回		
進捗状況及び自己評価	医療・介護職を対象にACPをはじめとする研修や意見交換会の実施により、医療と介護の連携強化が図るとともに、参加者同士の交流機会を提供することができた。 また、人材育成プログラム研修の修了者を中心とするACPワーキンググループを立ち上げることができた。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	情報連携シートの活用に向けた普及・啓発 ACPに関する発信内容の確立と情報発信ツールの検討
今後の取り組み方針	ACPに関する発信内容の確立及びリーフレット等の作成検討 ACPワーキンググループを活用した市民啓発活動

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

・ACPの必要性を理解し、知識を習得する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	こども・健康部	課 名	保育課	係 名	保育係 保育総務係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(3)保健医療・社会福祉サービスの充実				
	事業名	⑧保育士の雇用環境の改善				
	事業概要	ハローワークや地域の保育団体、社協等と協力して、年に1回就職相談会を開催し、市内での保育所等への就職につなげていきます。また、保育士の処遇の改善を目的として、月額1万円の補助を行います。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・保育士や放課後児童クラブの指導員の採用に関する就職相談会を、ハローワークや地域の保育団体、社協等と協力し、産業文化センターで開催した。保育園と放課後児童クラブ合わせて、10法人が参加し、来場した参加者は48名だった。 ・民営の保育施設に対して、保育士の処遇の改善を目的として、月額1万円の補助を行った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
就職相談会の実施回数	目標値	1回	1回	1回	1回	1回
	実績値	0回	1回	1回		
進捗状況 及び 自己評価	・就職相談会では、法人・参加者ともにアンケートで概ね満足という声をいただけた。また、来場した参加者48名のうち8名が採用に繋げることができた。 ・民営の保育施設に対して月額1万円の補助を行い、保育士の処遇改善に繋げることができた。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	・保育士確保のため、処遇改善及び就職相談会のほか、公設公営保育園での保育士募集などを行っているが、保育士不足の状況が続いている。 ・園によっては、入職した保育士がなかなか定着せず転職、退職してしまう場合がある。
今後の取り組み方針	引き続き、保育士の処遇の改善を目的として、月額1万円の補助を行う。合わせて、就職相談会の開催時期や募集方法について検討を重ねていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

市内スーパーなど、より求職者の目につきやすい場所に就職相談会や求人チラシの掲示できるよう協力する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	障害福祉課 長寿はつらつ課	係 名	障害福祉係 高齢者支援係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(4)権利擁護の推進				
	事業名	①成年後見制度の利用促進				
	事業概要	認知症や知的障害のある人、精神障害のある人など、判断能力の不十分な人が不利益とならないよう、財産管理や身上監護を必要とする場合で、その人に身寄りがいない等の場合に、市長による審判請求や後見人等の報酬を助成します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	支援者や家族等からの相談に対して、権利擁護に関する制度説明等を行い、必要に応じて、成年後見制度の市長申立てや成年後見人に対する報酬助成を行った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
成年後見市長申立て件数	目標値	障害のある人 3件 高齢者 7件	障害のある人 3件 高齢者 8件	障害のある人 3件 高齢者 9件	障害のある人 4件 高齢者 10件	障害のある人 4件 高齢者 10件
	実績値	障害のある人 1件 高齢者 4件	障害のある人 1件 高齢者 8件	障害のある人 3件		
進捗状況 及び 自己評価	包括支援センター、相談支援専門員等と連携し、支援者や家族等からの相談に対して、成年後見制度をはじめとした権利擁護に係る説明や関係団体に繋ぐことができた。 また、必要に応じて成年後見制度の市長申立てを行い、成年後見人に対して、報酬助成を行った。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	認知症高齢者等の増加が見込まれることから、相談体制の充実を図る必要がある。
今後の取り組み方針	相談体制の充実に努めながら、普及・啓発活動を継続する。 必要に応じて成年後見制度の市長申立て及び成年後見人に対する報酬助成を継続する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

制度について理解促進を深める。 お困りの方がいたら市民・地域同士で支えあう。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	障害福祉課 (障害者虐待防止センター)	係 名	障害福祉係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(4)権利擁護の推進				
	事業名	②障害者虐待の防止				
	事業概要	障害のある人への虐待について、相談、通報又は届出を受けたときは、関係機関との連携により、円滑な解決を図ります。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	障害者虐待防止センターの業務内容(虐待を受けた又は見聞かした場合は通報・相談先であることや障害のある人の養護者の負担軽減、虐待に該当する行為等)を広報、ホームページ等で周知する。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
障害者虐待防止センター事業の広報への掲載回数	目標値	3回	3回	3回	3回	3回
	実績値	3回	3回	3回		
進捗状況及び自己評価	「虐待防止ダイヤル#7171」のリーフレットやポスターを市内障害福祉施設や相談支援事業所等へ設置依頼をし、障害者虐待の未然防止等をお願いした。また、虐待に関する通報・相談があった際に関連部署と密に連絡を取り合った。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	障害者虐待を未然に防止するための啓発活動を継続する。
今後の取り組み方針	埼玉県等主催の虐待防止研修に参加(web等)し、障害者虐待防止センターの機能強化を図り、同センターの業務内容を広報、ホームページ等へ掲載し、積極的な啓発に努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

障害者虐待と思われる場面を発見したら、速やかに通報する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	長寿はつらつ課	係 名	高齢者支援係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(4)権利擁護の推進				
	事業名	③高齢者虐待の防止				
	事業概要	高齢者の虐待について関係機関と連携を図るとともに、より早期に発見、対応していけるように、市民や関係者などを対象とした研修の充実に努めます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・介護施設職員、居宅介護支援事業所及び地域包括支援センター職員に対する高齢者虐待防止研修を実施することができた。 ・介護者の相談内容に応じた介護保険制度等をご案内することにより高齢者虐待の抑制を図ることができた。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
虐待防止研修参加者数(事業者)	目標値	60事業者	60事業者	60事業者	60事業者	60事業者
	実績値	35事業者	47事業者	28事業者		
進捗状況及び自己評価	・介護施設職員、居宅介護支援事業所及び地域包括支援センター職員に対する高齢者虐待防止研修を実施することができた。 ・介護者の相談内容に応じた介護保険制度等をご案内することにより高齢者虐待の抑制を図ることができた。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	市民を対象にした高齢者虐待防止に関する普及・啓発活動の充実。
今後の取り組み方針	現在の事業を継続するとともに、市民を対象にした高齢者虐待防止に関する普及・啓発活動を検討する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

虐待疑いの事案の早期発見のため、相談窓口(市、地域包括支援センター等)の把握と利用に協力する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	こども・健康部	課 名	こども未来課	係 名	こども相談係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(4)権利擁護の推進				
	事業名	④児童虐待の防止				
	事業概要	要保護児童対策地域協議会の代表者、実務者及び児童福祉施設等職員向けに研修を実施し関係機関との連携を図るほか、市民向けにセミナーを開催するなど虐待の防止に取り組みます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	要保護児童対策地域協議会の代表者・実務者向けに、児童虐待対応における多機関連携に関する研修会を2回開催。普段子どもと接する機会が多い関係機関職員向けに、児童虐待対応に関する研修会を1回開催。 児童虐待防止推進月間の11月に、市民向けセミナーを開催。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
要保護児童対策地域協議会の関係機関職員向け研修開催	目標値	2回	2回	2回	2回	2回
	実績値	2回	2回	3回		
進捗状況及び自己評価	要保護児童対策地域協議会の構成機関をはじめとする関係機関の職員向けに、各種研修会を実施し、児童虐待対応における関係機関間の連携の重要性について共有することができた。 市民向けセミナーについて、コロナ禍で開催を中止していたが、令和5年度から講演会の形式で再開することができた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	児童虐待防止や児童虐待対応において効果的なものとなるよう、研修内容を検討する必要がある。 また、参加者が参加しやすい開催日程となるよう検討する必要がある。
今後の取り組み方針	社会情勢、関係機関のニーズや研修アンケートなどを踏まえながら、研修テーマ、講師の選定や開催日程などの選定に取り組み、研修会を実施する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

研修で学んだことを各関係機関に持ち帰り、職員間で共有し、実務に活かす。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	福祉相談課	係 名	福祉相談係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(5)生活困窮者等への支援の充実				
	事業名	①生活困窮者・世帯の自立支援(再掲)				
	事業概要	生活困窮者の自立の促進を図るために、生活困窮者自立支援法に基づき、相談や就労支援、学習支援、住居確保給付金の支給などの各種支援を実施します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	生活困窮者自立支援法に基づき、生活困窮者に対して市町村の必須事業とされている自立相談支援事業及び住居確保給付金の支給、任意事業の学習支援事業及び家計改善支援事業を実施した。 (R5年度実績) 住居確保給付金 決定件数12件、支給件数33件、総支給額1,542,900円 学習支援事業 学習教室 年46回、利用者数31人 内訳(中学生20人、高校生10人、高校生世代※1人) ※中学校修了後、18歳に達する日以降の最初の3月31日までの間にある方 家庭訪問 年120回(延べ) 利用者数10人 内訳(中学生5人、高校生4人、高校生世代1人) 家計改善支援事業 実人数22人、延べ相談件数45件 ※7月より事業開始 生活困窮者自立支援法で規定する支援会議を設置 ※4月より設置 実施回数2回					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
生活困窮に関する相談件数(再掲)	目標値	600件	600件	600件	600件	600件
	実績値	1,772件	1,424件	850件		
進捗状況及び自己評価	生活困窮に関する相談件数は、コロナ禍前に戻りつつあるが、令和5年度は、経済的困窮をはじめとして就労活動困難、病気、住まいの不安定、家庭の課題、メンタルヘルス、家計管理の課題、就労定着困難、債務問題など多岐に渡り、1ケースあたりの支援時間も長くなっている傾向があった。 また、様々な関係機関(庁内・庁外)との調整や連携を必要とする業務特性より、令和5年4月に生活困窮者自立支援法で規定する支援会議を設置し、関係機関等がそれぞれ把握している困窮が疑われるような個々の事案の情報共有を行い、支援の検討を行うことができた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	複雑化かつ多様化している生活困窮者の有する課題に対応するためには、就労、家計など様々な面から自立に向けた包括的な支援を提供できる体制を整えていく必要がある。
今後の取り組み方針	生活の困窮に関わる相談を含め、日常生活における様々な困りごとや悩みごとをはじめ、ひきこもりの方、8050問題など、複合化かつ複雑化する問題を包括的に受け止める相談体制などを検討していく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

生活に困窮している人を身近で見かけたときに、相談先を案内する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	生活支援課	係 名	第1・2・3係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(5)生活困窮者等への支援の充実				
	事業名	②生活保護の適正な運営				
	事業概要	ケースワーカー等が生活困窮者の相談を受け、利用可能な支援策について助言を行う。 また、生活保護が必要な人には、生活保護を適用し、生活保護受給者に対しては、適正な保護を実施するとともに、必要に応じて自立助長を促す。				

R5年度の取り組み内容	生活困窮者の相談については、面接相談員やケースワーカーが受付し、利用可能な支援についての助言を行い、必要に応じて生活保護の申請を受理した。 令和6年1月末現在の実績は、前年同時期と比較すると、生活保護世帯数1,592世帯は1%増、保護人員1,929人は0.7%増、保護率1.33%は同率である。また、相談延べ件数は、623件で17.1%増、申請は、209件で6.1%増、このうち195件が保護を開始し、6.6%増となり、自立助長に向けて必要な支援を実施した。また、廃止の実績は、152件となり、1.3%増となった。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
生活保護受給世帯の 高校等進学率	目標値	100%	100%	100%	100%	100%
	実績値	90%	100%	100%		
進捗状況 及び 自己評価	令和5年度の高校進学実績については、6人中6人が高校進学した。 内訳としては、全日制(県立2人、私立2人)4人、特別支援学校1人、通信高校1人と結果としては、進学100%となったが、希望通りの高校進学が実現できなかった方もいるので、希望が叶うよう対象世帯へ支援する。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	生活保護受給家庭で育った子供は、様々な生活上の問題を抱えていることが少なくない。親の教育に対する考え方や生活スタイルなどは、子どもの勉強するという姿勢だけでなく、健全育成へ影響する部分が大い。 このことから、親と子、両者への適切な支援が必要であるため、関係機関と連携を密に図り対応していく必要がある。
今後の取り組み方針	現在、福祉相談課で中学生・高校生を対象に実施している無料の学習塾(アスポート事業)を生活保護受給世帯が活用できるようCWにより支援することはもとより、教育機関との積極的な連携や、他施策の活用などにより、受給世帯の子どもの健全育成を進めていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

地区の民生委員や各関係機関と連携を図り、協力しながらその世帯の自立に向けての支援を実施していく。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	福祉相談課 こども未来課	係 名	福祉相談係 こども給付係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(5)生活困窮者等への支援の充実				
	事業名	③生活困窮者等の学習支援				
	事業概要	ひとり親世帯や生活保護世帯等の生活困窮世帯の中学生・高校生を対象に、高校への進学及び中退の防止等を目指し、学習支援事業を実施します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の 取り組み内容	校長会にて本事業の概要説明を実施し、教職員や保護者への周知及び声掛け等を依頼。 本事業についての高等学校への進学及び中途退学防止のための学習教室を週1回開催したほか、家庭訪問等により学習や進学、生活習慣を身につけるための相談支援等を行った。 学習支援事業 学習教室 年46回、利用者数31人 内訳(中学生20人、高校生10人、高校生世代※1人) ※中学校修了後、18歳に達する日以降の最初の3月31日までの間にある方 家庭訪問 年120回(延べ) 利用者数10人 内訳(中学生5人、高校生4人、高校生世代1人)					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
生活困窮等世帯の学習支援事業の利用者数	目標値	28人	30人	32人	34人	36人
	実績値	32人	30人	31人		
進捗状況 及び 自己評価	学習教室の開催や訪問による支援等を実施した。また、生活保護ケースワーカー向けに事業の説明会を実施したほか、児童扶養手当の受給者証の送付時や、就学援助の決定通知にチラシを同封するなど、事業を周知した。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	朝霞駅方面で行っており、朝霞台駅方面からは遠いとの声がある。また、対象者の拡大のほか、多くの方に本事業を周知して行く必要がある。
今後の取り組み方針	当面は訪問学習の利用や、小学生対象の方へは市内で活動するNPO法人が実施する学習支援教室を案内し、支援につなげていく。また、本事業の制度や利用方法について、様々な場を活用して、周知に努めていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

生活に困窮している人を身近で見かけたときに、相談先を案内する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	市民環境部	課 名	産業振興課	係 名	産業労働係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(5)生活困窮者等への支援の充実				
	事業名	④内職相談				
	事業概要	家庭外で働くことが困難で内職を希望する人に対し、内職の相談・紹介を行うとともに、内職提供事業所の調査、開拓及び仕事提供の依頼を行います。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	毎週火曜日と金曜日の10時から16時まで、市民相談室で内職相談員による相談事業を実施した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
相談件数	目標値	150件	150件	150件	150件	150件
	実績値	113件	122件	138件		
進捗状況 及び 自己評価	相談件数は、増加傾向で推移している。 生活資金のあてとして内職を希望する相談者も多いが、内職を主として生計を立てることは現実的ではないことを具体的な工賃等で説明することで、斡旋後のミスマッチを防止する役割を担っているものと考えられる。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	相談件数は増加傾向にあるものの、目標値には達していない状況にある。
今後の取り組み方針	引き続き、相談業務の実施と周知を行う。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

事業周知に協力していただきたい。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	福祉相談課	係 名	地域福祉係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(6)地域住民の交流の促進				
	事業名	①総合福祉センターの利用				
	事業概要	総合福祉センターを利用することにより、高齢者、障害のある人及び児童の交流を促進します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	社会福祉法人朝霞市社会福祉協議会を指定管理者として、総合福祉センターの管理及び運営を適正に実施することで、高齢者、障害のある人及び児童が安全に交流できる場を提供した。 利用者アンケートを実施し、利用者の意見を伺った。 運営協議会を2回開催し、総合福祉センターの事業報告及び事業計画について説明し、協議した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
会議室等利用人数	目標値	10,000人	10,000人	10,000人	10,000人	10,000人
	実績値	4,525人	4,621人	5,200人		
進捗状況 及び 自己評価	コロナ禍で設けていた利用人数の制限を解除したことなどで、利用者数が5,000人台に回復した。また会議室の申請受付期間を変更(1か月前から3か月前)したことで、利便性を図った。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	地域福祉の推進を担う観点から、高齢者、障害のある人及び児童が利用できる施設として、今後も安定した運営により様々なサービスを提供していく必要がある。
今後の取り組み方針	総合福祉センターの指定管理者と連携し、適宜必要な工事・修繕等を行うことで、安全かつ適正に管理運営していくとともに、施設の周知を図り利用促進に努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

総合福祉センターの利用を通じて、地域の様々な交流の場に積極的に参加する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	長寿はつらつ課	係 名	高齢者支援係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(6)地域住民の交流の促進				
	事業名	②老人クラブ会員による世代間交流				
	事業概要	老人クラブ会員が児童館事業の「伝承遊び」の講師として指導するなど、様々な機会に、様々な形の世代間の交流を行います。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	主に老人福祉センターを利用している高齢者と同一建物内の児童館を利用している児童や学生(以下、児童等という。)と交流を図ることができたが、老人クラブ会員と児童館を利用している児童等の交流を図ることはできなかった。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
老人クラブ会員と児童館を利用している児童の交流の機会	目標値	1回	1回	1回	1回	1回
	実績値	0回	0回	0回		
進捗状況 及び 自己評価	老人福祉センターと児童館の利用者の世代間交流事業は、8回開催することができたが、高齢者が老人クラブに所属しているかは不明である。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	事業実施に向けた老人クラブと児童館の連携体制を構築する必要がある。また、参加した高齢者の老人クラブの加入状況を確認する必要がある。
今後の取り組み方針	事業実施に向けた連携体制を構築できるように、老人福祉センターや老人クラブに働きかけを行い、参加した高齢者の感想を伺うとともに、老人クラブの加入状況を把握する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

興味のある老人クラブの活動に参加していただき、世代間交流事業を実施する際は、参加していただきたい。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	長寿はつらつ課	係 名	地域包括ケア推進係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(6)地域住民の交流の促進				
	事業名	③生活支援体制整備事業の推進				
	事業概要	地域の住民や各種団体、企業の関係者など様々な人々が連携しながら、多様な日常生活上の支援体制の充実・強化、また、地域住民や高齢者の社会参加を図る「助け合いの活動」の推進を目標に、協議体や生活支援コーディネーターの活動により、地域の課題や資源の把握、課題解決に向けた検討を進めて行きます。 また、地域資源を可視化し、地域のニーズとの円滑なマッチングや支援を進めます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	生活支援コーディネーター会議を毎月開催し、各生活支援コーディネーターの活動を支援した。 第1層協議体を立ち上げ、会議を開催した。 地域とのつながり、資源の把握等を目的に市内の活動団体が主催するイベントに参加した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
第2層協議体の会議開催回数	目標値	60回	60回	60回	72回	72回
	実績値	46回	56回	58回		
進捗状況 及び 自己評価	生活支援コーディネーター会議を毎月開催し、ニーズに合った事業の企画・実施や、第2層協議体の活動状況の共有、第1層協議体の立ち上げを行った。 第2層協議体の役割の再確認や先進市の取組を学ぶため、学習会を開催した。 地域とのつながり、資源の把握等を目的に市内の活動団体が主催するイベントに参加した。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	第6圏域における第2層協議体の設置に至っていない。 第2層協議体の効果的な運営活動支援が必要である。
今後の取り組み方針	住民主体の活動を支援するための体制・仕組みづくりを整備する。 第6圏域における第2層協議体の設置に向けて支援する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

自助・互助を基本とする支え合いの必要性について理解を深める。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	長寿はつつ課	係 名	高齢者支援係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(6)地域住民の交流の促進				
	事業名	④生きがい活動の支援				
	事業概要	高齢者地域交流室及びシルバーサロンの適切な管理を行い、市民に提供します。また、高齢者地域交流室の効率的な運用方法について検討していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	新型コロナウイルスの影響により、利用者数が減少していたため、令和5年3月のマスク着用の自由化や同年5月の類型見直しに伴い、休止中であった備品の提供を再開し、利用促進に関する周知啓発を行う。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
シルバーサロンの利用者数	目標値	600人	700人	800人	900人	1000人
	実績値	583人	716人	2,500人		
進捗状況 及び 自己評価	高齢者地域交流室及びシルバーサロンの適切な管理を行い市民に提供することができている。 高齢者地域交流室の拡張部分等の活用については、生活支援コーディネーターを通じて、交流室の未利用団体に意向調査を実施した。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	高齢者地域交流室やシルバーサロンの概要等について、広く周知していく必要がある。
今後の取り組み方針	高齢者地域交流室やシルバーサロンの利用を広く周知していく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

- ・シルバーサロンについては、利用制限がないことから、積極的に活用していただきたい。
- ・高齢者地域交流室を利用している団体が実施している活動内容に興味がある場合は、参加していただきたい。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	市民環境部	課 名	地域づくり支援課	係 名	地域づくり支援係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(6)地域住民の交流の促進				
	事業名	⑤多文化共生への理解の促進				
	事業概要	異なる文化への理解を深め、共生する社会を目指し、市民活動団体や関係機関と連携し、外国人市民を交えた交流会等の開催及び周知を行い、異文化に触れる機会を増やすことで相互理解の促進に努めます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	多文化共生に関する情報発信(広報・HP等での周知・啓発) 多文化推進サポーター事業の実施 国際化推進事業庁内連絡会議開催					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
多文化推進サポーター実働回数	目標値	31回	32回	33回	34回	36回
	実績値	2回	25回	7回		
進捗状況 及び 自己評価	指標である多文化推進サポーター実働回数について、目標に対し遅れているが、多文化推進に関する情報発信、多文化推進サポーター事業を実施したほか、小中学校に対し英語指導助手を派遣し活動を行っている。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	外国人市民は今後も増加することが見込まれており、外国人市民が地域社会の一員として生活できるよう、多文化共生意識の醸成を図る必要がある。
今後の取り組み方針	市内の多文化共生に取り組む団体と連携し、外国人市民の現状の把握に努めながら、多文化推進サポーター等を活用し、多文化共生意識の啓発を図る。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

言語や文化の差異を認め、外国人市民も地域社会の一員として生活できるよう異なる文化の相互理解を深める。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	市民環境部	課 名	地域づくり支援課	係 名	地域づくり支援係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(6)地域住民の交流の促進				
	事業名	⑥地域団体間の交流・連携の促進				
	事業概要	自治会連合会が実施するコミュニティ活動や朝霞市コミュニティ協議会(朝霞市民まつり実行委員会)が主催する朝霞市民まつり「彩夏祭」などの開催について支援します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・自治会等運営費補助金の交付 ・自治会等集会所建設事業補助金の交付 ・自治会連合会事務局の運営 ・朝霞市コミュニティ協議会に補助金(市民まつり補助金を含む。)の交付 ・彩夏祭のよさこい鳴子踊りに参加する小中学校に補助金を交付 ・朝霞市コミュニティ協議会及び市民まつり実行委員会の事務局運営					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
朝霞市民まつり「彩夏祭」来場者数	目標値	700,000人	710,000人	710,000人	710,000人	720,000人
	実績値	0人	350,000人	990,000人		
進捗状況 及び 自己評価	指標である朝霞市民まつり「彩夏祭」来場者数は目標値を上回っている。また、自治会等や市民まつりに補助金を予定通り実施している。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	人口の流入が多く、ふるさと意識が希薄になりがちで、かつ、独自の文化が育ちにくい状況にある。ふるさと意識を形成し、市民が地元に着と誇りを持てるよう、自治会活動や彩夏祭の地域独自の文化を、いかに市民の間に根付かせていくかが課題である。
今後の取り組み方針	彩夏祭などの地域独自の文化が市民の間に根付くよう積極的に情報発信を行っていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

彩夏祭は、市民が主役のイベントであり、主催団体である市民まつり実行委員会が主導し、市がサポートする体制は変わらないが、市が担っている役割と市民が担っている役割が適当であるか両方で確認していく。
--

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	福祉相談課	係 名	地域福祉係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(7)地域福祉に関する理解と参加の促進				
	事業名	①地域福祉講演会の開催				
	事業概要	市民の福祉に対する理解と関心を深め、地域で共に支え合う意識を高める機会づくりを目的に、地域の生活課題等をテーマとする講演会を開催します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	市民の福祉に対する理解と関心を深め、地域で共に支え合う意識を高める機会づくりを目的に、地域福祉講演会を開催した。 実施日：令和5年11月20日(月) テーマ：これからの地域福祉のありようを考える 参加者：108人(民生委員98名、一般来場者7名、社会福祉協議会3名)					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
地域福祉講演会参加人数	目標値	100人	100人	100人	100人	100人
	実績値	0人	0人	108人		
進捗状況及び自己評価	保育や手話、ヒアリンググループの設置など、講演会に参加しやすい環境を整えるとともに、民生委員・児童委員の勉強会を兼ねた開催として、多くの方に参加いただいた。講演テーマ、内容についてのアンケート結果で「まあまあわかりやすかった」と「とてもわかりやすかった」回答が9割を超えていたことから、好評なものだったと考える。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	地域福祉を推進していくため、行政だけでなく地域住民の福祉に対する理解と関心を深めていく必要がある。多くの方が参加しやすい、参加したいと思える講演会の開催・方法を検討していく。
今後の取り組み方針	地域福祉に理解と関心を深めていただける講座内容を企画・立案するとともに、多くの方が参加できる機会の提供、事業の周知・開催方法等を検討する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

地域で共に支え合う意識を高める機会として、積極的に講演会に参加する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	障害福祉課	係 名	障害福祉係 障害給付係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(7)地域福祉に関する理解と参加の促進				
	事業名	②スポーツ・レクリエーションの集いの開催				
	事業概要	毎年7月の第一週に、障害のある人もない人も、誰もが楽しめるフライングディスクやボッチャなどのさまざまなスポーツを体験できるスポーツ・レクリエーションの集いを開催します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	「スポーツ・レクリエーションの集い」は、令和4年度から「障害者レクリエーション事業」として、障害者団体等のレクリエーション事業に対する補助金交付事業に移行した。令和5年度は、広く周知を行い、対象の事業は2件となった。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
スポーツ・レクリエーションの集い(障害者レクリエーション事業)参加人数	目標値	130人	140人	150人	150人	150人
	実績値	0人	44人	37人		
進捗状況 及び 自己評価	令和5年度は、広く周知を行い、対象の事業は2件となった。今後においても引き続き幅広く周知を行い、より多くの事業について補助を行っていく。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	令和5年度は広く周知を行ったが、団体や事業者のイベント等の活動が消極的であった。
今後の取り組み方針	今後においても引き続き幅広く周知を行い、より多くの事業について補助を行っていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

障害のある人もない人も共に楽しめる事業の開催及び情報提供に協力する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	障害福祉課	係 名	障害福祉係 障害給付係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(7)地域福祉に関する理解と参加の促進				
	事業名	③ふれあいスポーツ大会の開催				
	事業概要	障害のある人もない人も、一緒にスポーツを楽しみながら交流を図り、親睦を深めるふれあいスポーツ大会を開催します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の 取り組み内容	スポーツ大会は毎年9月下旬頃(令和5年度は9月23日(土))に、市立総合体育館メインアリーナに於いて開催した。令和5年度は半日開催とし、4種目を実施した。 ※令和2年度・令和3年度と新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点より、参加団体の意向等も踏まえ、参加者の安全を第一に考え、中止となった。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
ふれあいスポーツ大会の 参加者数	目標値	280人	280人	280人	280人	280人
	実績値	0人	93人	123人		
進捗状況 及び 自己評価	障害者及びその家族と施設関係者との親睦を深めることに有効な事業と判断します。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	令和5年度は、広く周知を行ったが、団体や事業者のイベント等の活動が消極的であった。
今後の取り組み方針	今後においても引き続き幅広く周知を行い、より多くの事業について補助を行っていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

ふれあいスポーツ大会への参加や運営ボランティアに協力する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	市長公室	課 名	政策企画課	係 名	政策企画係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(7)地域福祉に関する理解と参加の促進				
	事 業 名	④市民参画と協働による地域づくりの促進(再掲)				
	事業概要	講座や講演会等の開催を通し、地域での活動に関心を持つ人材を発掘するとともに、お互いのつながりづくりのきっかけとなる機会を提供することで、これから実際に地域に関与する活動に取り組む担い手を育成します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	(1)第6次朝霞市総合計画策定のため、市民ワークショップや分野別市民懇談会を開催し、未来の朝霞市について、市民と意見交換を行った。 (2)市民参画と協働を推進するため、職員向けの講演会を開催した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
市民参画に係る講座・講演会の開催回数	目標値	1回	1回	1回	1回	1回
	実績値	1回	0回	3回		
進捗状況 及び 自己評価	今年度から策定に取り掛かっている総合計画への意見の反映のため、市民から直接意見を伺う機会を設けることができた。 また、市民参画と協働を推進するために、他自治体の事例や取り組み方法についての講演会を開催し、87名の職員が参加した。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	市民ワークショップや分野別市民懇談会においても、参加者や世代が固定化しているため、引き続き職員、市民ともに市民参画の機運醸成が重要と捉えている。特に、市民参画や協働に対する職員の意識啓発が課題である。
今後の取り組み方針	職員研修会を開催することで、市民参画、市民との協働について、庁内体制を整備し、職員の意識啓発を図っていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

市が実施する講座等に積極的に参加するとともに、参加を契機として、参加者同士がつながりを深め、地域での実際の活動に取り組む。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	市民環境部	課 名	地域づくり支援課	係 名	市民活動支援係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(7)地域福祉に関する理解と参加の促進				
	事業名	⑤市民活動の周知・啓発及び参加の促進				
	事業概要	市民活動やボランティアに関する情報を収集し提供するとともに、多くの人に市民活動に参加していただく機会の提供、市民活動の周知・啓発等を行います。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	メールマガジンや広報・ホームページなどで市民活動に関する情報発信を行ったほか、市民活動パネル展を開催し、市民活動の周知・啓発に努めた。また、パネル展開催時にあわせて「出張市民活動相談会」を実施し、ステーション以外でも市民活動に関する相談が出来る様にした。市民活動の新たな担い手を育成することを目的とした「地域デビュー支援セミナー」を開催した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
市民活動支援ステーションの延べ利用団体数	目標値	510団体	520団体	530団体	540団体	550団体
	実績値	451団体	456団体	530団体		
進捗状況及び自己評価	指標の施設利用団体数については、コロナ禍の収束による団体活動活性化の影響もあり、前年度を上回ることが出来た。また、市民活動パネル店をカインズ朝霞店で、地域デビュー支援セミナーを産業文化センターで実施したことにより、ステーション以外でも市民活動の周知・啓発を図ることが出来た。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	活動の担い手の高齢化や会員の不足など
今後の取り組み方針	多くの方に市民活動に関心・興味をもち参加していただけるよう、引き続き工夫を図りながら、市民活動の周知・啓発等を行っていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

パネル展、セミナーやイベントボランティア登録制度など市民活動への参加や担い手の育成に関する事業等を、今後も開催・運営していくので、関心のある方の積極的な参加が望まれる。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	生涯学習部	課 名	生涯学習・スポーツ課	係 名	スポーツ係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(7)地域福祉に関する理解と参加の促進				
	事業名	⑥スポーツの振興				
	事業概要	市民の親睦と健康増進を図り、あわせてスポーツ及びレクリエーションの振興に寄与するとともに、市民生活を明るく豊かにすることを目的として、スポーツイベント等を開催します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	市民の親睦と健康増進を図り、あわせてスポーツ及びレクリエーションの振興に寄与するとともに、市民生活を明るく豊かにすることを目的として、市民体育祭を開催した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
町内会・自治会参加数	目標値	20団体	20団体	20団体	20団体	20団体
	実績値	—	5団体	10団体		
進捗状況 及び 自己評価	競技種目の見直しや地区対抗種目の一部種目をオープン参加として一般開放し、多くの一般参加者を迎えることができた。テントや椅子の設置の業者委託などの自治会・町内会の皆さんが参加しやすくなる取組、競技参加者に対し参加賞のほかに抽選券を配布し、抽選会を行う取組は継続し、コロナ禍前の開催形式をほぼ踏襲した形で、市民体育賞表彰式を含め、市民体育祭を開催した。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	近年、自治会・町内会の市民体育祭への参加地区数が減少傾向にあるなか、今年度は昨年度に引き続き、一般参加者が多くなり、スポーツイベントに対する潜在的な需要が確認できたことから、引き続き需要を喚起するため、朝霞市スポーツ協会や朝霞市スポーツ推進委員連絡協議会などと連携し、事業を展開していく必要がある。
今後の取り組み方針	朝霞市スポーツ協会や朝霞市スポーツ推進委員連絡協議会などと連携し、多くの方に参加していただけるようなスポーツイベント等の企画・運営を行っていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

多くの市民・地域が市民体育祭等へ参加し、互いの親睦と健康増進を図る。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	長寿はつらつ課	係 名	高齢者支援係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(8)支え合い・助け合いの気持ちの醸成				
	事業名	①認知症への理解の促進				
	事業概要	認知症サポーター養成講座や、認知症の家族介護教室などを実施します。また、認知症ケアガイドブックを作成、配布し、認知症の高齢者等との接し方などの周知を図ります。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・認知症サポーター養成講座及び家族介護教室を開催することができた。 ・公共施設、スーパー及び歯科医院等に認知症ケアガイドブックを配付し、認知症の正しい知識や対応方法等について普及・啓発を図ることができた。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
認知症サポーター養成講座参加者数	目標値	1,350人	700人	700人	200人	200人
	実績値	249人	167人	123人		
進捗状況及び自己評価	・認知症サポーター養成講座を開催することはできたが、小中学生向けに開催することができなかった。 ・認知症ケアガイドブックを公共施設やスーパー等に配付し、普及・啓発を図ることができた。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	認知症への理解が多世代に広がるよう、若年層への働きかけについて検討していく必要がある。
今後の取り組み方針	現在認知症の方を介護している方だけでなく、社会全体で認知症への理解を進めていくための取組を検討していく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

認知機能の低下が疑われるが、支援者がいらいっやらないような高齢者を見かけた場合は、長寿はつらつ課や地域包括支援センターに連絡していただきたい。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	学校教育部	課 名	教育指導課	係 名	—
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(8)支え合い・助け合いの気持ちの醸成				
	事 業 名	②学校における福祉教育の充実				
	事業概要	小・中学校の総合的な学習の時間において、アイマスク体験・車いす体験等を実施します。また、福祉部局と連携し、認知症サポーター養成講座を実施するなど、地域共生社会の実現に向けた教育を推進していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	「特別の教科 道徳」における思いやりの心の醸成。 「総合的な学習の時間」における障害者理解や体験等の実施。 「社会科」における福祉等に関する学習。 人権教育学習における人権意識の醸成、人権作文への取組。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
福祉教育の実施学校数	目標値	10校	10校	13校	13校	15校
	実績値	10校	10校	15校		
進捗状況 及び 自己評価	市内15の全小中学校において、各教科や領域において横断的に思いやりや支え合いの心、助け合いの気持ちの醸成に取り組んでおり、福祉教育の推進・充実を図っている。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	児童生徒本人やその家族に何らかの障害等がある場合、授業での取り上げにあたり本人の意向を確認する等の配慮を要する場合がある。 そうした際には慎重な対応が必要であり、本人や保護者との確認を丁寧に行っていくことが求められる。
今後の取り組み方針	学校だけでなく家庭や地域社会が一体となり取り組んでいくことが重要であることを踏まえながら、引き続き障害理解や福祉に関する意識の醸成を図っていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

コロナ禍の終息に伴い、学校公開等で地域の方に学校での福祉教育の様子を参観していただくとともに、アイマスク体験や車いす体験等に協力する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	生涯学習部	課 名	生涯学習・スポーツ課	係 名	生涯学習係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(8)支え合い・助け合いの気持ちの醸成				
	事業名	③人権教育の推進				
	事業概要	市民人権教育研修会、企業人権教育研修会、人権問題講演会等の各種人権教育研修会を開催し、人権尊重の意識を高め、人権感覚の育成に努めます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	市民人権教育研修会、人権問題講演会、企業人権教育研修会及び公民館人権教育講座の実施。朝霞市人権教育推進協議会と共催し、現地研修会(フィールドワーク)の実施。成人の日記念式典や各種人権教育研修会における人権啓発品や啓発冊子の配布。朝霞市人権教育推進協議会への補助金の交付。《補助金/135,000円》					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
各種研修会・講座開催回数	目標値	10回	10回	10回	10回	10回
	実績値	3回	6回	5回		
進捗状況 及び 自己評価	指標の目標値には届かなかったが、各種研修会・講座には多くの市民の参加があった。また、成人の日記念式典開催時に人権啓発品や啓発冊子を配布することで、若い世代に向けた人権啓発の推進が図られた。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	例年、世の中に存在する様々な人権課題から偏ることなく、現代的な課題をテーマとして取り上げ、講演会や研修会を実施しており、参加者から満足度の高い評価をもらっているが、若い世代を含めた幅広い世代にさらに関心を持っていただけるよう、より効果的な実施手法について研究し、継続して人権啓発を推進する必要がある。
今後の取り組み方針	引き続き、第4期朝霞市地域福祉計画の基本目標や施策の方向性を意識し、多様な人権課題に対応した人権教育事業を幅広い世代に関心を持ってもらえるよう工夫しながら実施し、人権啓発の推進に務める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

人権教育に関する研修会等へ積極的に参加し、思いやりと支え合いの心を育み、地域に還元する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	福祉相談課	係 名	地域福祉係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(9)地域での見守りの充実				
	事業名	①民生委員児童委員の活動支援				
	事業概要	地域福祉の担い手である民生委員児童委員の活動を支援し、欠員地区の委員補充、現任委員のスキルアップなどに努めます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容		民生委員児童委員が東・西・南・北・東北・南西の6地区に分かれ、毎月の定例会で事例研究や情報交換を行うとともに、行政や地域包括支援センター等の関係機関に講師を依頼するなど、福祉をはじめ消費者問題や防災等、地域課題に関する理解を深めた。また、活動や組織運営にかかる費用を補助することで、活動を促進し、地域福祉の推進を図った。民生委員推薦会を1回実施し、4名の新任候補者について、適格性を審議することができた。地域福祉講演会を開催した際には、来場者に民生委員児童委員制度を周知するため、パネル展示を行った。				
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
民生委員児童委員 延べ活動日数	目標値	14,400日	14,400日	14,400日	14,400日	14,400日
	実績値	11,003日	11,639日	10,000日		
進捗状況 及び 自己評価	民生委員児童委員の見守り活動や相談により、様々な悩みを抱える方々を、市役所や社会福祉協議会等の関係機関に繋いでもらうことで、諸問題が解決できた。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	民生委員児童委員の定数に欠員が生じている。また、民生委員児童委員の高齢化が進んでいるため、人材の確保と新しい担い手の育成が必要となっている。
今後の取り組み方針	引き続き、各地区協議会の会長や副会長と協力して、欠員補充に努めるとともに、他自治体での補充方法や委員の担い手の育成等について調査を行っていき、改善策を検討する。また、民生委員児童委員が活動しやすくなるように、その活動を周知するとともに、各委員へ活動に関する情報提供を行っていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

高齢者や障害のある人、子どもなどへの見守りや声掛けを行う。
登下校時などの見守り活動に協力する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	長寿はつらつ課	係 名	地域包括ケア推進係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(9)地域での見守りの充実				
	事業名	②地域包括支援センターと関係機関の連携				
	事業概要	地域包括支援センターと民生委員等関係機関が連携し、一人暮らしの高齢者等の見守り活動を随時行います。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	民生委員児童委員定例会の定期的な参加を中心に、民生委員との連携体制を構築し、日頃の相談業務における連携や見守り活動等の取組を推進した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
民生委員児童委員定例会への定期的な参加	目標値	12回	12回	12回	12回	12回
	実績値	20回	25回	34回		
進捗状況 及び 自己評価	定例会への定期参加に加え、民生委員を対象に講座等を開催することで、連携体制の構築を推進した。日々の相談業務における連携や見守り活動などを協働することができている。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	引き続き、連携体制の構築に向けた取組を推進していく。
今後の取り組み方針	定例会等への参加を通じて、連携体制の構築に努め、見守り活動の支援など高齢者を支えるための一助としていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

高齢者等を地域で見守る体制をつくる。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	長寿はつらつ課	係 名	高齢者支援係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(9)地域での見守りの充実				
	事 業 名	③安心見守り支援				
	事業概要	高齢者が安心して日常生活を送るために緊急通報システム・安心見守り通報システム事業を、安否確認のために配食サービスや乳酸飲料配付事業等を実施します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容		・ひとり暮らし高齢者等に対し、配食サービスや乳酸飲料を直接届けることで安否確認を行っており、必要に応じて、市職員が自宅等を訪問し、支援を行うことができた。 ・ひとり暮らし高齢者及び高齢者世帯の方が、安心して日常生活を送ることができるように緊急時にボタンを押すだけで救急要請ができる緊急通報システムや安心見守り通報システム事業を実施することができた。 ・配食事業者及び乳酸飲料配付事業者と見守り協定を締結したにより、高齢者等に対する見守りを強化することができた。				
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
高齢者配食サービスの延べ利用者数	目標値	3,150人	3,200人	3,250人	3,300人	3,350人
	実績値	3,394人	2,985人	2,700人		
進捗状況及び自己評価	・配食サービスや緊急通報システムの設置などは、例年安定した需要が見られ、日常生活を営むための見守り事業として定着している。 ・今年度は、近隣市の担当者が集まり、対面式の情報交換を実施した。 ・乳酸飲料配付事業については、委託事業者内の慢性的な配達員不足によって、令和5年度をもって事業を終了する。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	民間事業者でも様々な見守りサービスを実施しているため、住民ニーズの把握等を行い、見守り体制の見直しを検討する必要がある。
今後の取り組み方針	見守り体制の更なる充実に向けた見直しを図ることで、ひとり暮らし高齢者及び高齢者世帯の方が、住み慣れた地域で自立し、安心して日常生活を送ることができるように努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

地域住民に見守り意識を持っていただき、異変を感じた際の通報や、情報提供に協力していただく。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	こども・健康部	課 名	こども未来課	係 名	こども相談係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(9)地域での見守りの充実				
	事業名	④児童相談所等との連携				
	事業概要	児童相談対応において、一時保護、児童福祉司指導などの権限を有する児童相談所をはじめとする関係機関と適宜、情報共有や協議など連携を図ります。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	児童虐待事例に対して、緊急性や重大性などに応じて児童相談所と連携して対応を行った。一時保護や児童福祉司指導などの行政権限が伴う対応が必要となる事例や処遇困難事例について、児童相談所に対して通告、協議相談を行った。多機関連携が必要となる事例について、児童相談所をはじめとする関係機関が集まり個別支援会議を開催し、情報共有や処遇検討を行った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
個別支援会議実施	目標値	10回	10回	10回	10回	10回
	実績値	62回	39回	73回		
進捗状況 及び 自己評価	児童虐待ハイリスクの家庭ばかりではなく、継続した見守りが必要な家庭についても、繰り返し個別支援会議を開催した。リスクアセスメントシートを活用してリスクを可視化し、関係機関と共通認識をもって支援にあたることができた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	児童虐待事例は、子どもの置かれている環境の複雑化に伴い、その対応も困難なものが増えていることから、関係機関がより一層連携して対応を行っていく必要がある。
今後の取り組み方針	児童虐待が深刻化しないよう、早期発見と早期対応が必要であり、円滑な情報共有による連携した対応が重要であるため、引き続き関係機関の連携を図る。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

子どもの養育に不安を抱える家庭を把握した際、こども未来課に相談するように促し、つなげる。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	長寿はつらつ課	係 名	地域包括ケア推進係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(10)情報共有・発信の充実				
	事業名	①多職種参加の地域ケア会議の実施				
	事業概要	地域包括ケアシステムの推進に向け、地域包括支援センター及び居宅介護支援事業所が携わっている個別ケースについて、アセスメントの効果的な方法や自立支援・重度化防止に資するケアプランの作成のために、多職種と検討を重ね、支援能力の向上につなげていきます。また、個別事例の積み上げから見えてくる地域の共通課題を共有し、課題解決に向け、関係者間で調整、ネットワークの構築、新たな資源の開発、さらには施策をボトムアップで推進していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	地域ケア会議の開催とともに共通の課題を整理し、地域ケア推進会議を開催した。令和4年度に地域ケア会議運営マニュアルを作成し、回数の見直しなど令和5年度より運用を開始した。地域包括支援センター担当職員を交えて、地域ケア会議の運営方法などの検討会議を開催した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
地域ケア会議(全体・圏域)の実施回数	目標値	44回	46回	48回	48回	44回
	実績値	43回	34回	30回		
進捗状況 及び 自己評価	昨年度策定した地域ケア会議運営マニュアルを基に地域ケア会議を実施した。市主催の地域ケア会議を年12回実施する予定だったが、事例提出数の減少により予定回数を下回ったため、今後、マニュアルの見直しをする必要がある。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	地域ケア会議における運営目的を達成できるかなどのマニュアルの精査 参加者へ向けた共通認識の醸成等に関する取組の継続
今後の取り組み方針	地域ケア会議の定期開催 地域包括支援センターとの定期的な会議の開催及びマニュアルの見直し

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

必要に応じて会議等に参画する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	長寿はつらつ課	係 名	介護保険係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(10)情報共有・発信の充実				
	事業名	②介護保険制度の周知				
	事業概要	介護サービスや介護保険等について、パンフレットやホームページ、市民説明会、あさか学習おとどけ講座等、様々な機会を通じて、よりわかりやすい情報提供を行います。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	高齢者福祉と介護保険制度の市民説明会を6回開催し、42名に参加いただきました。また、あさか学習おとどけ講座を2回開催しました。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
介護保険制度説明会参加者数	目標値	200人	100人	100人	200人	100人
	実績値	219人	39人	42人		
進捗状況 及び 自己評価	高齢者福祉と介護保険制度の市民説明会の参加者数は目標に届きませんでしたが、今年度もプロジェクトを使用し、よりわかりやすい説明となるよう努めました。他の方法による介護保険制度の周知も継続しており、事業全体としてはある程度進捗しています。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	高齢者福祉と介護保険制度の市民説明会は令和4年8月に開催しましたが、計画期間の2年目であることから、参加者数は昨年度より微増にとどまったと分析しています。効果的な開催方法については課題と捉え、よりよい手法を模索して参ります。
今後の取り組み方針	市民説明会については、今後も効果的な開催方法を検討して参ります。他の方法による介護保険制度の周知は、今後も継続して参ります。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

市民説明会開催の際には、ぜひご参加ください。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	こども・健康部	課 名	こども未来課	係 名	こども未来係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(10)情報共有・発信の充実				
	事 業 名	③子育て情報誌の作成				
	事業概要	子育てに関する情報を一元化した子育て情報誌「あさか子育てガイドブック」を作成し、子育て関連施設を通じて子どものいる家庭に配布するとともに、ホームページに掲載し、子育て等に関する情報を提供します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	子育てに関する情報誌「あさか子育てガイドブック」を作成し、児童館や保健センター、子育て支援センターなどの交流拠点の紹介及び子育てに関する様々な情報を提供する。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
子育て情報誌の作成部数	目標値	7,500部	7,500部	7,500部	7,500部	7,500部
	実績値	7,500部	7,500部	7,500部		
進捗状況 及び 自己評価	子育て情報誌の作成・配布の他、市ホームページに同内容を掲載し、子育て応援サイト(サブサイト)と共に、更なる情報発信を図ることができた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	適時、適切な情報掲載を心がける。
今後の取り組み方針	市の子育て情報の他、NPOや市民団体等が行う情報等も掲載できるよう調査・研究する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

市の子育て情報の他、NPOや市民団体等が行う情報等を集約できる団体の発掘・育成をする。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	市長公室	課 名	シティ・プロモーション課	係 名	広報係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(10)情報共有・発信の充実				
	事業名	④広報の充実				
	事業概要	行政情報施策及び行事等の情報を収集し、読みやすく編集した広報あさか(毎月1回)を作成・発行し、配布については市内全世帯へ配布します。また、市民ハンドブックなど市政情報紙を発行するとともに、ホームページやツイッター等のSNS、掲示板、電光掲示板などで随時最新の情報を発信していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	広報あさかを毎月発行し、市内全戸へ配布した。 ホームページの維持管理・運用、暮らしの便利帳あさか(市民ハンドブック)の更新、掲示板の維持管理、防災行政無線の運用、X(旧Twitter)、Facebook等のSNSを利用した情報発信、メール配信サービスの運用、テレビ埼玉データ放送の更新、コミュニティエフエムなど、市の持つあらゆる情報伝達手段を活用し、市民への情報発信を行った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
広報あさか配布部数	目標値	67,800部	68,300部	68,800部	69,300部	69,800部
	実績値	67,500部	68,000部	68,900部		
進捗状況 及び 自己評価	行政情報の発信に関しては、さまざまな媒体を活用することで、市民へ情報が伝わるよう努めた。 また、災害時は、Yahoo!防災アプリやLINEでも情報発信を行った。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	行政情報を、より効果的に発信する方法について調査、検討する。 広報紙から情報を得る市民に、有益な市政情報の伝達漏れなどが起こらないよう、留意して編集する。
今後の取り組み方針	必要とする情報を、誰もが入手することができるよう努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

市民…災害時等の状況に応じて、市が発信しているホームページやSNSなど様々な媒体を活用し、正確な情報を収集するよう心掛ける。 市内活動団体等…掲示板や広報あさかを積極的に活用して市民へ周知啓発するとともに、わかりやすい表現を使うよう努める。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部 危機管理室	課 名	障害福祉課 長寿はつらつ課 危機管理室	係 名	障害福祉係 高齢者支援係 危機管理係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(10)情報共有・発信の充実				
	事業名	⑤避難行動要支援者支援制度の推進				
	事業概要	災害時における避難行動要支援者への支援を円滑に実施するため、関係課が連携し、避難行動要支援者台帳を作成します。また、自治会・町内会、民生委員児童委員、消防団、地域包括支援センター等の避難支援者となる各団体に配付を行い、災害時における支援のほか、日頃からの顔の見える関係づくりに活用します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・災害時における避難行動要支援者の支援を円滑に実施するため、福祉部門と連携し、避難行動要支援者台帳を作成し、自治会・町内会、民生委員児童委員等の避難支援者となる方々に配付を行い、災害時における支援のほか、日頃からの顔の見える関係づくりに活用いただく。 ・調査実態を踏まえ様式と調査方法を調整し、自治会・町内会等からの意見を元に、要綱改正を経て様式等を決定した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
避難行動要支援者台帳の更新及び配付	目標値	年1回	年1回	年1回	年1回	年1回
	実績値	年1回	年1回	年1回		
進捗状況 及び 自己評価	予定通り令和5年6月中に更新及び配布を行った。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	・見直し後の個別避難計画作成の速度と精度。 ・台帳を活用した訓練等が実施できていない。
今後の取り組み方針	・引き続き、避難行動要支援者台帳の更新及び配付を計画的に実施するとともに、台帳を活用した訓練の実施等、活用支援について検討を行う。 ・来年度以降は、新たに決定した様式と調査方法で、浸水想定地区から順次調査を進めていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

個別避難計画を作成する際は、自治会・町内会、民生委員児童委員は周知・協力をする。
--

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	福祉相談課	係 名	地域福祉係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(11)地域福祉を支える団体の活性化・人材の育成				
	事 業 名	①地域保健福祉活動振興事業費補助金の交付				
	事業概要	地域における保健福祉活動の振興を図るために、地域福祉の振興事業を実施している、または計画している各種地域団体に対しその事業費の一部を助成します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容		地域の高齢者の交流や障害のある人の補助事業等、NPO法人や地域の高齢者の団体、障害のある人を含む団体に対し補助金を交付し、地域における保健福祉活動の振興を図った。				
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
補助金交付件数	目標値	24件	24件	24件	24件	24件
	実績値	19件	17件	15件		
進捗状況及び自己評価		令和5年度 15団体 計1,699,600円交付 その他、本補助金の申請には結びつかなかったが、交付団体以外の団体などからも問い合わせがあったことから、引き続き、地域団体に対しその事業費の一部を助成していく必要がある。				
		B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない			

2 課題・今後の取り組み方針

課題	多くの団体に補助金を活用・認知してもらうため、広報やホームページ、SNS等で広く周知を行う必要がある。また、交付申請金額に対して、交付率が88.2%(令和5年度交付率)となっている。
今後の取り組み方針	引き続き、市民団体が行う福祉事業に係る費用に対し、補助金を交付できるよう、当該補助金の周知や予算額について検討していく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

地域で行われている福祉団体の事業に積極的に参加する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	長寿はつらつ課	係 名	高齢者支援係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(11)地域福祉を支える団体の活性化・人材の育成				
	事業名	②老人クラブへの支援				
	事業概要	老人クラブ等への補助金交付により、運営に対する資金的サポートを実施します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・各老人クラブに対して、補助金の交付を行った。 ・老人クラブ連合会に対して、補助金の交付を行った。 ・社会福祉協議会と協力して、各老人クラブの負担軽減につながる支援を行った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
老人クラブ団体数	目標値	25団体	25団体	25団体	25団体	25団体
	実績値	24団体	21団体	25団体		
進捗状況 及び 自己評価	・老人クラブ等に補助金を交付しているが、老人クラブ連合会への加入団体の増加は見られない状況が続いている。 ・新型コロナウイルスの類型見直しに伴い、市が主催するシニアスポーツフェスティバルを開催することができた。 ・老人クラブが主催する各種行事の開催にも協力することができた。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	老人クラブ内での高齢化と新たな加入者の伸び悩み等により、全体の加入者が減少傾向にあるため、引き続き、社会福祉協議会等と課題解決に向けた検討を行う必要がある。
今後の取り組み方針	補助金の交付による経済的な支援のほか、新規加入を促進するための支援についても検討していく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

介護予防を検討している方や新たな趣味を探している方がいたら、老人クラブの活動や各種行事を案内する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	長寿はつらつ課	係 名	介護保険係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(11)地域福祉を支える団体の活性化・人材の育成				
	事業名	③介護人材の育成				
	事業概要	近隣市とも連携をしながら研修を開催する等、介護人材確保と人材育成の取組を進めていきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	令和6年1月18日から23日にかけて、「介護に関する入門的研修」を開催し、これまで介護との関わりがなかった介護未経験者が、介護に関する基本的な知識を身につけるとともに、介護の業務に携わる上で知っておくべき基本的な技術を学ぶことができるよう努めました。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
研修参加人数	目標値	30人	35人	40人	40人	40人
	実績値	22人	13人	20人		
進捗状況 及び 自己評価	研修の参加人数が増加したため、ある程度進捗しています。なお、研修の最終日には、介護事業者を会場に招致し、研修受講者の就労支援を行っており、介護事業所の人材不足の解消を目指しています。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	より多くの人に参加していただくための周知方法、より効果的な就労支援の方法については課題ととらえ、今後もよりよい手法を模索して参ります。
今後の取り組み方針	よりよい手法を模索しつつ、今後も継続して研修を開催して参ります。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

介護施設への就業を希望される方や介護に興味のある方は、お気軽にご参加ください。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	長寿はつらつ課	係 名	地域包括ケア推進係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(11)地域福祉を支える団体の活性化・人材の育成				
	事業名	④生活支援コーディネーターによる地域活動団体支援				
	事業概要	各地域包括支援センターに1名ずつ生活支援コーディネーターを配置し、課題や資源を地域ごとに把握すると共に、生活支援コーディネーターが定期的に集まり、地域活動団体への支援など、地域資源の新たな活用方法等を検討していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	地域の活動団体の支援を目的に、リハビリテーション専門職によるフレイル予防体操などを行った。生活支援コーディネーターを中心に作成した社会資源マップにより、地域活動団体等の周知を図った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
フレイル予防講座の開催回数	目標値	5回	6回	6回	6回	6回
	実績値	6回	1回	6回		
進捗状況 及び 自己評価	リハビリテーション専門職によるフレイル予防体操などを実施することで、地域で活動する6団体に対して支援することができた。 市民団体イベント等あらゆる機会を捉え、地域資源マップを活用し、地域活動団体などの周知をすることができた。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	社会福祉協議会や他部署と連携し、活動団体の情報を一元化する。 地域活動団体が継続的に活動できるよう支援する仕組みづくり。
今後の取り組み方針	引き続き、リハビリテーション専門職と連携し、地域活動団体への支援を行う。 地域資源マップと併せて統合型GISを活用し、地域活動団体の情報を一元化し、周知する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

地域活動へ主体的・積極的に参加する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	長寿はつらつ課	係 名	高齢者支援係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(11)地域福祉を支える団体の活性化・人材の育成				
	事業名	⑤認知症総合支援				
	事業概要	認知症初期集中支援チーム員会議、認知症地域支援推進員会議の定期的な開催と、新任職員研修等への参加により技能向上を図ります。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・認知症初期集中支援チーム員会議及び認知症地域支援推進員会議は概ね予定通り開催することができた。 ・関係者間では、令和6年度以降の取り組み方法等について意見交換を実施した。 ・市や地域包括支援センター職員の異動等を勘案して、各種研修に参加することができた。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
認知症初期集中支援チーム員会議の開催(回)	目標値	12回	12回	12回	12回	12回
	実績値	12回	11回	11回		
進捗状況 及び 自己評価	計画的に初期集中支援チーム員会議等の開催や各種研修に参加することができている。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	初期集中支援チーム員会議に提出する事例が減少している。また、専門職による訪問を積極的に実施するなど、見直しが必要である。
今後の取り組み方針	初期集中支援チーム員会議の候補者が増加する仕組みを検討するとともに、チーム員のスキルアップ等を目的とした研修の実施も検討する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

認知機能の低下が疑われるが、支援者がいないような高齢者を見かけた場合は、長寿はつらつ課や地域包括支援センターに連絡していただきたい。
--

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	こども・健康部	課 名	こども未来課	係 名	こども未来係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(11)地域福祉を支える団体の活性化・人材の育成				
	事 業 名	⑥青少年の健全育成				
	事業概要	青少年健全育成団体(青少年育成市民会議、青少年相談員朝霞市協議会、子ども会連合会)に補助金を交付し、団体の活動を支援するとともに、関係機関・学校・地域と連携して、青少年健全育成啓発活動を実施します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	青少年健全育成団体(青少年育成市民会議、青少年相談員朝霞市協議会、子ども会連合会)に補助金を交付し、団体の活動を支援するとともに、関係機関・学校・地域と連携して、青少年健全育成啓発活動を実施した。 ・青少年健全育成の集い、地域安全マップ作成事業、標語作成、防犯パトロール、駅頭キャンペーンなど					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
青少年健全育成啓発活動事業数	目標値	37事業	36事業	36事業	35事業	35事業
	実績値	8事業	16事業	18事業		
進捗状況 及び 自己評価	新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、中止としていた事業が再開できた。 今後についても、各団体の活動や事業について、参加や協力が得られるよう実施や開催を行っていただき、青少年健全育成の推進につなげたい。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	青少年健全育成団体への新規加入促進が課題であるため、児童館管理運営事業や市民による子育て支援活動を掌握し、青少年健全育成に結び付けていく努力が必要である。
今後の取り組み方針	既存団体の取組や考え方を尊重しつつ、課題に挙げた部分を改善できるよう努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

子育て支援団体やスポーツ・文化団体等を通じ、青少年健全育成の機運を高める。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	こども・健康部	課 名	健康づくり課	係 名	保健係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(11)地域福祉を支える団体の活性化・人材の育成				
	事業名	⑦心の健康づくりの推進				
	事業概要	社会情勢の変化等により、精神的なストレス要因の増大に伴う精神的不健康の増大に対し、ライフサイクルに応じた心の健康づくりの推進を図ります。また、相談援助業務に携わる保健師等が精神保健に係る事例検討を通して、相談援助技術の向上を図ります。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	相談援助業務に携わる保健師等が相談援助技術の向上を図るため、精神保健に係る事例検討会を9回実施。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
事例検討会実施回数	目標値	150回	150回	150回	150回	150回
	実績値	82回	107回	66回		
進捗状況 及び 自己評価	事例検討会を通して、関係機関がお互いの役割を理解し、考え方や視点の持ち方について学びを深めることができています。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	多機関・多職種が参加することにより、お互いの役割を理解し、支援に活用することができると考えるため、継続した参加が望ましいが、現状では難しい。
今後の取り組み方針	相談が複雑化する中、相談援助業務に携わる関係機関が協力し、今後においても相談スキルの向上を図る。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

関係機関との連携する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	市民環境部	課 名	地域づくり支援課	係 名	地域づくり支援係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(11)地域福祉を支える団体の活性化・人材の育成				
	事業名	⑧コミュニティ活動の活性化				
	事業概要	市民が相互に連携し主体的にまちづくりに参加するように意識高揚を図り、自治会・町内会及びコミュニティ関係団体への助成を行います。また、自治会連合会やコミュニティ協議会の活動内容等を市ホームページに掲載するとともに、団体が発行する広報紙の発行、配布の支援を行います。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容		・自治会等運営費補助金の交付 ・自治会等集会所建設事業補助金の交付 ・自治会連合会事務局の運営 ・朝霞市コミュニティ協議会に補助金の交付 ・朝霞市コミュニティ協議会及び市民まつり実行委員会の事務局運営				
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
自治会・町内会加入世帯数・加入率	目標値	41.4%	41.4%	41.4%	41.4%	41.4%
	実績値	39.5%	38.5%	37.5%		
進捗状況及び自己評価		指標の自治会・町内会加入世帯数・加入率については、目標値を下回ってはいるものの、自治会等や朝霞市コミュニティ協議会への助成は実施している。				
		B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない			

2 課題・今後の取り組み方針

課題	地域コミュニティの希薄化や市民の価値観の多様化、自治会・町内会が抱える課題など、様々な要因により自治会加入率の低下が進んでおり、加入率向上が喫緊の課題である。また、役員の高齢化や担い手不足が進んでおり、負担軽減についても取り組む必要がある。
今後の取り組み方針	加入率の低下や役員の負担軽減などの課題解決に向けて、自治会連合会と連携して取り組む必要がある。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

行政の支援を受けながら、主体的に地域自治活動に取り組んでいく。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	市民環境部	課 名	地域づくり支援課	係 名	地域づくり支援係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(11)地域福祉を支える団体の活性化・人材の育成				
	事業名	⑨コミュニティ活動への参加促進				
	事業概要	朝霞市コミュニティ協議会(朝霞市民まつり実行委員会)が主催する朝霞市民まつり「彩夏祭」の開催に対し、補助金の交付や事務局として積極的に支援していきます。また、彩夏祭を通して、朝霞市の文化に親しみ、ふるさと意識の醸成を図るために、市内小中学校に市民まつりの鳴子踊りの参加に係る費用を補助します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容		・朝霞市コミュニティ協議会に補助金(市民まつり補助金を含む。)の交付 ・彩夏祭のよさこい鳴子踊りに参加する小中学校に補助金を交付 ・朝霞市コミュニティ協議会及び市民まつり実行委員会の事務局運営				
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
市民まつり補助金交付金額	目標値	22,900,000円	22,900,000円	22,900,000円	22,900,000円	22,900,000円
	実績値	4,810,000円	22,000,000円	38,500,000円		
進捗状況 及び 自己評価	指標の市民まつり補助金交付金額については、目標値より上回る金額の補助となった。また、朝霞市コミュニティ協議会(朝霞市民まつり実行委員会)が主催する朝霞市民まつり「彩夏祭」の事務局として支援を行った。 市内小中学校に市民まつりの鳴子踊りの参加に係る費用の補助も実施した。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	彩夏祭を通して、朝霞市の文化に親しみ、ふるさと意識の醸成を図るために、市内小中学校に市民まつりの鳴子踊りの参加に係る費用を補助しているが、より多くの小中学校に参加してもらうことが課題である。
今後の取り組み方針	現在の取り組みを引き続き実施しつつ、さらに多くの小中学校に市民まつりの鳴子踊りに参加してもらうよう呼びかけ等を実施していく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

彩夏祭は、市民が主役のイベントであることから、実行委員やコミュニティ協議会加盟団体などの関係者だけでなく、市民がボランティアとして活動に参加することで、地域を支える人材の育成や交流を図っていく。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	市民環境部	課 名	地域づくり支援課	係 名	市民活動支援係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(11)地域福祉を支える団体の活性化・人材の育成				
	事業名	⑩市民活動の活性化				
	事業概要	NPO法人の新設や市民活動団体が実施する事業に補助金を交付します(市民活動団体支援補助事業)。また、地域活動の担い手となる人材の発掘、活動に参加することに繋がる機会、ボランティア団体と市民活動団体の交流や連携等を目的とした事業を実施します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	市民活動団体支援補助金の交付(事業補助をNPO法人など全14団体に交付)やNPO税務会計・設立運営相談会やSNS活用相談会など市民活動相談会を開催するなど団体運営に関する支援を行った。市民活動の新たな担い手を育成することを目的とした「地域デビュー支援セミナー」を開催した。市内の市民活動団体の活動の幅を広げるため、志木市、新座市、和光市と共催で「市民活動団体交流会」を開催した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
NPO法人数	目標値	52法人	54法人	56法人	58法人	60法人
	実績値	47法人	48法人	47法人		
進捗状況 及び 自己評価	指標のNPO法人数については、目標に至らなかったが、相談件数は増加している。団体の事業に係る補助金の交付や個別相談会の開催により団体運営の支援に努めた。また、地域活動への参加促進に繋がるセミナーの開催や団体交流会の実施などにより、活動の活発化、人材の育成、活動範囲の拡大等に関する支援を行うことができた。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	活動の担い手の高齢化や会員の不足など
今後の取り組み方針	関係機関や他市の市民活動担当と連携を図りながら、活動への参加の機会の提供や情報発信の強化、団体同士の連携等が図れる事業を実施していく。また、団体が抱える課題の解決に向けて、引き続き、支援する側の職員の資質向上に努めていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

補助金の支給、各種相談会や交流会など市民活動への参加、担い手の育成や団体活動の拡大に関する事業等を、今後も実施・運営していくので、関心のある方や団体の積極的な参加が望まれる。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	総務部	課 名	財産管理課	係 名	営繕係
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(12)施設等の整備・充実				
	事業名	①公共施設の修繕・改修				
	事業概要	地域福祉の活動拠点として、市民が安心・安全に公共施設を利用できるように、必要に応じて施設改修を行います。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	第二中学校の体育館や柔剣道場に新しく空調設備を設置、市庁舎及び東朝霞公民館の空調設備の更新、市庁舎の屋上防水改修工事などを実施した。 その他にも仲町市民センターの大規模改修や、博物館の外壁等改修のための設計をおこなった。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
改修工事实施設数	目標値	10件	10件	10件	10件	10件
	実績値	12件	7件	9件		
進捗状況 及び 自己評価	上記のとおり工事や設計をおこない、市民の活動拠点の環境をより安心安全なものへと向上させた。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	マネジメント実施計画に基づき計画的に施設の改修を行っていくが、計画順位の低い各施設の修繕は緊急性が高いものからの実施となり後手に回りがちである。
今後の取り組み方針	マネジメント実施計画に基づき計画的に施設の改修を行っていく。 また、修繕については施設点検結果を各施設所管課に報告し、修繕実施を促す。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

施設利用にあたり不便な点を改善要望として挙げる。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	総務部	課 名	財産管理課	係 名	営繕係
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(12)施設等の整備・充実				
	事業名	②公共施設のバリアフリー化				
	事業概要	公共施設の利用者が、長期間継続して、安心、安全、快適に使用できるように、ユニバーサルデザインを取り入れた設計を行い、バリアフリー化を推進していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	朝霞第九小学校校舎増築工事及び仲町市民センター大規模改修工事の設計業務において、スロープ及び点字ブロック、車いす用トイレ、手すりを設置するなど埼玉県福祉のまちづくり条例の整備基準に適合した計画といたしました。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
公共施設におけるバリアフリー化項目の延べ整備数(項目:点字ブロック、スロープ、エレベーター、バリアフリートイレ、音声ガイド用スピーカー、車いす用駐車場、ローカウンター)	目標値	193項目	194項目	195項目	196項目	197項目
	実績値	202項目	204項目	204項目		
進捗状況及び自己評価	朝霞第九小学校校舎増築工事設計業務及び仲町市民センター大規模改修工事設計業務委託において、埼玉県福祉のまちづくり条例の整備基準に適合させた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	既存の敷地が狭小であることや段差が大きいため、必要なエレベーターやスロープなどのバリアフリー化を図るための設備設置スペースの確保が困難な場合がある。
今後の取り組み方針	改修工事の際は、バリアフリー化のための提案、設計を積極的に行う。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

施設利用にあたり不便な点を改善要望として挙げる。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部 危機管理室	課 名	障害福祉課 長寿はつらつ課 危機管理室	係 名	障害福祉係 高齢者支援係 危機管理係
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(13)防災対策の充実				
	事業名	①避難行動要支援者支援制度の推進(再掲)				
	事業概要	災害時における避難行動要支援者への支援を円滑に実施するため、関係課が連携し、避難行動要支援者台帳を作成します。また、自治会・町内会、民生委員児童委員、消防団、地域包括支援センター等の避難支援者となる各団体に配付を行い、災害時における支援のほか、日頃からの顔の見える関係づくりに活用します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・災害時における避難行動要支援者の支援を円滑に実施するため、福祉部門と連携し、避難行動要支援者台帳を作成し、自治会・町内会、民生委員児童委員等の避難支援者となる方々に配付を行い、災害時における支援のほか、日頃からの顔の見える関係づくりに活用いただく。 ・調査実態を踏まえ様式と調査方法を調整し、自治会・町内会等からの意見を元に、要綱改正を経て様式等を決定した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
避難行動要支援者台帳の更新及び配付	目標値	年1回	年1回	年1回	年1回	年1回
	実績値	年1回	年1回	年1回		
進捗状況及び自己評価	予定通り令和5年6月中旬に更新及び配布を行った。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	・見直し後の個別避難計画作成の速度と精度。 ・台帳を活用した訓練等が実施できていない。
今後の取り組み方針	・引き続き、避難行動要支援者台帳の更新及び配付を計画的に実施するとともに、台帳を活用した訓練の実施等、活用支援について検討を行う。 ・来年度以降は、新たに決定した様式と調査方法で、浸水想定地区から順次調査を進めていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

個別避難計画を作成する際は、自治会・町内会、民生委員児童委員は周知・協力する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	危機管理室	課 名	危機管理室	係 名	危機管理係
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(13)防災対策の充実				
	事業名	②防災意識の高揚				
	事業概要	防災意識の高揚を図るため、防災に関する情報を市から発信するとともに、自衛隊、消防署及び消防団等の防災関係機関と協力し、子どもから大人まで誰でも参加できる防災イベントを実施します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	自助・共助の役割や災害への備えに役立つ防災知識の習得及び防災意識の高揚を図るため、自衛隊、消防署及び消防団等の防災関係機関と協力し、防災フェアを実施する。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
メール配信サービスへの登録者数	目標値	6,000人	7,000人	8,000人	9,000人	10,000人
	実績値	6,840人	6,507人	6,581人		
進捗状況及び自己評価	令和5年9月30日(土)に総合防災訓練にて、防災フェアを開催した。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	来年はカインズ朝霞に会場が戻るため、内容を更に充実させる
今後の取り組み方針	自衛隊、消防署及び消防団等の関係機関と協力し、子どもから大人まで楽しく学ぶことができる体験型の防災プログラムを実施する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

防災フェアに、様々な方々が参加する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	危機管理室	課 名	危機管理室	係 名	危機管理係
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(13)防災対策の充実				
	事業名	③自主防災組織の結成促進				
	事業概要	自主防災組織未結成の自治会に対し、地域防災アドバイザーと協力し、自主防災組織の必要性、活動内容を説明し、結成を促進します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	自主防災組織未結成の自治会に対し、地域防災アドバイザーと協力し、自主防災組織の必要性、活動内容を説明し、結成を促進する。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
自主防災組織数	目標値	48組織	49組織	50組織	51組織	52組織
	実績値	47組織	48組織	48組織		
進捗状況 及び 自己評価	新たに自主防災組織の結成はなかったが、引き続き結成促進を図り、自主防災組織の結成を促していきたい。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	更なる結成促進
今後の取り組み方針	地域防災アドバイザーと協力し、引き続き結成促進を図るとともに、既存の自主防災組織が行う訓練や資機材整備に対する補助金を交付し、自主的な防災活動を支援していく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

自主防災組織を新たに結成する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	危機管理室	課 名	危機管理室	係 名	危機管理係
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(14)防犯対策の充実				
	事業名	①防犯情報の発信				
	事業概要	防犯ニュースの配信、防災行政無線の放送等、様々な方法で適時適切な情報発信を通して防犯意識の高揚に努めます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	警察及び関係機関との連携のもと、複雑巧妙化する犯罪などの防犯ニュースの配信のほか、防災行政無線での振り込み詐欺被害防止の放送等、様々な方法で情報発信を行い、防犯意識の高揚を図る。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
防犯ニュースの発信	目標値	週1回	週1回	週1回	週1回	週1回
	実績値	週1回	週1回	週1回		
進捗状況 及び 自己評価	防犯情報を迅速に配信できるよう、日頃から警察等の関係機関との連携を推進していく必要がある。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	防犯情報を迅速に配信できるよう、日頃から警察等の関係機関との連携を推進していく必要がある。
今後の取り組み方針	引き続き警察等の関係機関と連携し、適時適切な情報発信を通して防犯意識の高揚に努めていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

市や警察が発信する犯罪情報をみて、防犯意識を高める。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	危機管理室	課 名	危機管理室	係 名	危機管理係
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(14)防犯対策の充実				
	事業名	②防犯活動の推進				
	事業概要	防犯パトロールカーの運行を実施するとともに、わがまち防犯隊やスクールガードによる地域の自主的な防犯活動を支援し、市及び地域コミュニティによる見守り活動を推進していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	防犯パトロールカーの運行を実施するとともに、わがまち防犯隊やスクールガードによる地域の自主的な防犯活動を支援し、市及び地域コミュニティによる見守り活動を推進する。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
警備員による青色防犯パトロールカーの運行	目標値	週5回	週5回	週5回	週5回	週5回
	実績値	週5回	週5回	週5回		
進捗状況及び自己評価	週5回防犯パトロールカー運行を実施することができた					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	犯罪発生を抑止力として地域の防犯意識を高めるため、継続的にパトロール活動を行っていく必要がある。
今後の取り組み方針	犯罪を起こさせにくい環境づくりを推進するため、引き続き防犯パトロールカーの運行を行うとともに、わがまち防犯隊やスクールガードによる地域の見守り活動の支援に努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

普段生活している中で、不審者や迷い人等をみかけたら警察へ連絡する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	市民環境部	課 名	地域づくり支援課	係 名	市民生活・相談係
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(14)防犯対策の充実				
	事業名	③消費生活相談(再掲)				
	事業概要	消費者被害の未然防止・被害回復のために、消費生活相談員による相談を行います。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	開庁日の10時～正午、午後1時～4時に面談及び電話で消費生活相談を実施。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
消費生活相談件数	目標値	900件	940件	980件	1020件	1070件
	実績値	829件	846件	800件		
進捗状況 及び 自己評価	相談件数は目標値に至らなかったものの、例年同様の件数が見込まれた。 相談件数が目標値に至らなかったのは、トラブルの件数が少なかったと見える反面、消費生活相談の認知度が低いという観点も認識する必要があると捉えている。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	消費者トラブルは年々多種・多様化している。また、高齢者の消費者被害も依然として高い状況が続いていることから、消費者トラブルに対応するため、消費生活相談員のスキルアップを図り、消費生活相談の充実を図る必要がある。
今後の取り組み方針	消費者トラブルにあった時の相談窓口として、引き続き啓発活動を行い、消費生活センターの認知度を高めていくよう努める。 また、消費生活相談員には、各種研修に参加できるように環境等の整備を行っていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

高齢者や自己判断が難しい市民に対し、隣近所の方が見守りを行い、消費者トラブルの発生が見込まれる場合に、消費生活センターにつなげる。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	障害福祉課	係 名	障害給付係
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(15)外出・移動の支援				
	事業名	①重度心身障害者福祉タクシー利用料等の補助				
	事業概要	重度の心身障害のある人の社会生活圏の拡大と経済的負担の軽減のため、福祉タクシー利用券、バス・鉄道共通ICカード、自動車燃料費の中から選択制により補助を行います。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	身体障害者手帳1、2級、下肢機能障害3級所持者、療育手帳○A、A、B所持者、精神障害者保健福祉手帳1、2級所持者に対し、交通費を助成する。(バス・鉄道共通ICカードチャージ費用の補助、自動車燃料費の補助、福祉タクシー券の交付のいずれかの選択)					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
福祉タクシー利用料券、バス・鉄道共通ICカード及び自動車燃料費(いずれか1つを選択)の重度心身障害者利用者数	目標値	2,500人	2,500人	2,500人	2,500人	2,500人
	実績値	2,358人	1,873人	1,992人		
進捗状況及び自己評価	令和5年度は、福祉タクシー券交付者数422名、自動車燃料費676名、バス・鉄道共通ICカード894名(いずれもR6.3.31時点の未確定値)に対し補助した。年度当初に、補助対象者に申請書と返信用封筒と送付し、利便性向上に努めた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	近隣市と比較しても高い水準で補助を行っており、引き続き申請方法など利便性向上に努める。
今後の取り組み方針	利用者の需要を把握するとともに、申請方法を検討しより利便性向上に努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

市民の利便性向上のための郵送による申請等を積極的に活用する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	長寿はつらつ課	係 名	高齢者支援係
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(15)外出・移動の支援				
	事 業 名	②高齢者バス・鉄道共通カードの給付				
	事業概要	高齢者の外出支援を目的として、バス・鉄道共通カードの交付及び給付を行います。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	郵送申請用の返信用封筒を同封し、窓口の混雑を避ける工夫を行い、チャージ料の給付を行うことができた。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
高齢者バス・鉄道共通カード申請者数	目標値	16,000人	16,500人	17,000人	17,500人	18,000人
	実績値	15,076人	15,311人	15,500人		
進捗状況 及び 自己評価	多くの方にチャージ料を給付することができている。また、令和2年度から郵送申請用の返信用封筒を同封し、申請を促すことができている。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	関係部署と情報共有を図り、新たな外出支援を含めた自立支援施策を検討する必要がある。
今後の取り組み方針	高齢者の外出支援事業として、高齢者バス・鉄道共通カードの交付事業は高い利用率で、一定の成果を得られている一方、高齢者の移動支援については、様々なニーズがあることから関係部署との連携・情報共有や他自治体の施策の調査・研究などを通じ、新たな外出支援も含め、高齢者の自立支援施策のありかたを検討していく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

事業の周知のため、未申請者への申請の働きかけについて協力する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	都市建設部	課 名	まちづくり推進課	係 名	交通政策係
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(15)外出・移動の支援				
	事業名	③市内循環バス等の利便性向上				
	事業概要	持続可能な地域公共交通の実現を目指し、市内循環バスの運行計画等の見直しに向け検討を行います。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	- バス事業者3社との協定に基づき、運行に係る経費のうち運賃を除いた経費をバス事業者に助成することにより、市内循環バスを運行した。 - 公共交通空白地区の改善に向け、先行検討地区の地域住民と協働して取り組んだ。 - 防災フェアにわくわく号乗車体験コーナーを出展し、バスの魅力PRやバスの乗り方等について周知啓発を実施した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
年間利用者数	目標値	288,000人	328,000人	334,000人	340,000人	346,000人
	実績値	334,493人	379,307人	383,000人		
進捗状況 及び 自己評価	- バス事業者3社との協定に基づき、市内循環バスを適正に運行した。 - 公共交通空白地区の改善では、先行検討地区と協働で仮運行計画を作成し、アンケート調査及び試験運行を実施した。 - 令和5年7月に運賃改定を行ったものの、バスの年間利用者数については、前年度より3,000人以上増加した。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	交通事業者全体が深刻な運転手不足にある中、持続可能な運行計画の見直しについて検討を必要がある。
今後の取り組み方針	令和6年度から2か年で第2次公共交通計画の策定に着手することから、アンケート調査や交通事業者へのヒアリングなどを実施するとともに、地域公共交通協議会での議論を踏まえながら、持続可能な交通計画の見直しについて検討を行う。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

持続可能な地域公共交通の実現に向け、目的地や日によって公共交通を使い分けるなど、積極的に公共交通を利用する。
--

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	都市健康部	課 名	まちづくり推進課	係 名	交通政策係
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(15)外出・移動の支援				
	事業名	④自転車駐車場の整備				
	事業概要	自転車駐車場のキャンセル待ち対応、3人乗り自転車や大型化する車両への対策、施設の老朽化対策について検討していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・指定管理者と基本協定書及び年度協定書に基づき管理を実施した。 ・駅前自転車駐車場における大型自転車のキャンセル待ちを解消するため、令和3年度から運用を開始している大型自転車臨時駐車場についても適正に管理した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
自転車駐車場等整備、維持管理箇所数	目標値	10か所	10か所	10か所	10か所	10か所
	実績値	10か所	10か所	10か所		
進捗状況及び自己評価	・各自転車駐車場について、指定管理者により適正に維持管理を実施した。 ・朝霞台駅南口第一自転車駐車場では1階部分を定期利用とする運用の見直しを行ったほか、北朝霞駅東口地下自転車駐車場では大型自転車の駐車スペースを創出するため改修工事を実施し、キャンセル待ちの大幅な減少(100台以上)につながった。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	自転車駐車場のキャンセル待ちについては各種対策により減少傾向にあるが、キャンセル待ちの解消に向け、引き続き対応を行う必要となる。
今後の取り組み方針	令和6年度は、朝霞駅東口大型自転車臨時駐車場の受け入れ台数を増加するための改修工事を実施する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

キャンセル待ちの解消のため、市が整備した大型臨時駐車場の利用に協力する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	福祉相談課	係 名	福祉相談係
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(16)住まいの確保等への支援				
	事 業 名	①住居確保給付金の支給				
	事業概要	離職等により経済的に困窮し、住居を喪失した人又は喪失のおそれのある人からの申請に対し、審査の上、家賃相当分の住居確保給付金を一定期間支給します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	住居確保給付金の申請を受け、適正な支給を行った。 制度改正があった際には、ホームページ等への掲載を行い周知を図った。 (R5年度実績) 住居確保給付金 決定件数12件、支給件数33件、総支給額1,542,900円					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
住居確保給付金の支給件数	目標値	10件	10件	10件	10件	10件
	実績値	156件	12件	12件		
進捗状況及び自己評価	令和2年度から令和4年度まではコロナによる特例措置があったため、申請件数・支給額ともに増加していたが、特例措置が令和5年3月31日で終了となり、令和5年度は、コロナ禍前の申請状況に戻りつつあった。 すべての支給決定者へプランを作成し、自立に向けた就労支援を併せて実施した。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	受給中に常用就職が困難で収入の改善が見込めない方については、速やかに生活保護への相談・申請を促しているが、中々繋がらず、生活が安定しない方もいた。また、本事業の周知方法についても検討していく必要がある。
今後の取り組み方針	制度改正内容の周知が行き届くよう、ホームページ等への掲載内容を工夫するとともに、相談者に応じた支援方法の検討・提案などを行い、相談者に寄り添った支援を行っていく。 また、受給中に常用就職が困難な方で収入改善が見込めない方については、生活保護への繋ぎを丁寧に行っていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

生活に困窮している方に対して、相談窓口の案内などの協力

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	長寿はつらつ課	係 名	高齢者支援係
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(16)住まいの確保等への支援				
	事業名	②高齢者への住宅支援				
	事業概要	民間賃貸住宅の借上げにより、住宅の確保が困難な高齢者に対して住宅を提供していきます。また、住宅確保要配慮者への情報提供や住宅改善費の助成を実施していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・高齢者住宅は、空き部屋が発生次第、速やかに募集記事を広報や市ホームページに掲載し、申請者に対して提供することができた。 ・住宅確保要配慮者に対して、市営住宅やセーフティネット住宅等の情報を提供することができた。 ・住宅改善費は、安全な日常生活を営む上で居室等の改修が必要な方に対して、改修費用の一部を助成することができた。 ・まちづくり推進課が実施する居住支援相談を通じて、連携を図る体制を構築することができた。 ・関係各課及び市内不動産事業者と定期的に意見交換を実施した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
高齢者住宅の利用者数	目標値	22人	22人	22人	22人	22人
	実績値	22人	22人	22人		
進捗状況及び自己評価	・高齢者住宅の提供、市営住宅等の情報提供、住宅改善費の助成及び関係機関と連携を図るなど、高齢者への住宅支援を実施することができている。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	・各種事業の普及・啓発を図り、ニーズに合わせた必要な支援を行う必要がある。 ・関係部署や不動産事業者等と情報の共有や連携を図りながら協力するなど、住宅確保要配慮者に対して、支援を継続する必要がある。
今後の取り組み方針	要支援や要介護の認定を受けた方等が住み慣れた自宅で安心した生活を継続するために必要な事業であり、今後も需要が見込まれるため、事業の普及・啓発を図るほか、不動産事業者等と意見交換を行うなど、令和6年度以降も各種取組を継続していく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

近隣に住宅の確保が困難な高齢者や住宅改善を検討されている高齢者がいた場合、市の事業(取り組み)について案内する。
--

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	都市建設部	課 名	開発建築課	係 名	住宅政策係
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(16)住まいの確保等への支援				
	事業名	③住宅政策				
	事業概要	住宅を自力で確保することが難しい低額所得者、高齢者、障害のある人などが、安心して暮らせる住宅を確保できる環境の実現に努めます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	公益社団法人埼玉県社会福祉士会と業務委託契約を締結し、住宅確保要配慮者への居住の確保及び居住の安定を図るための居住支援相談を開設し、福祉部局と連携しながら相談業務を行っている。また、相談内容に応じ、必要な場合は継続した居住支援を行っている。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
住宅に関する相談件数	目標値	10件	15件	20件	25件	30件
	実績値	12件	12件	35件		
進捗状況 及び 自己評価	居住支援相談の実施により、福祉部局や関係機関との連携体制が強化され、より強靱な体制づくりを築きながら、住宅確保要配慮者への居住支援を推進することができた。 また、5月、11月、2月には福祉部局や不動産事業者等を交えた居住支援に関する意見交換会を実施し、居住支援における課題の共有や、連携の強化を図ることができた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	将来的に居住支援協議会を設置(国の住生活基本計画の目標:令和12年までに県内人口カバー率50%以上の協議会設置)することを目標に据え、安定した事業運営を図る。
今後の取り組み方針	居住支援相談では、相談後の継続的支援の実施を業務委託内容に組み込み、更なる支援を行う。 また、居住支援に関する意見交換会を引き続き実施し、更なる居住支援体制の構築を推し進める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

身近に支援が必要な方がいる場合に相談窓口を案内する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	福祉相談課	係 名	地域福祉係
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(17)再犯防止の推進				
	事業名	①更生保護関係団体への支援				
	事業概要	保護司は保護観察対象者に対し、立ち直りに必要な指導や就学、就職支援にあたるほか、矯正施設等から社会復帰した人が、円滑な社会生活を営めるよう帰住先の環境の調整や更生保護相談を行っています。犯罪や非行をした人たちの再犯防止と社会復帰に取り組むよう保護司会の活動を支援します。また、犯罪や非行の未然防止のための啓発活動を行うほか、青少年健全育成など改善更生に協力する更生保護女性会の活動についても協力します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	埼玉県更生保護観察協会朝霞支部の活動に対し負担金、保護司会の活動に対し補助金を交付した。また、保護司会が自ら行う自主研修会を3回、矯正施設の視察研修を1回実施し、事務局として会場の設営や資料作成などを行い、研修会が円滑に進められるよう協力をした。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
市内における刑法犯認知件数	目標値	905件	887件	868件	850件	831件
	実績値	600件	653件	791件		
進捗状況 及び 自己評価	更生保護関係団体の活動を支援することで、犯罪や非行をした人たちの改善更生を助けるとともに、犯罪を予防し、地域社会の安全及び住民福祉の向上に寄与することができている。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	更生支援を行う保護司の定数に欠員が生じている。また、犯罪や非行をした人たちが円滑に社会復帰を目指せるように、引き続き、保護司会と福祉関係機関との連携を図っていく必要がある。
今後の取り組み方針	保護司会と連携を図りながら、保護司の担い手確保に向けた取り組みを行っていく。 また、保護観察対象者の社会復帰に必要な就労・住居・保健医療・福祉等の支援策について、保護司会へ積極的な情報提供を行っていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

保護司会の活動や社会を明るくする運動などを通じて、再犯防止を含む犯罪抑制への理解を深める。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

部 局 名	福祉部	課 名	福祉相談課	係 名	地域福祉係
第4期計画掲載内容	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり			
	施策の方向性	(17)再犯防止の推進			
	事業名	②更生保護サポートセンターの支援			
	事業概要	地域における更生保護の活動拠点として、朝霞地区更生保護サポートセンターを総合福祉センター(はあとびあ)内で運営することに引き続き協力します。更生保護サポートセンターの設置により、保護司と保護観察対象者との面接場所が確保されるほか、保護観察所や保護司との情報交換などが円滑になり、更生保護活動の充実が図られます。			

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	朝霞地区更生保護サポートセンターを総合福祉センター内に設置することで、更生保護活動を支援できた。朝霞地区更生保護サポートセンターは、毎週火曜日から金曜日の午前10時から午後4時まで開所しており、経験豊富な企画調整保護司が常駐して、保護司の処遇活動に対する支援や更生保護関係団体との連携の推進を行った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
更生保護サポートセンター利用件数	目標値	84件	84件	84件	84件	84件
	実績値	35件	48件	57件		
進捗状況 及び 自己評価	朝霞地区更生保護サポートセンターの活動場所として、総合福祉センターの利用を通じて、保護司と保護観察対象者との面接場所が確保されたなど、更生保護活動の充実が図られた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	施設の工事修繕等の影響により総合福祉センターが休所した際に、代替となる面接場所を確保する必要がある。
今後の取り組み方針	引き続き、地域における更生保護の活動拠点である更生保護サポートセンターの運営に協力する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

保護司会の活動や社会を明るくする運動などを通じて、再犯防止を含む犯罪抑制への理解を深める。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	福祉相談課	係 名	地域福祉係
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(17)再犯防止の推進				
	事業名	③社会を明るくする運動				
	事業概要	保護司会及び更生保護女性会と協力して、7月の再犯防止啓発月間に、犯罪や非行の防止と犯罪や非行をした人たちの更生について理解を深めるよう、懸垂幕の掲出や、駅頭での啓発活動など「社会を明るくする運動」を推進します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	7月の再犯防止啓発月間において、市役所での懸垂幕の掲出と、朝霞駅前電光掲示板の放送を行い、周知を図った。また、朝霞地区保護司会の各支部と連携して、第73回「社会を明るくする運動」朝霞地区大会を開催し、講演会や啓発品の配布を行った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
啓発活動	目標値	1回	1回	1回	1回	1回
	実績値	1回	1回	1回		
進捗状況 及び 自己評価	「社会を明るくする運動」の開催及び広報誌やホームページ、懸垂幕、電光掲示板を活用した広報活動により、犯罪や非行の防止と犯罪や非行をした人たちの更生に関する市民理解の促進を図ることができた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	犯罪や非行の防止と犯罪や非行をした人たちの更生について、市民一人ひとりの理解を深める必要がある。
今後の取り組み方針	引き続き、朝霞地区保護司会や朝霞地区更生保護女性会と協力し、「社会を明るくする運動」を推進していく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

保護司会の活動や社会を明るくする運動などを通じて、再犯防止を含む犯罪抑制への理解を深める。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	福祉相談課	係 名	地域福祉係
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(17)再犯防止の推進				
	事業名	④再犯防止に関する広報の推進				
	事業概要	7月の再犯防止啓発月間において、再犯防止に関する広報を行い、市民への理解と周知に努めます。また、朝霞地区保護司会の各支部と連携して、「社会を明るくする運動」朝霞地区大会を開催し、講演会や啓発品の配布を行った。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	7月の再犯防止啓発月間において、広報誌及び朝霞駅前電光掲示板の放送による周知を行った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
広報紙、ホームページでの情報発信	目標値	1回	1回	1回	1回	1回
	実績値	1回	1回	1回		
進捗状況 及び 自己評価	啓発活動などにより地域全体で立ち直りを支える再犯防止について、市民への周知を図ることができた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	再犯防止や犯罪をした者等の社会復帰支援の重要性について理解を促進する必要がある。
今後の取り組み方針	ホームページをはじめSNSを活用するなど、様々な媒体を通じて再犯防止に向けた啓発活動を実施する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

保護司会の活動や社会を明るくする運動などを通じて、再犯防止を含む犯罪抑制への理解を深める。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	福祉相談課	係 名	福祉相談係
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(17)再犯防止の推進				
	事業名	⑤生活困窮者自立支援				
	事業概要	犯罪や非行をした人に対して、生活困窮者自立支援法に基づき、相談や就労支援、学習支援、住居確保給付金の支給など、各種支援を行います。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容		生活困窮者自立支援法に基づき、生活困窮者に対して市町村の必須事業とされている自立相談支援事業及び住居確保給付金の支給、任意事業の学習支援事業及び家計改善支援事業を実施した。				
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
生活困窮に関する相談件数	目標値	600件	600件	600件	600件	600件
	実績値	1,772件	1,424件	850件		
進捗状況 及び 自己評価	生活困窮に関する相談件数は、コロナ禍前に戻りつつあるが、令和5年度は、経済的困窮をはじめとして就労活動困難、病気、住まいの不安定、家庭の課題、メンタルヘルス、家計管理の課題、就労定着困難、債務問題など多岐に渡り、1ケースあたりの支援時間も長くなっている傾向があった。 また、様々な関係機関(庁内・庁外)との調整や連携を必要とする業務特性より、令和5年4月に生活困窮者自立支援法で規定する支援会議を設置し、関係機関等がそれぞれ把握している困窮が疑われるような個々の事案の情報共有を行い、支援の検討を行うことができた。 令和5年度は犯罪や非行をした方の相談は把握できていない。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	複雑化かつ多様化している生活困窮者の有する課題に対応するためには、就労、家計など様々な面から自立に向けた包括的な支援を提供できる体制を整えていく必要がある。
今後の取り組み方針	生活の困窮に関わる相談を含め、日常生活における様々な困りごとや悩みごとをはじめ、ひきこもりの方、8050問題など、複合化かつ複雑化する問題を包括的に受け止める相談体制などを検討していく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

生活に困窮している人を身近で見かけたときに、相談先を案内する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	こども・健康部	課 名	こども未来課	係 名	こども未来係
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(17)再犯防止の推進				
	事業名	⑥青少年健全育成啓発キャンペーン				
	事業概要	青少年育成市民会議が主体となって、青少年をはじめ市民を対象に、啓発物の配布など非行防止・薬物乱用防止に関する啓発に努めます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	夏季及び冬季に駅前等での啓発キャンペーンを実施した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
啓発キャンペーン実施回数	目標値	2回	2回	2回	2回	2回
	実績値	0回	0回	2回		
進捗状況及び自己評価	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により数年間中止となっていたが、令和5年度は中学生をはじめ多くの方に協力をいただき、事業を再開することができた。 来年度以降についても、引き続き実施していく。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	若い父親、母親世代の方々を青少年健全育成活動に取り込んでいくための方策を検討する。
今後の取り組み方針	街頭キャンペーンのほか、HPやSNS等での啓発も検討したい。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

若い父親、母親世代の方々やスポーツ少年団、自治会町内会等の地域の人々が協力することで、市民総ぐるみでの青少年健全育成の啓発を進める。
--

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	学校教育部	課 名	教育指導課	係 名	—
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(17)再犯防止の推進				
	事業名	⑦非行防止教室の実施				
	事業概要	学校が保護者、地域、警察等の関係機関と連携を図り、児童生徒の非行防止や薬物乱用防止等の教育を推進するため、教室等を実施します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	各学校の状況に応じて様々な取組を実施した。以下に例を挙げる。 ・e-ネットキャラバンによる「ビデオオンデマンド講座」を実施した。 ・ビデオを視聴しながら、資料を活用し、家庭でのルールを見直した。 ・朝霞警察署・生活安全課の職員を招いて防犯・非行防止教室を行った。ネットトラブルの問題も増えているため、SNSの正しい使い方についても講話していただいた。 ・県警非行防止指導班「あおぞら」による非行防止教室を開催した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
非行防止教室や薬物乱用防止教室等の実施校	目標値	15校	15校	15校	15校	15校
	実績値	15校	15校	15校		
進捗状況及び自己評価	毎年全校での実施ができています。非行防止については、義務教育期間をかけて児童生徒へ非行防止に関する意識を涵養していくことが必要であるので、今後も継続していく。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	○地域と協働した非行防止
今後の取り組み方針	○保護者や地域住民の参加を促したり、コミュニティスクールでより効果的なものになるよう熟議したりしていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

学校公開等を通じて、各校の児童生徒の様子を地域の方々に知っていただき、「子供たちを地域で見守り、育てる」基盤を強化する。

4 推進委員会の意見(評価)

令和5年度
第4期朝霞市地域福祉活動計画
進行管理・評価シート(案)

委員会会議資料

基本目標	施策の方向性	事業名	担当課	頁	進捗状況					
1 市民の暮らしを支える仕組みづくり					R3	R4	R5	R6	R7	
	(1)地域共生社会の実現に向けた仕組みづくり	① 関係機関との連携			A	A	A			
		② 身近な福祉圏域の検討			B	B	B			
		③ CSWの配置			B	B	B			
	(2)相談支援体制の充実	① 特別な配慮が必要な子どもへの相談・支援			B	A	A			
		② 身近な総合相談支援の充実			A	A	A			
		③ ボランティア活動の相談・コーディネート			A	A	A			
		④ 身近なボランティアの相談窓口の充実			A	A	A			
	(3)保健医療・社会福祉サービスの充実	① 機関連携研修会			A	A	A			
		② 障害のある人の就労支援			A	A	A			
		③ 社会福祉法人の連絡会議			B	B	B			
	(4)権利擁護の推進	① 成年後見制度の理解・普及			A	A	A			
		② 虐待防止対策			A	A	A			
		③ あんしんサポートねっと			A	B	B			
	(5)生活困窮者等への支援の充実	① 生活再建のための相談支援			A	A	A			
		② 子どもの貧困対策に関わる団体への支援			B	A	A			
	(6)地域住民の交流の促進	① 地域住民の交流の機会の提供			B	A	A			
		② 地域住民の交流の活性化			B	A	A			
		③ 外国人への支援			A	A	A			
2 思いやりと支え合いの心づくり					R3	R4	R5	R6	R7	
	(7)地域福祉に関する理解と参加の促進	① ボランティア・実習生の受け入れ			A	A	B			
		② 出前講座の実施			A	A	A			
		③ ボランティア講座の開催			A	B	A			
		④ 手話体験・要約筆記体験の実施			B	A	B			
		⑤ 地域福祉財源の確保			B	B	B			
		⑥ あいはあと事業			A	A	A			
	(8)支え合い・助け合いの気持ちの醸成	① 教職員対象の研修会の実施			A	A	A			
		② 他機関と連携した福祉教育の実施			A	A	A			
	(9)地域での見守りの充実	① 住民参加による見守り事業の推進			B	A	A			
	(10)情報共有・発信の充実	① 分かりやすい福祉情報の提供			B	A	A			
		② メディア戦略の強化			A	B	B			
	(11)地域福祉を支える団体の活性化・人材の育成	① 福祉活動団体に対する活動支援			A	A	A			
		② 手話講習会の実施			A	A	B			
		③ 老人クラブに対する活動支援			B	A	A			
		④ ボランティア講座の開催(再掲)			A	B	A			
		⑤ 地域活動団体間の交流事業			B	B	B			

※ 部分は、重点的評価施策

基本目標	施策の方向性	事業名	担当課	頁	進捗状況				
3	安心して暮らしやすい地域づくり				R3	R4	R5	R6	R7
	(12)施設等の整備・充実	① 地域の人が集える拠点づくり			A	B	B		
		② 施設の点検・修繕			A	A	A		
	(13)防災対策の充実	① 災害ボランティア講座			B	A	B		
		② 災害ボランティアセンター設置訓練の実施			B	B	B		
		③ 防災訓練の実施			A	A	A		
		④ 小地域福祉活動における防災事業の相談支援			A	A	A		
	(14)防犯対策の充実	① 子どもへの防犯教室の実施			B	A	A		
		② 住民の防犯への意識の啓発			B	B	B		
	(15)外出・移動の支援	① 障害のある人や高齢者の外出支援			A	A	C		
		② 車いすの貸出し			A	B	B		
	(16)住まいの確保等への支援	① 生活困窮者等への支援			A	A	A		
	(17)再犯防止の推進(再犯防止推進計画)	①							

※ 部分は、重点的評価施策

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	総務課 地域福祉推進課 高齢者・児童福祉課 あさか福祉作業所 はあとびお福祉作業所	係 名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(1)地域共生社会の実現に向けた仕組みづくり				
	事業名	①関係機関との連携				
	事業の概要	高齢者・障害者・子育て支援等、様々な関係者との会議や情報交換等を通じて連携を深めてきました。今後、さらに「連携・協働の場」としての役割を十分に発揮し、地域住民や地域の様々な関係者・地域団体の参加と協働をもとに、地域の生活課題(ニーズ)について解決できる仕組みをつくっていきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・社協理事会(2)・評議員会(2)・地域ケア会議出席(5)・生活支援コーディネーター会議(9)・第1層協議体会議(2) ・第2層協議体会議(2)・保護司会連絡会(1)・校長会議・教頭会議(1)・民協会長会(1) ・朝霞市地区民生委員児童委員協議会(6)・あんしんサポートねっと担当者四市ブロック会(1) ・特定相談支援事業所等連絡会(8)・特定相談支援事業所等連絡会事務局会議(10) ・進路連絡協議会(和光南特別支援学校等)(4)・福祉事業所合同説明会(1) ・南西部地域就労支援センター等情報交換会(4)・埼玉県障害者就労支援センター等連絡協議会(2) ・手話調整会議(2)・朝霞市障害者プラン推進委員会(4)・四市内福祉施設医療職ネットワーク会議(1) ・朝霞市子ども子育て会議(7)・児童館運営協議会(3)・要保護児童対策協議会(8) ・朝霞市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画推進会議(3)・地域包括支援センター運営協議会(2) ・地域密着型運営委員会(2) 関係機関との会議に出席し、情報交換を行った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
各関係機関や各事業に関わる情報交換	目標値	80件	80件	90件	90件	100件
	実績値	82件	86件	93件		
進捗状況及び自己評価	・利用者のニーズ解決に向けて、総合的かつ効果的にサービスが提供できるよう、多様な関係者(保健・医療・福祉・教育等)と連携を図ることに努め、顔の見える関係づくりができた。 ・福祉団体・企業等と地域活動への参加や、現状を抱えている課題について意見交換を行うことで、お互いの役割や協力体制について理解が深まった。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	・福祉分野以外(医療・教育・雇用・企業等)の関係機関とのつながりを広げていく必要がある。 ・様々な地域の生活課題の解決に取り組む中で、慎重に取り扱わなければならないケース(貧困、虐待等)や個人情報の取り扱い等の課題が発生している。
今後の取り組み方針	・地域住民や地域の生活課題を解決するために、関係機関との継続的な連携体制を維持する。 ・社協内部の部署間での連携・情報共有に努める。 ・個人情報の取り扱い(第三者に提供する際の本人同意の取り方等)について管理をしっかりと行う。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

・地域の生活課題について考える。 ・地域にある福祉団体や関係機関等について情報収集する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(1)地域共生社会の実現に向けた仕組みづくり				
	事業名	②身近な福祉圏域の検討				
	事業の概要	第3期活動計画では、地域包括支援センターの圏域に合わせ地区活動を行ってきましたが、住民が身近に感じる福祉圏域について見直し・検討していく必要があることを認識しました。地域での福祉活動を、市民や関係団体と共に進めてきた従来のエリア(福祉圏域)を参考にしつつ、市内の他分野の圏域について情報を収集し、地域住民が身近に感じ、参加しやすい新たな福祉圏域を検討・研究していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	令和5年度は、地区の実情を把握するために、第3期地域福祉活動計画で作成した地域アセスメントシートの情報を基に、地区ごとに情報の更新作業を行った。あわせて、社協が設定した6地区と、行政(高齢者福祉)が推進する生活支援体制整備事業(2層協議体)における6圏域の一部の地区で担当職員同士の打ち合わせ等を行った。 また、住民参加型在宅福祉サービス(あいはあと事業)では、協力会員の活動可能範囲の確認や、ボランティアセンターでは、活動希望地域の確認等、実態の把握を行った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
身近な福祉圏域の検討	目標値	調査・研究			1回	2回
	実績値	調査・研究				
進捗状況 及び 自己評価	・地域アセスメントシートの情報を更新することにより職員の担当地区に対する理解が深まった。今期計画期間中は、社協が設定した6地区で福祉圏域の検討を行っていくが、社協の6地区と自治会・町内会、民生委員児童委員、生活支援体制整備事業のエリア分けが異なり、境界線を合わせることに困難であることを改めて認識した。 ・一部の地区ではあるが、社協の地区と、行政(高齢者福祉)が推進する生活支援体制整備事業において協力体制についての話し合いができ、地域住民の交流事業の開催につながった。 ・あいはあと事業の協力会員・利用会員の地域ごとの登録分布表を作成したことで、登録者のバランスを把握することができ、次年度の新規協力会員向け講習会の実施等、事業の推進体制の参考とすることができた。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	・新型コロナウイルス感染症の影響で停滞していた地域の福祉活動が再開され始めたが、その実情が変化しており、それらを把握する必要がある。 ・エリアの境界線が異なっている、社協が設定した6地区(児童館ごと)と、行政(高齢者福祉)が推進する生活支援体制整備事業の6圏域(地域包括支援センターごと)の全ての地区で連携するための方策を模索する必要がある。
今後の取り組み方針	・現場におもむき、地域福祉活動の実情等の情報の把握に努める。 ・行政(高齢者福祉)が推進する生活支援体制整備事業とエリアの境界線の違いがあっても連携できる方策について、地域包括支援センターと協議を行う。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

地域の生活課題や地域福祉活動等の情報を社協に提供する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(1)地域共生社会の実現に向けた仕組みづくり				
	事業名	③コミュニティソーシャルワーカー(CSW)の配置				
	事業の概要	地域において、ちょっとした困りごとから生活上の課題を抱える個人や世帯等、様々な地域課題が存在し、社協は地域住民と共に課題解決に向けて取り組んでいます。しかし、困りごとがあっても自ら相談できないなど、福祉課題を抱えている人が増えてきています。そのような人たちが地域で孤立しないように、身近な生活課題を見つけ(気づく)、近隣住民や生活支援コーディネーターなどの関係者、関係機関等との連絡調整をしながら(つなぐ)、地域で支え合う仕組みを一緒に考え(つくる)、地域の多様な生活課題の解決に向けて取り組んでいけるようCSWの配置に向けて検討していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・既にCSWを配置している他社協(和光市・戸田市)への視察を行った。 ・社協の地域福祉推進課にて、職員の研修会を行い、CSWの基本的な役割の理解や他社協の現状等を把握することで、CSWへの理解を深めた。 ・住民参加型在宅福祉サービス(あいはあと事業)での活動者、利用者の地域分布を集約する等、地域の状況把握を行った。また、日々の業務で関わる支援ケースを集約し、地域課題に関する情報の蓄積を行った。 ・地域ケア会議や生活支援コーディネーター会議等に出席し、行政と社協との連携や地域の生活課題等について情報交換を行った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
CSWの検討	目標値	調査・検討				設置
	実績値	調査・検討				
進捗状況 及び 自己評価	・社協内の各部署において、各々対象となる分野で、地域福祉団体との連携や個別の利用者への相談支援を行っており、事例の積み上げができています。あわせて、職員の経験やスキルも向上している。 ・他社協への視察を行い、実状や課題を確認したことで、CSWを朝霞市社協として設置する際の配置形態、業務内容等を検討する準備を進めることができた。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	・縦割りの役割分担では解決できない地域の多様な生活課題を解決するためのCSWの配置を念頭に置いた社協内部配置や仕組みづくりを構築する必要がある。 ・CSWを担う人材の育成が必要である。
今後の取り組み方針	・CSWの業務や役割分担を明確化する等、配置に向けての調査・検討を行う。 ・CSW関連の研修に参加し、他市の状況等について把握する。 ・地域の生活課題等の情報収集に努め、市内の地域の生活課題の解決に取り組んでいる関係機関や地域福祉団体との情報交換等に努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

・身近な地域の困りごと気づき、その情報を共有する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	高齢者・児童福祉課	係 名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(2)相談支援体制の充実				
	事業名	①特別な配慮が必要な子どもへの相談・支援				
	事業の概要	社協が運営する児童を対象とした施設において、児童がいつもと違う様子であれば専門機関へ相談するなど、他機関と連携を図っています。一人で悩まないように相談ができる場があることを広く周知し、多様な相談に対応できるように関係機関との連携をさらに深めていきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・児童館にて、不登校児の見守り支援を行った。(4) ・児童館にて、不登校児の見守り支援の際、保護者・学校等と連絡調整を行った。また、家庭児童相談員の来館の調整を行った。 ・放課後児童クラブにて、児童の相談支援を行った。(46) ・放課後児童クラブにて、関係機関の会議や専門機関への情報提供等を行った。(37) ・県指定のアドバイザーに配慮を必要とする児童について相談し、アドバイスを受けた。(8) ・児童に携わる関係機関が集まる会議やヤングケアラー支援者研修等に出席した。(3)					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
相談支援件数	目標値	45件	45件	45件	50件	50件
	実績値	43件	48件	98件		
進捗状況 及び 自己評価	・社協が運営する児童を対象とした施設(児童館・放課後児童クラブ)にて、家庭環境が複雑な児童や障害児の他に気になる児童等に対して、保護者・学校・行政等と連携を図りながら相談支援を行うことで、児童とその保護者が安心して施設を利用できる環境を整えることができた。また、日頃より保護者と関係を築くことで、相談件数の増加につながった。 ・専門的な支援が必要な場合は、関係機関につなげた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	専門的な支援、また児童の権利擁護への配慮等が必要なケースもあり、施設だけでは解決できない場合がある。
今後の取り組み方針	・児童が安全・安心に暮らせるよう、日頃から保護者・学校・行政等との連携を図る。また、専門的な支援が必要な場合は関係機関につなげていく。 ・会議等に出席し、関係機関と顔の見える関係づくりに努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

困りごとがあれば利用している施設や市・社協に設置されている窓口に相談する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(2)相談支援体制の充実				
	事業名	②身近な総合相談支援の充実				
	事業の概要	平成29(2017)年度から総合相談の窓口を設置し、住民の困りごとを幅広く受ける体制を整えました。日常生活の中で住民が感じる不安や困りごとに対し、誰もが気軽に利用できる総合相談窓口を目標に、様々なニーズに応えるため児童・高齢・障害等の各専門機関と連携し、総合相談の充実を図ります。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・福祉に関するあらゆる相談(高齢者関係、障害者関係、就労、生活困窮、権利擁護等)に対して、困りごとに耳を傾け、情報提供等を行い、必要に応じて、関係機関(市役所、保健所、地域包括支援センター、病院等)につなげた。 ・食料がないという生活困窮者に対し、食材支援を行った。 ・広報紙「社協あさか」やSNSで、総合相談窓口の周知を図った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
総合相談件数	目標値	20件	20件	25件	25件	30件
	実績値	30件	26件	47件		
進捗状況及び自己評価	・それぞれの困りごとに耳を傾け、社協だけで解決できない場合は、関係機関につなぐ等、課題解決に向けた支援を行うことができた。 ・関係機関との連携等により、昨年度より多くの住民からの相談を受け付けた。 ・広報紙「社協あさか」やSNS等で総合相談窓口の周知に努めた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	誰もが気軽に利用できる、社協の総合相談窓口の存在を市民や関係機関により広く周知する必要がある。
今後の取り組み方針	・広報紙「社協あさか」やSNS、ホームページ等を活用して、総合相談窓口の周知・啓発を行う。 ・日常生活の中で住民が感じる不安や困りごと等を解決するために、関係機関との継続的な連携体制を維持する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

身近に困りごとを抱えている人がいたら、社協の総合相談窓口を紹介する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(2)相談支援体制の充実				
	事業名	③ボランティア活動の相談・コーディネート				
	事業の概要	ボランティアコーディネーターは、市内の福祉施設や活動団体、関係団体等のボランティアに関する情報を集約し、ボランティアをやりたい人とボランティアに来てほしい人をコーディネートします。また、ボランティア募集やボランティア団体の活動状況等をボランティアニュース・広報紙「社協あさか」・SNS等で発信し、ボランティア情報を必要としている人へ届けるとともに、ボランティアに参加する人が増えるように努めます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・ボランティア活動をしたいという市民やボランティアに来てほしいという施設等からの相談を受け、必要な情報提供やコーディネートを行った。(延べ174件) ・誰もが気軽にボランティア活動に参加できるきっかけづくりのための事業(彩の国ボランティア体験プログラム)のメニュー作りを行い、参加者と受け入れ先の活動調整を行った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
ボランティア相談件数	目標値	80件	80件	90件	90件	100件
	実績値	106件	122件	174件		
進捗状況 及び 自己評価	・新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことで、市内福祉施設等からのボランティア依頼が再開し、コーディネートを行った結果、相談件数が増加した。 ・ボランティア登録をした市民とのつながりが途切れないよう、ボランティアニュースやボランティア情報のメール配信を行い、継続的に関わることができた。 ・彩の国ボランティア体験プログラムをきっかけにボランティア活動を継続する参加者がおり、活動のきっかけ作りにつながった。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	・社協がボランティアセンターを運営していることを知らない市民がいる。 ・ボランティア活動希望者へ紹介する活動先の拡充する。
今後の取り組み方針	・地域の福祉活動が活性化するように、またボランティア登録者等とつながりをたやさないよう、情報発信を継続して行う。 ・ボランティア活動のコーディネートを幅広く行うため、市内で活動している施設・団体とつながりを持ち、活動状況を把握する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

・ボランティア活動に興味があったら、ボランティアセンターに連絡をする。 ・ボランティアを必要としている人や団体はボランティアセンターに相談する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(2)相談支援体制の充実				
	事業名	④身近なボランティアの相談窓口の充実				
	事業の概要	ボランティアセンターは、「地域に開かれた社協のフロント(窓口)」としての機能を有するため、ボランティアに関する相談や情報揭示ができるスペースを確保し、ボランティアセンター窓口の機能充実を図ります。また、ボランティアセンターまで来所することが難しい人へ向けて、市内の公共施設、スーパーやドラッグストア等に出張ボランティアセンターの開設を働きかけ、ボランティア相談スペースの確保を図ることで相談窓口の拡充を検討していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・市主催の「地域デビューセミナー」にて朝霞市ボランティアセンターのブースを設け、ボランティア相談を行った。(1) ・市民活動支援ステーションとの連携により、ステーションにてボランティア保険の受付を出張窓口を開設して行った。(4)					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
出張ボランティア相談実施回数	目標値	2件	2件	2件	3件	3件
	実績値	6件	7件	5件		
進捗状況及び自己評価	・市主催のイベント等に参加し、相談窓口を開設することで、ボランティア相談を受けたり、ボランティアセンターの周知を行うことができた。 ・昨年度「今後も継続してほしい。」という市民の声を受け、ボランティア保険の受付を出張窓口にて行い、利用者の申し込みを受け付けた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	・交通の利便性の問題で、ボランティアセンターまで来所が困難な人がある。 ・出張窓口を開設したが、定期的な開設ではないため、認知されにくい。
今後の取り組み方針	・市民活動支援ステーションと連携し、出張窓口を開設する。 ・開設にあたっては、ボランティアニュースやメール配信等にて、日時、場所等の周知を行っていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

市民が利用しやすいボランティア相談窓口の場所について情報提供する。

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(3)保健医療・社会福祉サービスの充実				
	事業名	①機関連携研修会				
	事業の概要	保険医療と介護及び障害者支援の専門機関同士は、カンファレンス等を通じて個別に連携が図られていますが、地域住民の複雑化・複合化した課題に対応するためには制度によらない支援体制の一層の充実が求められています。このことから、保健医療、介護、障害者支援及びその他の社会福祉の推進に係る機関等の参加により、それぞれの活動内容や機能を十分に理解し、連携の質の向上を図ることを目的とした研修会を実施していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	はあとぴあ障害者相談支援センターとはあとぴあ障害者就労支援センターの合同で研修会を開催した。 ・「高次脳機能障害の理解」を開催した。 ・「障害のある方に「親なきあと」に向けて知ってほしいこと」を開催した。 ・「障害児のライフプラン」を開催した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
機関連携研修会の実施	目標値	調査・検討		1回	1回	1回
	実績値	調査・検討		1回		
進捗状況 及び 自己評価	・はあとぴあ障害者相談支援センターとはあとぴあ障害者就労支援センターで研修会を合同企画することで、より多くの関係機関が参加し、連携及び資質向上が図れる関係づくりができた。 ・昨年度の研修会参加者からのアンケート結果を基に、関心の高い内容を盛り込んだことで、参加者が多く、日々の支援に活かせるような研修会を開催することができた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	・事業所、事業種別によって、参加しやすい日時、研修内容等が異なるため、多くの関係機関が参加できる研修会をどのように企画していくか工夫が必要である。 ・関係機関がより関心をもって参加してみようと思えるテーマを検討していく必要がある。
今後の取り組み方針	・研修会の開催日時や場所・テーマ等のニーズ把握に努め、関係機関の共通課題や関心の高い内容を研修内容に反映していく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

利用者へ提供できる支援体制を整えるために、関係機関がお互いの業務内容について情報を共有する。
--

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(3)保健医療・社会福祉サービスの充実				
	事業名	②障害のある人の就労支援				
	事業の概要	障害のある人の働きたいという気持ちを尊重し、相談や現場同行を通じて、その人の能力が発揮できる就労につながるよう支援を行います。一方、障害のある人を雇用する事業所については、一緒に働くにあたっての相談や助言を行い、障害がある人の働きやすい環境を整える支援が必要です。そのため、障害者就労支援センターでは、埼玉県障害者雇用サポートセンター、ハローワークと連携して障害のある人をサポートすることにより、地域で生活し、就労を通じて社会参加ができるよう、地域住民や事業所等に障害についての理解を深めていきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・市内企業からの雇用相談(213件) ・SNS、広報への関連記事の掲載(56件) ・関係機関へ障害者就労支援センターのサービス説明を行った(1件)					
指標名		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
啓発・働きかけ	目標値	180件	180件	185件	185件	190件
	実績値	193件	277件	270件		
進捗状況 及び 自己評価	・障害のある人がより安定した障害者雇用につながるよう他機関と連携を図りながら、雇用したいという企業を紹介する支援を行った。その際、働きやすい環境を整えられるよう企業と調整を行い、障害への理解を深めることにつながった。 ・X(旧ツイッター)・広報紙の活用を意識し、市内の企業・市民に広く就労支援センターや障害者雇用の啓発の働きかけを行うことで、障害のある人が「働く」ことについて理解を深めるきっかけ作りができた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	企業や市民に向けて、障害者雇用や一般就労についての普及啓発が必要である。
今後の取り組み方針	X(旧ツイッター)や広報紙を活用して、障害者雇用についての情報を発信していくとともに、市内企業や就労支援施設に対して、障害者雇用や一般就労に関する情報提供を行う。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

自分に合った福祉サービスを選べるように情報を収集する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(3)保健医療・社会福祉サービスの充実				
	事業名	③社会福祉法人の連絡会議				
	事業の概要	長年、市内の社会福祉法人等の障害者福祉施設との横のつながりを強めていくために、「はあとねっと会議」や四市福祉施設看護師の「医療職ネットワーク会議」等を開催しています。今後、さらに市内の社会福祉法人に働きかけ、お互いに顔が見える関係を築き、協働・連携しながら積極的な地域福祉活動の取り組みを推進するため「社会福祉法人の連絡会議」を立ち上げ、地域福祉活動を支えるための仕組みづくりを進めていきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・埼玉県社協が主催する会議にて、社会福祉法人の連絡会議に関連する情報収集を行った。 ・他市での社会福祉法人の連携についての情報収集を行った。 ・地域住民が抱える困難な福祉課題の解決のために、県内の社会福祉法人が協働し社会貢献活動に取り組む「埼玉県社会福祉法人社会貢献活動推進委員会」の会員として、事業（衣類バンク、食材支援等）の周知啓発に努めた。 ・障害者福祉分野での特定相談支援事業所等連絡会の事務局を務めた。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
社会福祉法人の連絡会議	目標値	調査・検討		検討・準備	1回	1回
	実績値	調査・検討		検討・準備		
進捗状況 及び 自己評価	・他市での社会福祉法人の連携について情報収集を行い、法人によって連携する分野を整理したほうが効果的な連携が図れることがわかった。 ・埼玉県社会福祉法人社会貢献活動推進委員会の会員としての活動は行ったが、会員である市内社会福祉法人との連携にまでは至らなかった。 ・特定相談支援事業所等連絡会の開催を通して、関係機関との連携を強めることができた。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	・市内の社会福祉法人の活動について情報収集を行うとともに、社会福祉法人の連絡会議の実施形態について検討していく必要がある。 ・埼玉県社会福祉法人社会貢献活動推進委員会会員の市内社会福祉法人との連携が図れていない。
今後の取り組み方針	連携に向けて、協議するテーマを絞ったり、テーマに関心のある社会福祉法人をピックアップして声掛けする等、段階を踏みながら準備を進めていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

社会福祉法人としての活動を地域に発信していく。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(4)権利擁護の推進				
	事業名	①成年後見制度の理解・普及				
	事業の概要	日々の暮らしに不安を抱える、認知症高齢者や障害のある人等が、住み慣れた地域で安心して生活をしていく一助となる成年後見制度については、市民の関心が高まりつつあるものの、広く普及するまでには至っていません。そのため、制度の理解・普及を目指し、市民を対象とした講座を開催します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・市民向け講座「障害のある方に『親なきあと』にむけて知ってほしいこと」を開催し、において、成年後見制度についての周知・啓発を行った。(1) ・行政書士による成年後見制度等の無料相談会を実施した。(1) ・SNSで成年後見制度に関する情報発信を行った。 ・他市(新座市・志木市・戸田市)での成年後見制度への対応について、職員による視察を行った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
成年後見制度の講座開催	目標値	1回	1回	1回	1回	1回
	実績値	2回	3回	2回		
進捗状況 及び 自己評価	SNSでの情報発信や市民を対象にした講座、無料相談会を開催することで、成年後見制度の周知・啓発を行うことができた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	成年後見制度の理解・普及のために、多くの関係機関・市民に制度を知ってもらう必要がある。
今後の取り組み方針	・成年後見制度についての知識が深められるよう、SNSや広報紙での情報発信や研修会を企画していく。 ・社協職員の意識の醸成を図るため、研修会等に参加し、幅広い知識を得られるよう努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

成年後見制度を知るため、市や社協が開催する講座に参加する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	総務課 地域福祉推進課 高齢者・児童福祉課 あさか福祉作業所 はあとびお福祉作業所	係 名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(4)権利擁護の推進				
	事業名	②虐待防止対策				
	事業の概要	社協が管理運営する施設に虐待防止のポスター等を掲示し、虐待防止の理解、啓発を図ります。また、施設利用者の様子を確認し、家族とコミュニケーションをとりながら状況確認を行い、必要に応じて関係機関に報告し、虐待の早期発見・抑制に努めます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

2 課題・今後の取り組み方針

課題	高齢者・障害者・児童等への虐待防止について、関係機関だけでなく地域全体が興味を持ち、理解をより深める必要がある。
今後の取り組み方針	・市民の目につきやすい場所にポスター掲示を行ったり、社協が主催する講座等で説明を行うなど周知・啓発に努める。 ・虐待防止への理解を深めるため、社協職員は積極的に研修に参加する。また、虐待の早期発見・抑制のため、関係機関との連携に努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

虐待が疑われる場面に遭遇したら、関係機関に通報・相談する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(4)権利擁護の推進				
	事業名	③あんしんサポートねっと				
	事業の概要	住み慣れた地域の中で、高齢者や障害のある人が、安心してその人らしく生活できるよう、多様な地域資源を活用しながら専門員による相談援助や生活支援員による定期訪問等の援助を行います。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・判断能力の不十分な高齢者や知的・精神障害のある方が、安心して生活が送れるよう、福祉サービス利用援助事業(あんしんサポートねっと)の新規契約に向けた支援や、福祉サービスの利用援助、日常生活上の手続き援助、日常的金銭管理、書類等の預りサービスの援助を行った。 ・令和5年度契約者数:12人(内新規3人) ・令和4年度契約者のうち、2人契約終了(死去、成年後見制度への利用移行)					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
福祉サービス利用援助事業利用人数	目標値	11人	12人	13人	14人	15人
	実績値	12人	11人	12人		
進捗状況及び自己評価	生活支援員養成研修で登録していた方も含めて3名に生活支援員の委嘱を行った。あわせて、ケース会議等を通じて、行政・福祉・医療等の関係機関と積極的に連携を行うことで、利用者や利用希望者のニーズに応えるための体制整備を図ることができた。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	利用希望者からの問い合わせ(特に金銭管理の支援を希望する方)が増えている。移動手段や通帳預かりの面から、支援の調整が困難な場合がある。
今後の取り組み方針	・関係機関と連携を深めたり、SNSや広報紙での情報発信を行う等、新規の生活支援員の確保等の体制整備を図る。 ・SNSや広報紙での情報発信等、あんしんサポートねっと事業による支援が必要な方に情報が届くよう努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

身近に金銭管理や事務手続き等に不安のある人がいたら、あんしんサポートねっとを紹介する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(5)生活困窮者等への支援の充実				
	事業名	①生活再建のための相談支援				
	事業の概要	近年、非正規雇用や新型コロナウイルス感染症等を背景に、生活再建に関する相談が増加しています。当座の生活資金の相談から生活の安定が図られるまでに、その他の複合的な課題を抱えている人も多いため、市との連携強化を図り、様々な社会資源やその他の生活再建に必要な他制度を活用して、相談者の課題解決に向けて支援します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・生活困窮に関する相談支援を行った。(280件) ・生活福祉資金特例貸付(令和4年9月30日受付終了)の借受人の償還猶予申請に伴い、埼玉県社会福祉協議会と連携して生活状況の聞き取りや面談を行った。 ・食材の確保が困難な相談者に対し食料支援を行った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
生活困窮に関する相談件数	目標値	100件	100件	100件	100件	100件
	実績値	3182件	743件	280件		
進捗状況及び自己評価	・特例貸付で知名度が上がった社協の相談窓口にも、特例貸付受付終了後も生活困窮に関する相談が増えた。生活困窮に関する相談があった際、現在の生活状況をよく聞き取り、課題解決に向けて相談者と一緒に考え、生活福祉資金の案内や適切な資源(生活保護、住居確保給付金、ハローワーク等)の情報提供を通して、生活再建に向けて支援することができた。 ・相談者の状況によっては自宅に訪問し、食材や日用品の無償提供を行い、急場をしのげる支援を行うことができた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	年々相談内容が複雑化しており、家計管理に問題のあるケースや慢性的な生活困窮だと思われるケース等が増えてきている。
今後の取り組み方針	相談者に適切な情報提供ができるよう、日々更新・変更される社会資源(生活保護、住居確保給付金、ハローワーク等)の情報を収集し、課題解決に向けて関係機関との連携強化を図る。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

身近に生活困窮者等の情報が寄せられた場合、市や社協等と協力して支援を行う。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(5)生活困窮者等への支援の充実				
	事業名	②子どもの貧困対策に関わる団体への支援				
	事業の概要	子どもの貧困に関する問題は、単に金銭的な援助で解決するものではなく、居場所づくりや様々な学びの支援も行う必要があります。市内では子ども食堂や学習支援団体等がその活動を行っています。社協ではボランティアの募集や助成金情報等を提供する他、市民へ団体の活動を周知するなどの支援を行っています。今後も、団体等の支援を行うとともに、地域の中で身近な人たちが子どもの貧困について学びを深め、関心を持つことで、温かい食事や学習をサポートしてくれる地域の助け合いをします。今後も活動につなげていくことができるよう、啓発活動等に取り組んでいきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・企業や個人から寄贈・寄付の相談を受け、市内の子ども食堂ネットワークやフードパントリーにつなげ、活用してもらった。(2件) ・子ども食堂、フードパントリー、学習支援団体にボランティア希望者のコーディネートを行った。(3件) ・子どもの貧困に関わる団体への支援として、本会X(旧ツイッター)、ホームページ、朝霞市総合福祉センター1階情報コーナーにて随時助成金等の情報発信を行った。(1件) ・ひとり親家庭等支援事業利用者に対して、子ども食堂、フードパントリー、学習支援団体の情報提供等を行った。(3件) ・各団体から助成金等の申請希望があった場合、申請支援を行った。(1件)					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
子ども対象団体への支援	目標値	5回	5回	10回	10回	10回
	実績値	4回	9回	10回		
進捗状況 及び 自己評価	寄付・寄贈やボランティアのコーディネート、助成金の情報提供、ボランティア募集の周知等、子どもの貧困に関わる団体への支援を通じて、団体と情報交換を行い、今後の協力体制について協議することができた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	子どもの貧困対策に関わる団体がどのような支援を必要としているのか、情報収集する必要がある。
今後の取り組み方針	・子どもの貧困対策に関わる団体との情報交換等に努める。 ・食材寄付や助成金の情報提供を行う等、団体の支援を継続して行う。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

子どもの貧困に対する活動団体を理解し、様々な形で応援する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	総務課 地域福祉推進課 高齢者・児童福祉課 あさか福祉作業所 はあとびあ福祉作業所	係 名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(6)地域住民の交流の促進				
	事業名	①地域住民の交流の機会の提供				
	事業の概要	福祉の関心を広げる仕掛けとしてのボランティア活動や地域デビュー講座、市内を5つの地区に分けての社協主催の地域懇談会などを積極的に開催してきたことで、幅広い世代の住民の参加・参画により住民同士の身近な交流の機会を作ってきました。このような地域づくりの中で、交流を深めながら温かく見守り、時にはおせっかいを受け入れるような、顔の見える地域づくりが大切です。これからも、このような地域を目指し、住民が主体となってより身近な地域で支え合う仕組みができるように、社協が実施する事業などを通じて、人材育成や地域づくりにつながるような交流できる機会を提供していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・切り絵体験教室(10)・ノルディック・ウォーク教室(28)・健康太極拳教室(36) ・合同健康相談会(溝沼老人福祉センター・地域包括支援センター・一般介護予防事業の共催) ・児童館乳幼児親子交流事業(6)・児童館夏祭り(6)・児童館クリスマス会(6)・児童館春祭り(5) ・HIZAORI春祭り(ひざおり児童館・周辺の町内会の共催)・朝霞市児童館in彩夏祭(6館合同) ・交流事業(溝沼老人福祉センター・みぞぬま児童館、浜崎老人福祉センター・はまさき児童館、はまさき児童館・浜崎老人福祉センター・はあとびあ福祉作業所、みぞぬま児童館・第2層協議体、ねぎしだい児童館・老人クラブ、はあとびあ福祉作業所・向陽園)(6) ・あいとはあと事業協力会員ミーティング・サロン交流会・あんしんサポートねっと事業生活支援員交流会 ・ボランティア講座・朝霞市ふれあいスポーツ大会・はあとびあふれあい祭り・ふれあいマルシェ					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
地域住民の交流事業	目標値	75回	80回	85回	90回	100回
	実績値	64回	81回	113回		
進捗状況 及び 自己評価	社協が運営する施設等において、地域住民が主体となって支え合う仕組みができるよう、また、地域づくりにつながるような交流の機会を提供することで、幅広い世代の地域住民の交流や、地域住民の自主的な活動につなげることができた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	・多くの事業が企画され、地域住民の交流の機会が増えてきているため、地域住民が情報を得やすいように、より広く周知する必要がある。 ・地域福祉団体や自治会・町内会等、社協との顔の見える関係が途切れてしまわない関係づくりが必要である。
今後の取り組み方針	・SNSや広報紙等を活用し、また関係機関とのつながりを活かして、事業等の周知に努める。 ・地域福祉団体や自治会・町内会に訪問する等、顔の見える関係づくりに努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

地域交流の機会があれば参加する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(6)地域住民の交流の促進				
	事業名	②地域住民の交流の活性化				
	事業の概要	地域では住民主体による高齢者や子育て支援などの身近なサロン活動が増えており、そうした活動や、関係づくりを支援することで、地域福祉を支える活動の活性化を図りました。こうした住民主体の活動により、身近な地域で支え合う意識が向上し、安心した暮らしにつながります。このような地域での助け合い、支え合いの活動をより広めるため、地域づくりや人づくりにつながる新たな場の立ち上げや、既存の活動支援を行っていきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・サロン・会食団体の相談支援を行った。(電話・訪問含む)(156件) ・赤い羽根共同募金を財源として、団体の運営費や事業費を支援する「地域福祉活動助成金(地域福祉活動団体を除く)」を実施した。(運営費交付団体数:21団体、事業費申請団体:2団体、開設費助成金:1団体)(サロン・会食団体) ・地域歳末たすけあい募金を財源として、「歳末援護金交付事業(地域福祉活動団体を除く)」を実施し、新年を迎える時期に支援を必要としている人へ支援を行うため活動している住民主体団体へ活動支援を行った。(交付団体数:10団体)(サロン・会食団体) ・サロン交流会を開催した。(2回)					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
住民主体の活動への相談・支援	目標値	120件	120件	125件	125件	130件
	実績値	113件	138件	192件		
進捗状況及び自己評価	・助成金の交付等、団体の運営面を支援した他、サロン交流会において、地域の活動者同士が話し合う場を設け、意見交換、情報交換をすることで、同じ思いを持つ人同士の横のつながりを作ることができ、活動を続けるモチベーションにつながった。 ・新規サロンの立ち上げに関する相談を受け付け、開設費助成金を交付し、新規団体立ち上げの支援を行うことができた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	スタッフ・利用者の高齢化により、活動継続が課題となっているサロン・団体等への支援が必要である。
今後の取り組み方針	・団体への助成金等の支援を継続するとともに、団体との顔の見える関係作りに努め、必要な相談支援を行っていく。 ・各団体が情報共有できる場所(サロン交流会等)を設け、団体同士がつながりを持てるよう支援する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

自治会・町内会や地域の活動団体に加入し、地域活動に参加する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(6)地域住民の交流の促進				
	事業名	③外国人への支援				
	事業の概要	外国人が地域で暮らす中で、言葉や制度、心の壁等、様々な課題があると言われていますが、その課題を解決するには、地域で暮らしている外国人住民への関りや、多文化を理解する必要があります。外国人が安心して暮らすことのできる地域づくりをすすめていくために、外国人を支援する団体等との連携を図るとともに、知る・学ぶ・交流する機会を設けていきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・障害のある外国人が就労している会社に訪問し、本人、会社担当者と面談して困りごと等の確認を行った。(18件) ・外国人からの相談(主に生活困窮、特例貸付の償還について)において、分かりやすい日本語や、多国語の資料、翻訳機等を活用しながら支援を行った。また、必要に応じて、関係機関へつなぐ等の支援を行った。(21件) ・放課後児童クラブにおいて、利用している児童の中には外国人児童もあり、安心して過ごせるよう相談等の支援を行った。(6件) ・ひとり親家庭等食材支援事業の周知において、チラシの英訳版を作成した。また、外国人支援団体に周知の依頼を行った。その際、外国人のいる世帯から申し込みがあり、食材支援を行った。(4件)					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
支援件数	目標値	40件	40件	45件	45件	50件
	実績値	162件	70件	49件		
進捗状況 及び 自己評価	・障害のある外国人への就労支援を行うことで、安定した就労につなげることができた。 ・特例貸付の受付が終了し、外国人からの相談件数は減ったが、コミュニケーション方法を工夫したり、関係機関と連携することで外国人の生活課題への支援ができた。 ・施設との連絡方法や書類の書き方を説明する等の支援を行った結果、安心して施設を利用してもらうことにつながった。 ・食材支援を通じて、外国人支援団体と連携するきっかけとなった。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	外国人の中には、日本語の理解に乏しい方もいたり、国籍・文化によって価値観が違い、困りごとが多様化しているため、就労を継続していくのが困難であったり、施設利用がスムーズにいかなかったりする方がいる。研修や支援の事例を通して、外国人支援の現状を知り、多様な支援について検討する必要がある。
今後の取り組み方針	・引き続き、コミュニケーション方法等を工夫しながら、就労への支援や生活困窮についての相談支援を行う。 ・多方面からの支援が行えるよう、関係機関・団体との連携を深める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

身近に困りごとを抱えている外国人がいる場合は、社協を紹介する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	総務課 地域福祉推進課 高齢者・児童福祉課 あさか福祉作業所 はあとびお福祉作業所	係 名	
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(7)地域福祉に関する理解と参加の促進				
	事業名	①ボランティア・実習生の受け入れ				
	事業の概要	誰もが暮らしやすい地域づくりには、世代を問わず福祉への関心と参加が必要なことから、地域福祉の担い手の育成及び活動支援のため、ボランティアや実習生の受け入れを行います。また、児童館等においては、子どもボランティア事業を実施し、福祉やボランティアに関わるきっかけ作りに取り組んでいきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・社協が運営する施設で、ボランティアの受け入れを行った。(老人福祉センター1件、児童館44件、放課後児童クラブ251件、障害者支援施設13件、彩の国ボランティア体験プログラム20件、地域福祉推進係1件、福祉教育サポーター44件、合計374件) ・社協の運営する施設で、実習生の受け入れを行った。(社会福祉士実習3件、保育実習14件、介護等体験3件、手話通訳実習1件、合計21件) ・中学生(職業体験)、高校生(授業プログラム)、大学生(施設体験)の受け入れを行った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
ボランティア・実習生 受け入れ人数	目標値	ボランティア 300件 実習生 20件	ボランティア 300件 実習生 20件	ボランティア 330件 実習生 25件	ボランティア 330件 実習生 25件	ボランティア 330件 実習生 25件
	実績値	ボランティア 316件 実習生 20件	ボランティア 335件 実習生 25件	ボランティア 374件 実習生 21件	ボランティア 実習生	ボランティア 実習生
進捗状況 及び 自己評価	・社会福祉士実習の受け入れでは、各部署の実習指導者間で実習方法の検討や振り返りを行い、実習生の地域福祉への理解と関心を深めることができた。 ・彩の国ボランティア体験プログラムの参加者の中から、ボランティア活動につながった人がおり、活動のきっかけ作りを提供することができた。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	ボランティアの受け付けについて、社協全体で福祉の担い手を育てるという意識を持って、参加の企画や募集の広報等、より参加しやすい体制整備を行う必要がある。
今後の取り組み方針	ボランティアの受入れについて、彩の国ボランティア体験プログラムを利用する等、活動のきっかけ作りに努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

福祉施設、ボランティア団体等のボランティア活動に参加する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	総務課 地域福祉推進課 高齢者・児童福祉課 あさか福祉作業所 はあとびお福祉作業所	係 名	
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(7)地域福祉に関する理解と参加の促進				
	事業名	②出前講座の実施				
	事業の概要	社協では出前講座の実施とともに、新たな講座の検討やメニューの見直しを図ってきました。今後は、さらに地域の様々な団体、企業等に対し、身近な地域でいつでも福祉の活動を「知る」「体験する」ことができるような講座の実施、メニューの充実積極的な情報発信を行っていきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・身近な福祉情報を交えた講座を社協職員等が講師となり、出前講座として実施した。 (「車いす体験教室」「福祉の仕事について」「障害の理解について」「地域における発達障害者支援について」「高齢者の栄養について」「気功講座」「切り絵講座」「輪投げ体験」「施設見学」等) ・企業等への会員会費募集や卓上募金のお礼状送付の際に「企業×福祉」チラシ(出前講座情報含む)を同封し、出前講座のPRを実施した。(1) ・別の相談で来所していた企業へ出前講座のチラシを配布し、直接説明を行った。(1) ・市生涯学習ガイドブックに、出前講座のメニューの一部を掲載した。(1) ・出前講座実施の際に、他団体から企画に困っている等聞いていることがあれば、社協の出前講座を紹介してほしいことを伝えた。(1)					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
団体・企業等への働きかけ	目標値	3件	3件	3件	6件	6件
	実績値	6件	5件	4件		
進捗状況 及び 自己評価	朝霞社協まるわかり帳やホームページ等に、出前講座の情報を掲載し周知した他、サロン交流会においては、今まで実施した内容を紹介したことで、実施に向けた相談につながった。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	申請する団体が固定化してきており、地域の様々な団体・企業への働きかけが必要である。
今後の取り組み方針	地域での行事やイベント、地域福祉団体の定例会等でのチラシや冊子の配布に加え、SNS等も使用して、社協の取り組みとともに出前講座の周知啓発に努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

社協の出前講座に参加し、得た知識や経験を地域に伝えていく。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(7)地域福祉に関する理解と参加の促進				
	事業名	③ボランティア講座の開催				
	事業の概要	講座内容の充実を図るため、地域に出向きサロン活動者やボランティア等から、現在のボランティアニーズの聞き取りを行っています。引き続き、ボランティアニュースや社協ホームページ、ツイッター等のSNSを用いて講座情報を広く発信していきます。また、地域福祉の担い手となる人材の育成を目的とした講座等、参加する側が選択できる様々な目的別の講座を開催し、受講後も地域福祉を進める担い手となるよう継続的に参加者の支援を行っていきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・あいはあと事業新規協力会員向け講習会(6) ・彩の国ボランティア体験プログラム説明会(2) ・ボランティア講座～ふくしをみんなde学び隊～(1)					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
ボランティア講座の開催回数	目標値	7回	8回	8回	9回	10回
	実績値	17回	7回	9回		
進捗状況及び自己評価	・あいはあと事業新規協力会員向け説明会を会場とオンラインで開催した。また、講習会の日程に都合がつかない方に対しては、個別に説明を行ったことで、地域で活動する新たな協力者を増やすことができた。 ・彩の国ボランティア体験プログラムの説明会では事業の説明だけでなく、ボランティア活動とは何かについて説明し、理解してもらったうえで活動に参加してもらうことができた。 ・ボランティア講座では、学びの機会の提供、またボランティア活動のきっかけづくりとなるような講座として実施した。昨年度とは異なる地域で開催することにより、周辺の地域の担い手の育成につながった。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	多くの地域住民に講座に参加してもらえよう、会場の検討や講座内容の充実を図る必要がある。
今後の取り組み方針	令和5年度とは異なる地域で、ボランティア活動を始めるきっかけとなるような講座を開催し、地域の担い手の育成に努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

講座に参加して得た知識や経験を活かし、地域で活動をする。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	総務課	係 名	
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(7)地域福祉に関する理解と参加の促進				
	事業名	④手話体験・要約筆記体験の実施				
	事業の概要	聴覚障害者に対する理解を深め、手話や要約筆記の普及を図ることを目的に、初歩的な手話や要約筆記を学ぶ場としての体験会を実施します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・手話体験の実施(1) ・パソコン要約筆記体験の実施(1)					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
手話体験・要約筆記体験会開催回数	目標値	2回	2回	3回	3回	3回
	実績値	2回	2回	2回		
進捗状況及び自己評価	・手話体験では、小学生以上の年齢層を募集することで、幅広い世代への手話の普及につながった。 ・要約筆記体験では、参加者募集を行ったものの申し込みがなかったため、実施までには至らなかった。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	・地域住民に興味・関心をもってもらえるような企画・立案を行う必要がある。 ・体験の参加者が増えるよう、体験の広報に努める必要がある。
今後の取り組み方針	地域住民が参加しやすい事業になるよう、実施回数を検討する等、継続的に事業を実施する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

事業に参加し、手話や要約筆記への理解を深める。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	総務課 地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(7)地域福祉に関する理解と参加の促進				
	事業名	⑤地域福祉財源の確保				
	事業の概要	共同募金、寄付、社協会費等が有効に地域の福祉活動に活用されるよう、地域住民、企業、社会福祉法人等の参加度を高め、また、その資金に協力する人、助成を受けて活動する人、誰もが地域福祉の支え手として参画できるように、分かりやすい周知の在り方を検討し、透明性の高い運動を展開します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・募金実績額：赤い羽根共同募金(6,260,532円)、地域歳末助け合い募金(4,078,464円) ・自治会・町内会を通して市民に対して募金への協力依頼を行った。 ・ほんちよう児童館と連携し、学生ボランティア11名と街頭募金を行った。 ・一般介護予防事業参加者、老人クラブ連合会等に、プリペイドカード等の募金協力を依頼した。 ・広報紙「社協あさか」に募金の使い道を掲載したり、市の広報紙・SNS・メール配信等にて募金運動の実施について周知した。 ・広報紙にて「るくるん募金箱」の設置先の紹介を行った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
共同募金(赤い羽根・歳末)の募金実績額	目標値	11,000,000円	11,000,000円	11,000,000円	11,000,000円	11,000,000円
	実績値	10,742,898円	10,824,414円	10,338,996円		
進捗状況及び自己評価	・共同募金について、社協の広報紙やSNSだけでなく、市の広報紙やSNSを活用することで、幅広い世代の地域住民に周知啓発することができた。 ・児童館の学生ボランティアに、共同募金について説明したことで、より理解を深めてもらい、思いやりの心を育む活動につながった。 ・共同募金・寄付(るくるん募金箱)等について周知啓発を行うことで、社協をPRすることにもつながった。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	多くの地域住民に寄付金や募金活動について知ってもらい、協力してもらえよう周知啓発を図る必要がある。
今後の取り組み方針	多くの地域住民に寄付金や募金活動について知ってもらえよう、広報紙やSNSを通じて周知・啓発を行う。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

社協の募金活動は身近な地域の福祉に役立つことを知り、活動に参加する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(7)地域福祉に関する理解と参加の促進				
	事業名	⑥住民参加型在宅福祉サービス「あいはあと事業」				
	事業の概要	これまで住民参加型在宅福祉サービスとして、「ふれあいサービス事業」と「ホームクリーニング事業」を実施してきましたが、この2つを統合し、新たに「あいはあと事業」を開始します。この事業は地域の支え合いの仕組みをつくることを目的としており、日常生活の中で「ちょっと人の手を借りたい」、「空いているときに人のお手伝いをしたい」、そんな想いをつなげる地域の支え合い活動を展開していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・あいはあと事業のパンフレットを配布した。(利用会員、新規協会員向け講習会受講者、民生委員、ボランティア活動団体、市役所職員、ボランティア講座受講者、サロン会食団体、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所等) ・広報紙「社協あさか」やSNS等で、あいはあと事業の概要記事を掲載し、周知啓発を行った。 ・身近に困っている人がいる場合は、あいはあと事業のパンフレットや紹介をしてほしいことを、職員より利用会員、協会員に伝え、情報発信を依頼した。 ・住民の紹介による利用件数(121件うち12件) ・あいはあと事業利用者(高齢者)宅訪問時は、担当ケアマネジャーに同行依頼し、関係機関との顔の見える関係づくりを行った。 ・協会員ミーティングにて活動紹介を行い、地域の支え合い活動であることを共有し、協会員の活動意欲の維持・向上を図った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
住民の紹介による利用件数	目標値	10件	10件	10件	15件	15件
	実績値	14件	17件	12件		
進捗状況及び自己評価	利用会員・協会員による紹介で利用につながるケースが毎年度あり、広報紙等の広報媒体からの情報だけでなく、人と人とのつながりの中から支援につながっていく地域の支え合い活動を展開することができた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	地域の支え合い活動であるあいはあと事業の周知・啓発のため、広報紙・SNSだけでなく、地域住民が気軽に情報を手に入れられる場所・手段について検討が必要である。
今後の取り組み方針	・地域住民への情報発信者となってもらえるよう利用会員・協会員に事業の地域の支え合い活動という趣旨説明を伝えていく。 ・引き続き、広報紙やSNSにて事業の周知を行いながら、新しい手法も検討していく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

社協で得た情報、知識を地域に伝えていく。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(8)支え合い・助け合いの気持ちの醸成				
	事業名	①教職員対象の研修会の実施				
	事業の概要	福祉教育の推進には、教職員や福祉教育に携わる人の理解と連携が必要不可欠です。そのために、小・中・高等学校の教職員や地域の福祉教育に携わる人を対象に、具体的な事例や福祉体験等を取り入れ、より充実した研修会を継続的に実施していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・朝霞市、和光市、志木市、新座市社協のボランティアセンター共催で「朝霞地区四市福祉教育研修会」を開催した。四市の担当職員が打ち合わせを重ね、内容や実施方法の検討を行い、実施した。 参加者：四市合計：45人（朝霞市：8人） ・市内小・中・高等学校に案内と福祉教育のメニューを送付し、小・中学校の校長会・教頭会議に出席し、口頭でも周知を行った。 ・次年度に向けて、教職員の参加が増え福祉教育の充実が図れるよう、教育委員会と打合せを行った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
教職員向けの研修会の開催	目標値	1回	1回	1回	1回	1回
	実績値	1回	2回	1回		
進捗状況及び自己評価	・教職員や福祉教育に携わる人の理解と連携を目的に、障害のある方の講演や教職員からの事例発表、大学講師による講演等を盛り込んだ「四市福祉教育研修会」を開催することで、福祉教育への理解を深めることができた。 ・他市に比べ朝霞市の教職員の出席が少なかった。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	教育現場での福祉教育の実践にあたっては、指導する教職員の理解が不可欠であり、より多くの研修参加者を募る必要がある。
今後の取り組み方針	四市福祉教育研修会においては、福祉教育の推進に携わる小・中・高等学校の教職員の参加者が増えるよう、教育委員会との連携を深めるとともに、周知啓発に努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

研修会で得た知識・経験を子どもたちに伝えていく。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(8)支え合い・助け合いの気持ちの醸成				
	事業名	②他機関と連携した福祉教育の実施				
	事業の概要	毎年、小・中学校の総合的な学習の時間において、当事者の講演や体験等によるさまざまな福祉教育を実施してきました。今後は、社協で実施してきた福祉教育を、市内の施設等の協力を得ながら、子どもから大人までを対象とした、支え合い・助け合いの気持ちを醸成する福祉教育として実施していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・小中学校での福祉教育の実践では、各小中学校へ福祉教育メニュー等を送付した他、教育委員会と連携し、校長会・教頭会に出席し、周知啓発を行った。 ・小中学校での福祉教育の実践では、社協職員だけではなく、障害のある方や福祉教育サポーター（ボランティア）の協力を得て、実施した。 ・出前講座として、地域福祉活動団体主催のイベントで福祉体験（視覚障害と指先の不自由さの体験）を実施した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
福祉教育の実施	目標値	50回	50回	55回	55回	60回
	実績値	64回	96回	100回		
進捗状況 及び 自己評価	通年で学校から依頼があり、障害のある方や福祉教育サポーターの協力を得て実施することで、支え合い・助け合いの気持ちを醸成する福祉教育を深めることができた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	・小学校での福祉教育の実施が中心であり、中学校や高校、地域住民等からの依頼が少ない。 ・福祉教育の実践に協力してくれる福祉教育サポーター（ボランティア）を増やす必要がある。
今後の取り組み方針	・福祉教育（出前講座での実践等含む）について、紙媒体やSNS等で情報を発信し、周知を図る。 ・福祉教育サポーター（ボランティア）を増やすために、社協主催の講座等で周知啓発を行う。

3 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

福祉教育の体験学習等に参加して、支え合い・助け合いの気持ちを育む。

4 推進委員会の意見（評価）

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	総務課 地域福祉推進課 高齢者・児童福祉課	係 名	
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(9)地域での見守りの充実				
	事業名	①住民参加による見守り事業の推進				
	事業の概要	住み慣れた地域で安心して暮らしていくためには、日頃から顔が見える、声をかけあえる関係が必要です。そのために、地域住民が主体となって見守り活動ができるよう、ボランティアや事業協力者、講座参加者に働きかけを行い、子どもたちの登下校時等における地域の見守りの目の強化について啓発していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・あいはいと事業新規協会員向け講習会・協会員フォローアップ研修会にて、互助の助け合いや地域の見守りの重要性、日頃から気づいてほしい点を紹介した。(8) ・あんしんサポートねっと事業の生活支援員交流会において、地域の見守り活動について周知啓発を行った。(1) ・生活福祉資金貸付事業で関わった民生委員に見守り活動の周知啓発を行った(4) ・総合福祉センターの1階談話コーナー等で、地域住民の見守り活動の推進に係る資料の掲示を行った。(1) ・地域包括支援センター主催の徘徊高齢者声掛け訓練に協力し、参加者に声掛けについてのアドバイスや重要性について情報共有することができた。(1)					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
見守り活動の啓発	目標値	10回	10回	15回	15回	20回
	実績値	4回	10回	15回		
進捗状況 及び 自己評価	あいはいと事業新規協会員向け講習会・協会員フォローアップ研修会、あんしんサポートねっと事業の生活支援員交流会等にて、社協事業の協力者を中心に、見守り活動についての周知啓発を図ることができた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	社協事業の利用者への見守りの強化について周知啓発できたが、地域の見守りの目の強化にまでは至っていない。
今後の取り組み方針	社協とつながりのあるボランティアや協力員を中心に、見守り活動の周知啓発を行い、地域住民による地域の見守りの目を増やしていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

高齢者や障害のある人、子どもなどへの見守りや声掛けを行う。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	総務課 地域福祉推進課 高齢者・児童福祉課 あさか福祉作業所 はあとびお福祉作業所	係 名	
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(10)情報共有・発信の充実				
	事業名	①分かりやすい福祉情報の提供				
	事業の概要	広報紙「社協あさか」、ホームページ等を用いて多くの福祉情報を提供していますが、今後は、誰もが必要な時に、必要な情報を得ることができるよう、従来の広報手段に加え、YouTube、ホームページ及びSNS等を活用し、分かりやすい地域の福祉情報の提供に努めます。また、各種イベント等の顔の見える環境において、社協のサービスや福祉情報の周知を行っていきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・朝霞社協全体で、ホームページ、X(旧ツイッター)(1,709回)、フェイスブック(1,578回)、YouTube(150回)を使用した情報発信を行った。 ・社協内で、SNSの発信回数の目標を定め、各部署にて情報発信を行った。 ・広報紙「社協あさか」(4月号、7月号、10月号、1月号)、ボランティアニュース(7月号、2月号、3月号)、手話ニュース(春・夏・秋・冬)を発行した。また、広報あさかに記事掲載を依頼した。(18)					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
福祉の情報提供	目標値	SNS 200回 紙媒体 20回	SNS 210回 紙媒体 20回	SNS 230回 紙媒体 23回	SNS 240回 紙媒体 23回	SNS 250回 紙媒体 25回
	実績値	SNS 140回 紙媒体 18回	SNS 242回 紙媒体 21回	SNS 286回 紙媒体 18回	SNS 紙媒体	SNS 紙媒体
進捗状況及び自己評価	・社協ホームページ・X(旧ツイッター)・フェイスブック・ユーチューブや広報紙等、SNS、紙媒体の両方を活用することで、多くの福祉情報を提供することができた。 ・SNSについて、毎月の発信回数の目標を決めたことで、意識的に情報発信を行い、回数の増加につながった。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	・情報媒体ごとの利点を理解し、わかりやすい単語や写真を使う等、より効果的な情報提供を行う必要がある。 ・地域住民と顔の見える環境での福祉情報の提供をより図っていく必要がある。
今後の取り組み方針	・引き続き、多様な情報媒体を使って、福祉の情報提供を行う。 ・社協主催の講座や地域の活動団体等の活動場所や主催イベント等で、広報紙等を配布し、広く情報を提供する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

「社協あさか」を読み、福祉サービスの情報を得る。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	総務課	係 名	
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(10)情報共有・発信の充実				
	事業名	②メディア戦略の強化				
	事業の概要	複雑化・多様化する情報社会に対応するため、広報紙「社協あさか」等の既存の媒体に加え、SNSや新しいツールを弾力的に活用して、正確で鮮度の良い社協の情報や地域の情報の提供を目指し、メディア戦略の強化を図っていきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・市民活動ステーションのメールマガジンに、ボランティアセンターの情報を掲載してもらった。 ・外部の子育てサイトに、児童館の情報を掲載してもらった。 ・コミュニティFMラジオ(775ライブラリーFM)に、社協の講座の情報を提供し、宣伝してもらった。 ・募金活動の説明の動画を作成し、ユーチューブにて限定公開した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
広報紙等の設置先の拡大	目標値	2件	2件	2件	2件	2件
	実績値	5件	0件	1件		
進捗状況 及び 自己評価	・広報紙の設置先の拡大には至らなかったが、行政(市民活動ステーション)・企業・外部の子育てサイトと連携し、SNS等にて情報提供してもらうことで、より広く福祉の情報を提供することができた。 ・募金説明会に出席できない自治会・町内会に向けて、募金活動の説明の動画を作成し、ユーチューブにて限定公開し、情報の提供に努めたが、多くの視聴には至らなかった。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	社協が持っている情報手段だけではなく、関係機関と連携し、幅広く情報提供できる体制づくりが必要である。
今後の取り組み方針	引き続き、関係機関等に、広報紙の設置先の拡大や情報提供の協力について、連携を図っていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

福祉サービスの情報を得るための「社協あさか」の設置場所を紹介する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(11)地域福祉を支える団体の活性化・人材の育成				
	事業名	①福祉活動団体に対する活動支援				
	事業の概要	身近な地域での見守り・支え合いの基盤となる自治会・町内会や福祉活動団体等に対して継続的な活動ができるよう助成等の支援を行います。また、団体と連携・情報共有し、地域福祉に参画する住民の増加や地域の活性化を図ります。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・福祉活動団体相談連絡件数(電話・訪問含む):延べ214件 ・社協支部活動費助成金及び広報折込料助成金を交付し、自治会・町内会への活動支援を行った。(社協支部活動費及び広報折込料:68件) ・赤い羽根共同募金等を財源とした地域福祉活動助成金(サロン・会食団体を除く)を交付し、地域福祉活動団体への活動支援を行った。(運営費:19件、事業費:7件) ・地域歳末たすけあい募金を財源とした歳末援護金(サロン・会食団体を除く)を交付し、新年を迎える時期に支援を必要としている人へ支援を行うため活動している地域福祉活動団体へ活動支援を行った。(11件) ・社協の地区活動において、住民主体の活動(「どんぐりの会」「わくわくフェスタin朝霞」「朝霞の森秋まつり」)への活動支援やブースの出展協力等を行った。(13件)					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
自治会・町内会・福祉活動団体等への相談・支援	目標値	210件	210件	210件	220件	220件
	実績値	259件	317件	332件		
進捗状況及び自己評価	自治会・町内会、福祉活動団体に助成金を交付したり、相談支援を行った。あわせて、社協が設定した6つの福祉圏域に担当職員を地区割し、各地区ごとに、住民主体の活動の支援を行ったことで、地域の福祉活動の活性化を図ることができた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	より多くの自治会・町内会や地域福祉団体等と顔の見える関係づくりを行う必要がある。
今後の取り組み方針	・福祉活動団体等に対して、助成金交付及び情報提供を継続的に行う。 ・福祉活動団体等の活動の場に訪問し、顔の見える関係づくりができるよう努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

身近な地域活動に参加する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	総務課	係 名	
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(11)地域福祉を支える団体の活性化・人材の育成				
	事業名	②手話講習会の実施				
	事業の概要	市からの受託事業の取組として、登録手話通訳者を育成するため、段階的に手話講習会を実施します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	手話講習会(昼間:中級・養成、夜間:養成)を実施した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
登録手話通訳者数	目標値	10人	10人	11人	12人	13人
	実績値	11人	10人	9人		
進捗状況 及び 自己評価	熟練度にはばらつきはあるが、講習会受講に対する受講生の意識は高く、将来的な手話通訳者の増加に向けて、人材育成を行うことができた。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	毎年度、通訳者養成講習会を開催できないため、講習会受講生からの受講申し込みを見込めない年度が発生する。
今後の取り組み方針	通訳者養成講習会の受講に向けて、受講生の知識・技術の向上とともに、モチベーションが維持できるよう、人材育成に努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

担い手になりそうな人に声をかけて、人材を育成していく。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	高齢者・児童福祉課	係 名	
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(11)地域福祉を支える団体の活性化・人材の育成				
	事業名	③老人クラブに対する活動支援				
	事業の概要	高齢者が地域で楽しく豊かに充実した生活を送るための地域コミュニティの一つである老人クラブについて、市民の認知度を上げるとともにスポーツ及び芸能文化活動等の支援を行います。また、長年の知恵と経験のある会員の技能を活用した支え合い活動がより効果的に展開されるよう支援していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・老人クラブ連合会の年間事業の検討や予算編成などの会議に参加し、協議を行った。(29) ・老人クラブの定例会に、社協職員が出向き介護予防体操(365歩のマーチ)や防犯講習会を行う等の支援を行った。(58)					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
相談支援件数	目標値	43件	43件	53件	53件	64件
	実績値	33件	44件	87件		
進捗状況 及び 自己評価	・老人クラブ連合会への支援を行うことで、コロナ禍以前のような老人クラブ主催の年間行事の実施につながった。 ・定例会を実施しているクラブについては、社協職員が介護予防体操を行ったり、社協について説明する機会を設ける等、高齢者が地域で楽しく豊かな生活が送れるよう支援することができた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	年間事業の参加者を増やすためにどのような企画・運営をしたらよいかを老人クラブ連合会と協議する必要がある。
今後の取り組み方針	・年間事業の実施について、老人クラブ連合会と協議し、クラブ会員への周知に努める。 ・高齢者が地域で楽しく豊かな生活が送れるように、介護予防体操を実施する等の支援に努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

地域の老人クラブ活動に参加する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(11)地域福祉を支える団体の活性化・人材の育成				
	事業名	④ボランティア講座の開催(再掲)				
	事業の概要	地域のボランティアニーズを把握し、ボランティアニュースや社協ホームページ・ツイッター等のSNSを用いて広く発信します。また、地域福祉の担い手となる人材育成を目的とした講座等、参加する側が選択できる様々な目的別の講座を開催し、講座後も継続的に参加者の支援を行います。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・あいはあと事業新規協力会員向け講習会(6) ・彩の国ボランティア体験プログラム説明会(2) ・ボランティア講座～ふくしをみんなde学び隊～(1)					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
ボランティア講座の開催回数	目標値	7回	8回	8回	9回	10回
	実績値	17回	7回	9回		
進捗状況及び自己評価	・あいはあと事業新規協力会員向け説明会を会場とオンラインで開催した。また、講習会の日程に都合がつかない方に対しては、個別に説明を行ったことで、地域で活動する新たな協力者を増やすことができた。 ・彩の国ボランティア体験プログラムの説明会では事業の説明だけでなく、ボランティア活動とは何かについて説明し、理解してもらったうえで活動に参加してもらうことができた。 ・ボランティア講座では、学びの機会の提供、またボランティア活動のきっかけづくりとなるような講座として実施した。昨年度とは異なる地域で開催することにより、周辺の地域の担い手の育成につながった。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	多くの地域住民に講座に参加してもらえるよう、会場の検討や講座内容の充実を図る必要がある。
今後の取り組み方針	令和5年度とは異なる地域で、ボランティア活動を始めるきっかけとなるような講座を開催し、地域の担い手の育成に努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

講座に参加して得た知識や経験を活かし、地域で活動をする。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(11)地域福祉を支える団体の活性化・人材の育成				
	事業名	⑤地域活動団体間の交流事業				
	事業の概要	朝霞市ボランティアセンターでは、地域福祉を支える団体の活性化を図るため、個々の団体への支援だけでなく、市が設置する市民活動支援ステーションと共催で、地域活動団体の交流事業を実施していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・市民活動支援ステーション主催の地域デビュー支援セミナーにおいて、協働によりボランティアセンターのブースを設けた。(1) ・地域福祉活動団体間の交流事業としてサロン交流会を実施した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
地域活動団体交流事業	目標値	1回	1回	2回	2回	2回
	実績値	6回	1回	2回		
進捗状況 及び 自己評価	・市民活動支援ステーションと協議を行い、市民活動支援ステーション主催のイベントに参加したり、ボランティア保険受付出張窓口の場所を借用する等、連携を深めることができた。 ・市民活動支援ステーションとの共催ではないが、地域福祉活動団体の交流事業としてサロン交流会を実施することで、地域福祉を支える団体の活性化を図ることができた。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	市民活動支援ステーションとの連携はとれているが、共催で交流事業を実施するまでには至っていない。
今後の取り組み方針	市民活動支援ステーションとの連携を強化しつつ、地域福祉活動団体の交流会の実施等、団体の活性化を図ることに努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

地域活動の活性化のために、ボランティアに参加する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(12)施設等の整備・充実				
	事業名	①地域の人が集える拠点(場)づくり				
	事業の概要	住民主体の地域活動を活性化していくには、地域の情報共有や取組について、地域住民が気軽に集まって話し合える拠点(場)が必要とされています。そのために、拠点(場)となる場所について、空き家や営業店舗の一部分等の情報収集を行い、地域住民が気軽に利用しやすい場作りについて活用可能か検討していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・生活支援コーディネーター会議にて、地域住民が集える場所等の情報共有を行った。(1) ・ふれあいさいきサロンの活動場所のコーディネートを行った。(1) ・市内高齢者施設を見学し、施設の一部スペースの有効活用について意見交換を行った。(1)					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
拠点の調査・開拓	目標値	3件	3件	3件	6件	6件
	実績値	4件	2件	3件		
進捗状況 及び 自己評価	・生活支援コーディネーター会議での情報共有によって、より多くの地域資源の情報を得ることができた。 ・市内高齢者施設の一部スペースの有効活用について意見交換を行うことで、協力関係を築くきっかけとなった。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	拠点として活用できる場の情報収集が必要である。
今後の取り組み方針	関係機関と情報共有を行いながら、拠点として活用できる場の情報収集および開拓に努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

地域の人が集える場について情報提供する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	総務課 高齢者・児童福祉課 あさか福祉作業所 はあとびあ福祉作業所	係 名	
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(12)施設等の整備・充実				
	事業名	②施設の点検・修繕				
	事業の概要	社協が管理運営する施設において利用者が安心・安全に施設利用ができるよう、日頃から施設内外の点検を継続的かつ定期的に行っていきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・利用者が安心・安全に施設利用できるよう、社協が管理運営する全施設において、建物及び設備の定期的な点検・保守を実施した。 ・必要に応じて施設及び設備の修繕を行った。 ・事故、破損につながらないように、備品等の設置場所の環境整備を必要に応じて実施した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
点検施設数	目標値	21か所	21か所	21か所	21か所	21か所
	実績値	21か所	21か所	21か所		
進捗状況 及び 自己評価	・施設及び設備の定期的な点検(業者による法定点検や職員による施設及び公用車等の点検等)を実施し、安全な施設運営に努めた。 ・修繕が必要となった箇所については、行政と協議しながら、利用者の安全を優先順位として修繕等を行った。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	・施設・設備の老朽化により、修繕箇所が増え、それに伴い費用も増加する施設が出ている。 ・指定管理事業の範囲では実施できない高額な修繕も発生しているため、市担当課との情報共有・連携が必要である。
今後の取り組み方針	・点検・保守・修繕を実施して、利用者が安心・安全に利用できる施設運営に努める。 ・職員の施設等の安全管理に関する意識の向上に努める。 ・施設内設備の老朽化が懸念される施設においては、稼働状況に注意しながら管理を行う。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

施設のルールを守り、有効に活用する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(13)防災対策の充実				
	事業名	①災害ボランティア講座の実施				
	事業の概要	災害は全て想定内で起こるとは限りません。想定外のことも踏まえ普段から地域のつながりや防災意識を高めるため、これまでも災害ボランティア講座を開催してきました。今後さらに地域住民同士が支え合う意識の醸成を図るため、地域住民や社協職員を対象とした講座を開催します。また、災害ボランティアとして活動できる人材を増やしています。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・被災地における災害ボランティアセンターの運営支援について、被災地に派遣された職員を講師として、社協担当課にて、報告会を行った。(1) ・埼玉県社協主催の災害対応力強化研修(マネジメント編)に職員が出席した。 ・社協職員で能登半島地震災害義援金の街頭募金を行った。 ・朝霞市総合防災訓練において防災の工作教室を開催した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
災害ボランティア講座	目標値	1回	1回	1回	1回	1回
	実績値	0回	1回	1回		
進捗状況 及び 自己評価	・災害ボランティアセンターに関する報告会を社協内で開催したり、埼玉県社協等が主催した研修に出席することで、職員の災害ボランティアに関する知識が深まった。 ・社協職員による街頭募金の実施や朝霞市総合防災訓練に参加することにより、地域住民・行政とのつながりを深め、地域の防災意識を高めるきっかけづくりができた。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	防災や災害ボランティアについて、地域住民に、より理解を深めてもらうことができるような仕掛けづくりが必要である。
今後の取り組み方針	地域住民を対象に、災害時の対応について、意識の醸成を図ることができるような講座を企画する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

災害ボランティア講座で得た知識を家族や周りの地域住民に伝える。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(13)防災対策の充実				
	事業名	②災害ボランティアセンター設置訓練の実施				
	事業の概要	災害ボランティアセンターは、社協職員だけでは運営が難しいとされています。そのため、災害発生時、社協が災害ボランティアセンターを設置・運営していくためには、継続的な訓練が必要です。社協職員に限らず、行政や地域住民にも参加を呼びかけ、横のつながりを確認しながら訓練に取り組んでいきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・災害ボランティアセンター設置時に使用する資機材の充実及び点検を行った。(1) ・朝霞市と災害ボランティアセンターの設置・運営等に関する協定を締結した。 ・社協内の全ての部署において、災害用伝言ダイヤル171を使用した安否確認訓練を実施した。 ・埼玉県社協の依頼に基づき、被災地の災害ボランティアセンター運営支援として職員を派遣した。 ・埼玉県社協等が主催する災害ボランティアセンター関連研修に社協職員が出席した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
災害ボランティアセンター設置訓練	目標値	1回	1回	1回	1回	1回
	実績値	1回	1回	1回		
進捗状況及び自己評価	・資機材の充実及び点検を行ったり、行政と協定を締結したり、職員の安否確認訓練を行うことで、災害ボランティアセンターの設置について体制整備を図ることができた。 ・被災地への職員派遣や埼玉県社協等が主催した研修会に参加することで職員の知識と経験が深まった。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	・市(福祉相談課・危機管理室等)との情報共有・連携を深めていくことが必要である。 ・社協内の災害ボランティアセンターの運営体制について、検討していく必要がある。
今後の取り組み方針	・災害ボランティアセンターの運営体制等について検討し、設置・運営マニュアルの見直しを図る。 ・職員の意識の向上を図るため、引き続き災害ボランティアセンターに関する研修等の情報を、全部署に配信し参加を促す。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

災害ボランティアについて関心を持ち、社協が開催する講座等に参加する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	総務課 高齢者・児童福祉課 あさか福祉作業所 はあとびあ福祉作業所	係 名	
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(13)防災対策の充実				
	事業名	③防災訓練の実施				
	事業の概要	社協が管理運営する施設において、火災や自然災害を想定した防災訓練を実施し、平時から災害に備えるとともに、施設利用者や地域住民に対して防災意識の啓発に努めます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・施設利用者と職員等含めて、火災・地震・水害等を想定した避難訓練を実施した。また消防設備機器等の操作訓練(消火や通報等)を行った。 ・地震発生時の初動行動の訓練(シェイクアウト訓練)を行ったり、水害時の避難場所が離れている施設においては徒歩での避難訓練を行ったり、複合施設では合同の避難訓練を実施したり、施設の防災訓練に自治会・町内会の参加があったり、土日勤務者向けの消防設備説明会を開催する等、それぞれの施設で防災訓練を行った。 ・社協内の全ての部署において、災害用伝言ダイヤル171を使用した安否確認訓練を実施した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
防災訓練の実施設数	目標値	21か所	21か所	21か所	21か所	21か所
	実績値	21か所	21か所	21か所		
進捗状況 及び 自己評価	・法令に定める訓練(避難・消防等)を実施し、安心して地域住民に施設を利用してもらえるよう体制整備を行うことができた。 ・施設ごとに、その立地、利用特性に応じた訓練を行い、職員・利用者等に防災意識の啓発ができた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	職員、利用者、地域住民を巻き込んだ防災訓練を継続して実施していく必要がある。
今後の取り組み方針	法令に定める消防訓練・避難訓練を行い、平時から災害に備えるとともに、利用者だけでなく地域住民にも声かけして参加してもらえる訓練を企画する等、防災意識の向上に努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

日頃から防災への開催を持ち、施設等が行う防災訓練に参加する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(13)防災対策の充実				
	事業名	④小地域福祉活動における防災事業の相談支援				
	事業の概要	自治会・町内会やボランティア団体が行う防災関連事業に対し、災害発生時の初期対応や身の回りにあるもので作れる防災グッズ等の情報提供を行ってきました。今後は、災害時の様々な場面で役立つ情報や災害関連の講座案内等、地域住民の支え合いによる防災活動について社協から情報発信を行いつつ相談支援を行っていきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・自治会・町内会における防災事業について、事前の連絡会議に参加し、当日は災害時に役立つ工作教室を行うブースを設けた。(1) ・朝霞市総合防災訓練(防災フェア同時開催)やふれあいいきいきサロンへの出前講座で、災害時の役立つ紙食器等の工作教室を行った。(2) ・自治会・町内会における防災訓練に参加した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
防災関連情報の周知・啓発・相談支援	目標値	3件	3件	3件	6件	6件
	実績値	3件	4件	3件		
進捗状況及び自己評価	・災害時に役立つ紙食器等の工作教室の開催を通して、地域住民に向けて災害に対する意識の醸成を図ることができた。 ・地域の防災訓練に参加することを通して、自治会・町内会の防災事業への支援を行い、顔の見える関係づくりができた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	災害関連の講座の開催や地域住民の支え合いによる防災活動への参加について、広く地域住民に周知啓発を図る必要がある。
今後の取り組み方針	・市が主催する防災に関するイベントに参加したり、災害ボランティア講座を企画する等、地域住民に向けて災害に対する意識の醸成を図る。 ・社協が主催する講座やボランティア・小学校区等の団体が実施する防災に関するイベント等について、SNSや広報紙等を活用して周知啓発を行う。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

日頃から防災に関心を持ち、地域で実施する防災訓練等に参加する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	高齢者・児童福祉課	係 名	
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(14)防犯対策の充実				
	事業名	①子どもへの防犯教室の実施				
	事業の概要	社協が管理運営する児童を対象とした施設において、自分の身を守るために普段からできること等、分かりやすく防犯について学ぶための機会を提供します。また、施設間でも防犯対策について情報を共有し、防犯対策の充実を図っていきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・社協が運営する放課後児童クラブにて、防犯教室を開き、児童が防犯を学ぶ機会を提供した。(10) ・放課後児童クラブ主任会議や児童館長会議にて、地域の防犯に関する情報や対策について、情報交換を行った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
子どもへの防犯教室	目標値	10回	10回	10回	10回	10回
	実績値	9回	10回	10回		
進捗状況 及び 自己評価	・放課後児童クラブにて、社協職員が紙芝居や寸劇で防犯教室を開催し、児童に伝わりやすい工夫を行うことで、子どもたちに学ぶ機会を提供できた。 ・放課後児童クラブや児童館の職員間で情報共有することで、地域の防犯に対する意識の向上につながった。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	様々な事案に応じた防犯教室を開催する必要がある。
今後の取り組み方針	子どもたちが、自分で自分の身を守るような知識が増えるよう、防犯教室を継続して開催していく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

身近な地域での見守りや防犯活動に参加する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課 高齢者・児童福祉課	係 名	地域福祉推進係
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(14)防犯対策の充実				
	事業名	②住民の防犯への意識の啓発				
	事業の概要	地域住民に対して、朝霞警察署と社協の見守りネットワークの協定により提供される「地域防犯支援情報」を活用した情報提供を行います。また、社協が開催する講座や研修会、集い等の場でも地域の中で取り組んでいる防犯活動の事例を紹介・周知し、防犯意識を高める啓発を行っていきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・朝霞警察署より提供される地域防犯支援情報について職員間で情報共有を行った。(1) ・社協が運営する老人福祉センターにて、埼玉県警察が作成した「特殊詐欺」に関する注意喚起やクーリングオフに関する情報等のポスター掲示したり、チラシを配布し、利用者へ情報提供した。また、スマホ相談にて、迷惑メールの対応方法を利用者に伝えた。(3) ・老人クラブ連合会理事会にて、消費者生活支援センターからのクーリングオフについてのチラシを配布した。(1) ・社協が運営する放課後児童クラブにて、朝霞市からの不審者情報等を周知し、児童及び保護者に情報提供を行った。(10) ・朝霞警察署との見守りネットワークの協定に基づき、放課後児童クラブから防犯に関する相談を行った。(1)					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
防犯関連情報の周知・啓発	目標値	20件	20件	20件	25件	25件
	実績値	13件	17件	16件		
進捗状況 及び 自己評価	・社協が運営する施設にて、防犯に関する注意喚起、啓発活動を行い、施設利用者の防犯に対する意識付けを行うことができた。 ・職員間で情報を共有することで防犯意識の醸成を図ることができた。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	防犯情報を周知するために、防犯の知識・情報を有している関係機関との連携を図る。
今後の取り組み方針	・チラシや印刷物など紙媒体を用いた情報提供を継続して行う。 ・地域や施設で行われる講座等で防犯に関する情報提供を行う。 ・ご近所同士が顔見知りになることが、その地域の防犯につながることを地域住民に周知啓発する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

自分たちの安全は自分たちで守るという意識を持ち、日頃から防犯に関する情報への関心を高める。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(15)外出・移動の支援				
	事業名	①障害のある人や高齢者の外出支援				
	事業の概要	障害のある人や高齢者が地域で安心して暮らしていくためには、外出時の手段も大切な役割を担っています。その手段の一つである住民による生活支援サービス「あいはあと事業」により、外出を支援していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	あいはあと事業で、高齢者等の買い物や通院の同行の支援の依頼はあったが、利用には至らなかった。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
外出支援活動件数 (あいはあと事業)	目標値	30件	30件	35件	35件	35件
	実績値	31件	27件	0件		
進捗状況 及び 自己評価	定期的に利用していた利用会員からの依頼がなくなったため、外出支援の活動実績は0件だった。通院同行の相談はあったが、身体介助が必要であったり、活動先が市外であったため、利用には至らなかったが、居宅介護支援事業所からの相談の連絡はあるため、外出支援のための社会資源の一つとして認知されていると思われる。					
	C	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	外出支援の相談はあるが、身体介助などの理由により、利用には至らないことが多い。
今後の取り組み方針	あいはあと事業にて、外出を支援する活動(利用会員の身体や車いす等にあふれる内容は除く)があることを事例紹介等を通じて周知する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

身近な地域の支え合いにより、外出を支援する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(15)外出・移動の支援				
	事業名	②車いすの貸出し				
	事業の概要	けがをして車いすが必要になった、病院から退院する際に車いすを使いたい等、生活の中で短期的に車いすを必要とする人へ貸出しを行います。貸出し時には、操作方法について説明し、車いす利用時の事故を予防していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・自立歩行の困難な方の社会参加を促進し、また、介護者の日常介護活動を援助し、在宅福祉の増進を図るため、社協で所有する車いすの貸出しを行った。(51) ・適宜、メンテナンスを行った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
車いすの貸出し	目標値	55件	55件	60件	60件	60件
	実績値	61件	64件	51件		
進捗状況 及び 自己評価	・広報紙やSNSでの周知の効果もあり、初めての利用の方も多く見られた。 ・ケガや病気等による緊急の貸し出しもあったが、柔軟に対応することができた。 ・ケガや病気等に限らず、高齢の家族がいる旅行等で使いたいというニーズにも対応することができた。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	利用者の中には、期限内に返却がなかったり、返却の連絡がなかなかとれないケースがあった。
今後の取り組み方針	・ケガ等による緊急の利用希望にも対応しつつ、高齢の家族の一時退院や帰省などの短期的・単発的なニーズにも役立ててもらえるように、周知啓発を行う。 ・貸し出し時に、ルールの確認を丁寧に行い、利用者の理解を得る。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

移動サービスの情報を地域の中で共有する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(16)住まいの確保等への支援				
	事業名	①生活困窮者等への支援				
	事業の概要	住宅の確保が困難な人に対し、住居に関する必用経費の相談や課題の整理を行い、必要に応じて生活福祉資金貸付等の支援を行います。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・住宅の確保が困難な人に対し、住居確保給付金の案内や食材支援等を行った。慢性的に困窮しており、貸付の対象にならない人には、生活保護への相談を勧めた。 ・低所得に該当しないが、生活費が不足しているという人に対して、生活状況と収支の確認を行い、家計の見直しを提案した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
住宅に関する相談件数	目標値	15件	18件	18件	20件	20件
	実績値	31件	22件	27件		
進捗状況 及び 自己評価	住宅の確保が困難な人に対し、本人の状況をよく確認・傾聴し、本人の生活課題に対応できそうな社会資源の情報を提供する等、住居が確保できるような支援に努めた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	低所得世帯ではないが、金銭の使い方により、住居確保が困難になっている相談者が増えている。
今後の取り組み方針	社会資源の情報収集等、複合的な相談にも対応できるように努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

住居確保が困難な方がいたら、社協等の相談窓口を紹介する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第5期朝霞市地域福祉計画及び第5期朝霞市地域福祉活動計画 計画の策定にあたって

少子高齢化の進行や核家族化の進展、コロナ禍等を背景に、障害者や子育て世代、生活保護などの生活困窮世帯などの潜在的に支援を要する方々の増加、さらに、高齢者のみ世帯の増加、80代の親が50代の子の生活を支える「8050問題」や、育児と介護の時期が重なる「ダブルケア」、子どもが介護や子育ての役割を日常的に担う「ヤングケアラー」など、地域の抱える課題が複雑化・複合化し、従来の支援体制では対応が難しいケースが見られるようになりました。

一方で、地域のつながりの希薄化が進む今日、地域福祉に求められる役割が大きくなっています。多様化する支援ニーズに対応し、誰もが安心して地域の中で暮らしていくためには、行政だけでなく地域住民とも協働し、全市総ぐるみの地域福祉の推進が特に重要となっています。

■地域福祉とは

「地域福祉」とは、誰もが住み慣れた地域で、自分らしくいきいきと暮らしていくための地域づくりを行うことです。

近年、少子高齢化や核家族化の進行、ライフスタイルや価値観の多様化などにより、生活課題や地域課題の多様化・複雑化が問題となっています。こうした中、支援の「支え手」「受け手」という関係を超えて、誰もが地域の中で役割をもちながら活躍できる社会である「地域共生社会」を実現することが求められています。

市民、ボランティア、NPO、事業者、行政、社会福祉協議会等が互いに協力し、助け合うことで、全ての人が暮らしやすい「地域共生社会」を実現しようというのが地域福祉の考え方です。

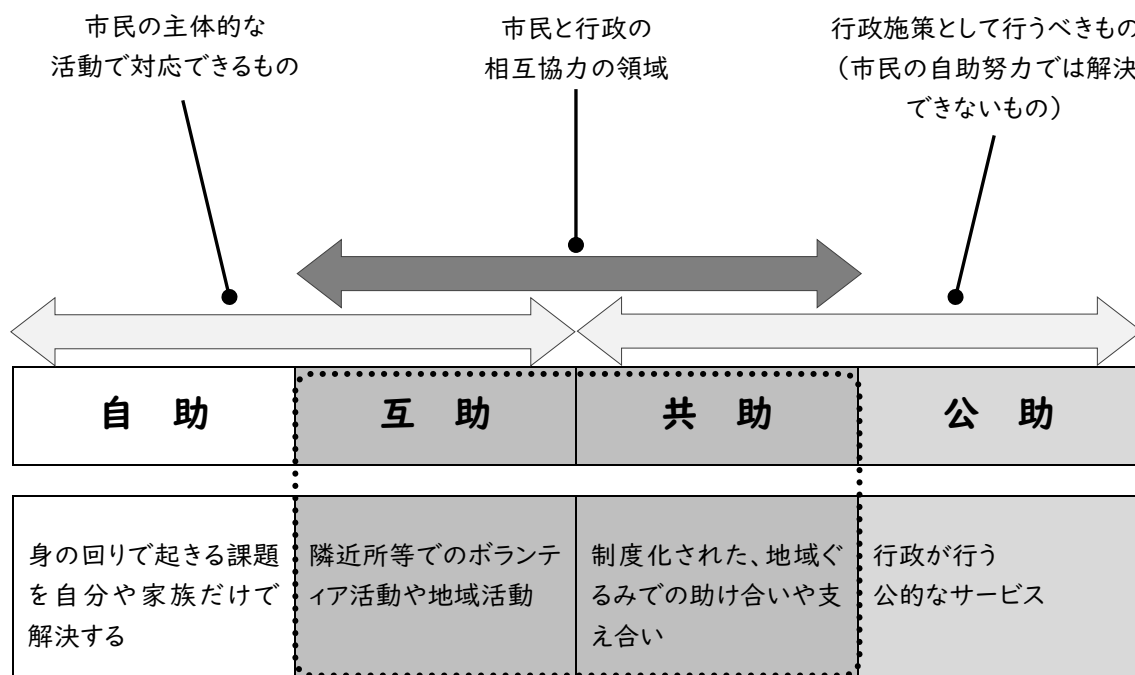


■自助・互助・共助・公助について

様々な生活課題について、住民一人ひとりの力で課題を解決する「自助」、近隣での助け合いである「互助」、制度化された相互扶助である「共助」、公的な制度による支援である「公助」の連携により、解決が図られています。

しかし今後、団塊の世代が後期高齢者となっていく中で、要介護認定者数や認知症高齢者数の大幅な増加が見込まれるなど、公的な支援だけでは地域を支えることが難しくなっています。

そこで、誰もが住み慣れた地域で暮らしていくためには、行政だけでなく、地域の中での住民同士の助け合いや支え合いである「互助」・「共助」を一層進めていく必要があります。



支え合いの取り組みを地域で協力して行う

たとえば・・・

日頃のあいさつや
見守り



地域活動への参加
地域での交流



地域での
ちょっとした手助け



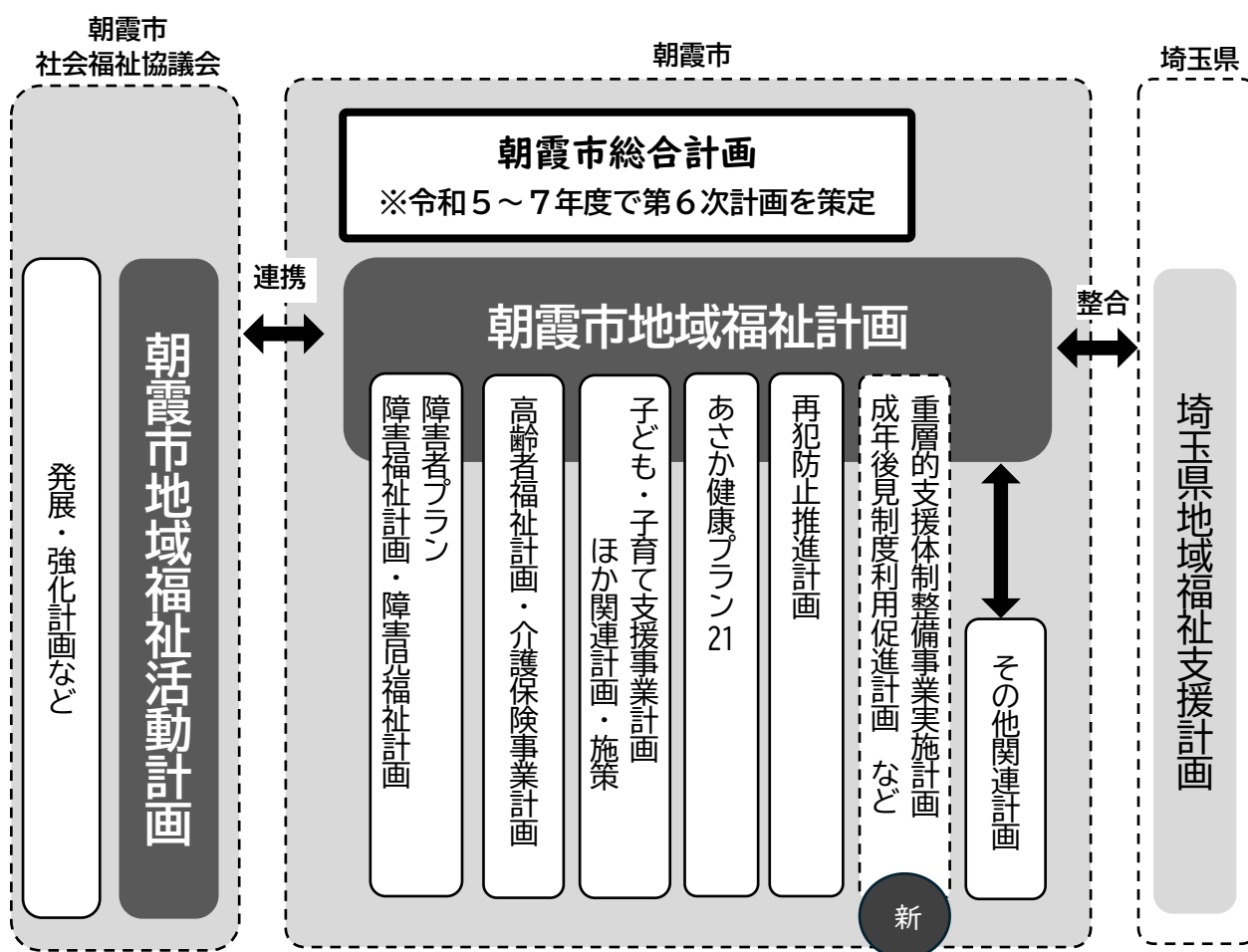
■計画の位置づけ

地域福祉計画は、社会福祉法第 107 条に基づく「市町村地域福祉計画」であり、地域福祉を推進するための「理念」と「仕組み」をつくる計画で、市が策定します。

地域福祉活動計画は、地域住民や民間団体が主体となった具体的な活動内容を記載する計画で、市社会福祉協議会（社協）が策定します。

市と社協では、それぞれの特徴を活かしながら地域福祉のさらなる推進を図るため、両者を一体的に策定します。

■第5期計画の位置づけイメージ



■計画の期間

本計画の計画期間は、令和8(2026)年度から令和12(2030)年度までの5年間です。また、社会情勢の変化等に応じて、適宜見直しを行います。

■重層的支援体制整備事業について

重層的支援体制整備事業では、市町村全体の支援機関・地域の関係者が断らず受け止め、つながり続ける支援体制を構築することをコンセプトに、「属性を問わない相談支援」、「参加支援」、「地域づくりに向けた支援」の3つの支援を一体的に実施することを必須にしています。

それぞれの事業は個々に独立して機能するものではなく、一体的に展開することで一層の効果が出ると考えられています。

3つの支援	事業の内容
包括的相談支援事業	・属性や世代を問わず包括的に相談を受け止める ・支援機関のネットワークで対応する ・複雑化・複合化した課題については適切に多機関協働事業につなぐ
参加支援事業	・社会とのつながりを作るための支援を行う ・利用者のニーズを踏まえた丁寧なマッチングやメニューをつくる ・本人への定着支援と受け入れ先の支援を行う
地域づくり事業	・世代や属性を超えて交流できる場や居場所を整備する ・交流・参加・学びの機会を生み出すために個別の活動や人をコーディネートする ・地域のプラットフォームの形成や地域における活動の活性化を図る

上記を支えるための事業	事業の内容
アウトリーチ等を通じた継続的支援事業	・支援が届いていない人に支援が届ける ・会議や関係機関とのネットワークの中から潜在的な相談者を見付ける ・本人との信頼関係の構築に向けた支援に力点を置く
多機関協働事業	・市町村全体で包括的な相談支援体制を構築する ・重層的支援体制整備事業の中核を担う役割を果たす ・支援関係機関の役割分担を図る

資料：厚労省 地域共生社会のポータルサイトより

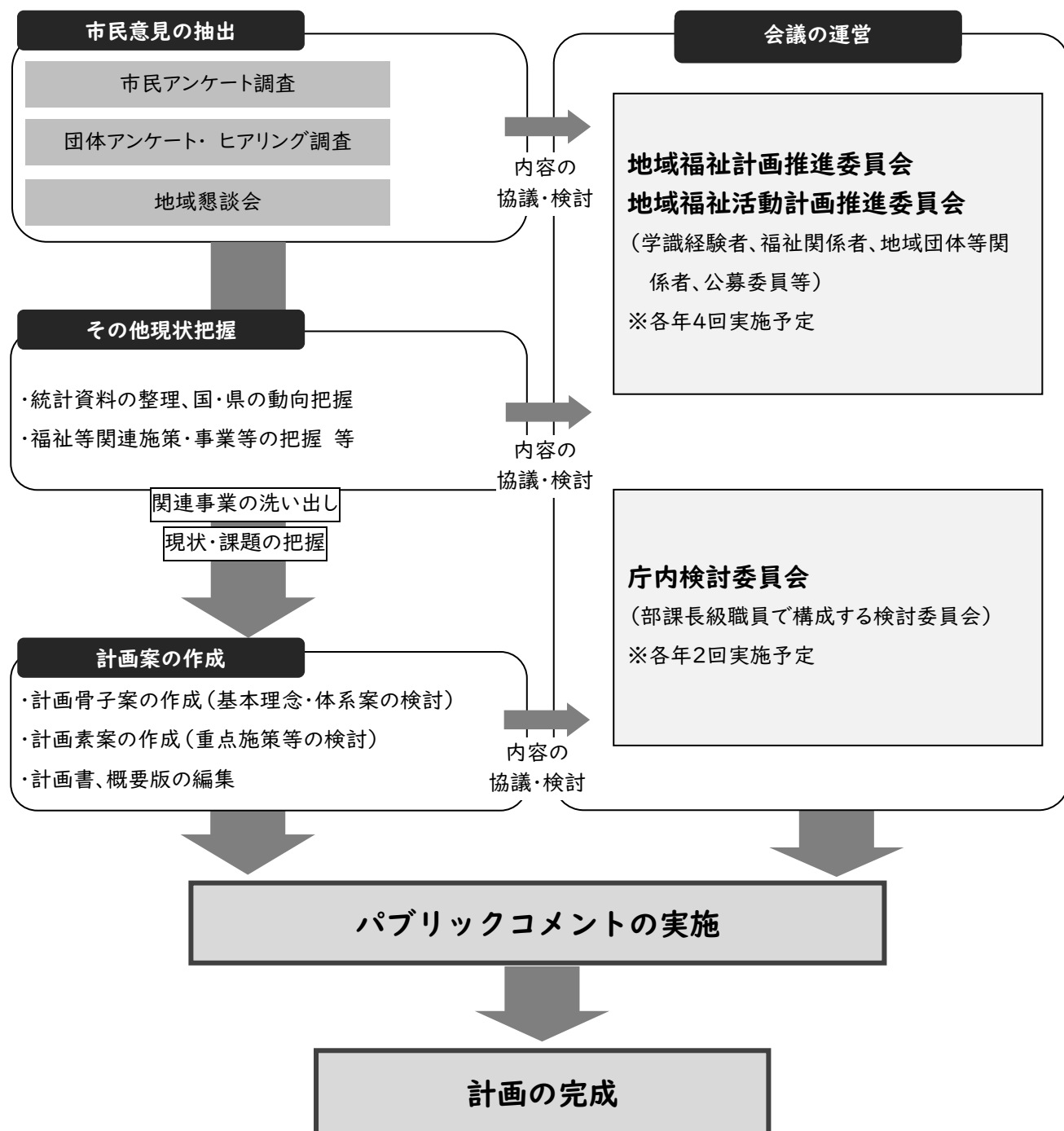
■近年の地域福祉を取り巻く主な制度改正等

令和元年	「『地域共生社会に向けた包括的支援と多様な参加・協働の推進に関する検討会』最終とりまとめ」の公表 ⇒包括的な支援体制を全国的に整備するための方策について検討を行うとともに、より広い視点に立って、今後社会保障において強化すべき機能や、多様な社会参加と多様な主体による協働を推進していく上で必要な方策について公表
令和2年	「改正児童虐待防止法」「改正児童福祉法」施行 ⇒改正法では、「体罰の禁止」の明記や、児童相談所（児相）の機能強化、児相と配偶者暴力支援センターの連携強化などを規定
令和3年	「改正社会福祉法」施行 ⇒令和3年4月の社会福祉法改正により、重層的支援体制整備事業が創設された。この事業は、市町村全体の支援機関・地域の関係者が断らず受け止め、つながり続ける支援体制を構築することをコンセプトに、「相談支援」「参加支援」「地域づくりに向けた支援」の3つの支援を一体的に実施することで、従来型の支援と新たなニーズとのギャップを埋めることを目指している
令和4年	「改正児童福祉法」成立 ⇒令和4年6月、「改正児童福祉法」が成立し、子育てに困難を抱える世帯がこれまで以上に顕在化してきている状況を踏まえ、子育て世帯に対する包括的な支援のための体制強化として市町村に「こども家庭センター」の設置や子育て家庭への支援の充実が努力義務化
	「第二期成年後見制度利用促進基本計画」閣議決定 ⇒令和4年3月、第二期基本計画が閣議決定され、R6年度末までに全市町村で基本計画を策定することとなる
	「生活困窮者自立支援のあり方等に関する論点整理」とりまとめ公表 ⇒令和4年4月、論点整理が公表され、今後社会保障審議会の関連部会において制度改正に向けた具体的な検討が進められることとなる
令和6年	「第7期埼玉県地域福祉支援計画」策定 【県】 ⇒令和6年3月、令和6～9年度を計画期間とする「第7期埼玉県地域福祉支援計画」を策定 第6期計画を継承しつつ、重層的支援体制整備事業構築への支援や地域の中の高齢者、子育て世代、生活困窮者や貧困世帯を含む、超高齢化・少子化等、埼玉県における顕著な傾向への対応や支援などが盛り込まれる
	「孤独・孤立対策推進法」公布 ⇒令和6年4月、深刻化する社会的な孤独・孤立の問題に対応するため、「孤独・孤立対策推進法」が施行

■計画の策定体制

本計画の策定にあたっては、以下の体制により、現状把握及び課題の抽出と計画内容の協議を進めます。

令和6年～令和7年



■計画策定スケジュール案

